

総合計画策定の基礎資料
市民意識調査報告書

平成 28 年 11 月

苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課

目 次

| | | |
|------|---------------------------------|----|
| 1 | 調査の概要 | 1 |
| 2 | 調査結果概要 | 3 |
| 3 | 調査結果 | 15 |
| (1) | 回答者属性 | 15 |
| 1. | 男女の別 | 15 |
| 2. | 満年齢 | 16 |
| 3. | 職業 | 17 |
| 4. | 世帯人数 | 18 |
| 5. | 世帯構成 | 19 |
| 6. | 住まいの種別 | 20 |
| 7. | 居住年数 | 21 |
| 8. | 通勤・通学地 | 22 |
| 9. | 居住地域 | 23 |
| (2) | 住み心地と定住意向について | 24 |
| 1. | 住み心地 | 24 |
| 2. | 定住意向 | 25 |
| 3. | 住み続けたい理由 | 26 |
| 4. | 市外に移りたい理由 | 28 |
| (3) | 施策の満足度と今後の重要度について | 32 |
| 1. | くらし・環境 | 32 |
| 2. | 福祉・保健・医療 | 34 |
| 3. | 教育・文化 | 36 |
| 4. | 都市基盤 | 38 |
| 5. | 産業 | 40 |
| 6. | 市政運営 | 42 |
| 7. | 満足度・重要度分析 | 43 |
| (4) | 地域活動について | 50 |
| 1. | 地域活動への関心度 | 50 |
| 2. | 現在参加している地域活動の有無 | 51 |
| 3. | 現在参加している地域活動の内容 | 52 |
| 4. | 今後（も）参加したい地域活動の内容 | 54 |
| (5) | これからの行政サービスのあり方について | 56 |
| (6) | 市民・企業・行政が連携・協力して進めることが必要な事項 | 58 |
| (7) | 苫小牧市と周辺自治体とで連携・協力が必要な事項 | 59 |
| (8) | 人口減少について | 61 |
| 1. | 人口減少の実感 | 61 |
| 2. | 人口減少による影響 | 62 |
| 3. | 人口減少に対する施策のあり方 | 64 |
| 4. | 人口増加対策の重点施策 | 66 |
| (9) | 防災について | 68 |
| 1. | 東日本大震災や熊本地震の発生による、防災対策への関心度の変化 | 68 |
| 2. | ご自身で取り組みが必要と感じる防災対策 | 69 |
| 3. | 実際に取り組んだ防災対策 | 71 |
| (10) | 対応が必要だと思う社会問題（社会現象）について | 73 |
| (11) | 苫小牧駒澤大学について | 75 |
| 1. | 苫小牧駒澤大学のイメージ | 75 |
| 2. | 苫小牧駒澤大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度 | 77 |
| 3. | 苫小牧駒澤大学に期待すること | 79 |
| (12) | 大切にしたい苫小牧市の個性・魅力 | 81 |
| (13) | 苫小牧市の将来都市イメージ、これからのまちづくりや市政の課題 | 83 |
| 1. | 苫小牧市の将来都市イメージ | 83 |
| 2. | これからのまちづくりや市政の課題 | 86 |

1 調査の概要

(1) 目的

このアンケート調査は、平成30年度からの新しい総合計画（第6次基本計画）の策定に向けて、今後のまちづくりの方向性や具体的な施策の検討に参考とするために実施した。

(2) 調査対象

苫小牧市在住の18歳以上の男女2,000人（無作為抽出）

(3) 調査項目

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 問1 男女の別 | 問16 行政サービスのあり方 |
| 問2 年齢（満年齢） | 問17 市民（市民団体）と企業、行政が連携・協力して進めることが必要な事項 |
| 問3 職業 | 問18 苫小牧市と周辺自治体が連携・協力して進めることが必要な事項 |
| 問4 世帯人数 | 問19 人口減少の実感 |
| 問5 世帯構成 | 問20 人口が減少することでの影響 |
| 問6 住まいの種別 | 問21 人口減少に対する施策 |
| 問7 苫小牧市での通算居住年数 | 問22 人口増加に向けた重点施策 |
| 問8 勤務地・通学地 | 問23 東日本大震災や熊本地震の発生による、防災対策への関心度の変化 |
| 問9 居住地域 | 問24 ①ご自身で取り組みが必要と感じる防災対策 |
| 問10 苫小牧市の住み心地 | ②実際に取り組んだ防災対策 |
| 問11 苫小牧市での定住意向 | 問25 対応が必要だと感じる社会問題（社会現象） |
| 問12 住み続けたい理由 | 問26 苫小牧駒澤大学のイメージ |
| 問13 市外に移りたい理由 | 問27 苫小牧駒澤大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度 |
| 問14 まちづくりの満足度と重要度 | 問28 苫小牧駒澤大学への期待 |
| ①くらし・環境 | 問29 大切にしたい苫小牧市の個性、魅力 |
| ②福祉・保健・医療 | 問30 将来の苫小牧市の都市イメージ |
| ③教育・文化 | 問31 これからの苫小牧市のまちづくりや市政の課題 |
| ④都市基盤 | |
| ⑤産業 | |
| ⑥市政運営 | |
| 問15 ①地域活動への関心度 | |
| ②参加している地域活動の有無 | |
| ③現在参加している地域活動 | |
| ④今後参加してみたい地域活動 | |

(4) 調査方法

郵送調査法、自記式（調査票の郵送配布・郵送回収、対象者自身による記入）

(5) 調査時期

平成 28 年 7 月 15 日～平成 28 年 8 月 5 日

(6) 回収率

| | |
|-------|---------|
| 配布数 | 2,000 件 |
| 有効回収数 | 738 件 |
| 回収率 | 36.9 % |

(7) 留意事項

- 無回答は、集計母数から除外している。
- 本文中の表における比率は、少数点第 2 位を四捨五入したため、個々の比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

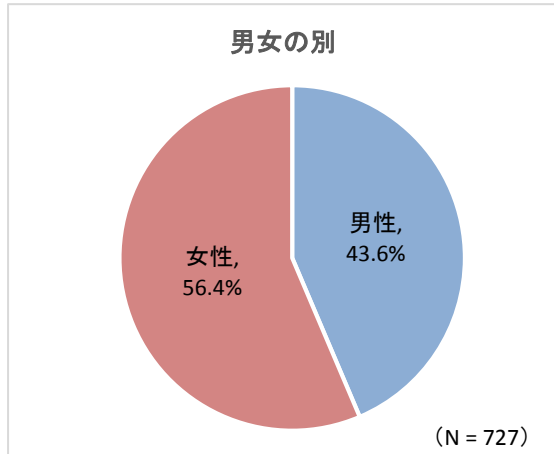
【語句の補足】

- N : Number (ナンバー) の略。サンプル数を表す。
N=100 の場合、サンプル数が 100 件となる。

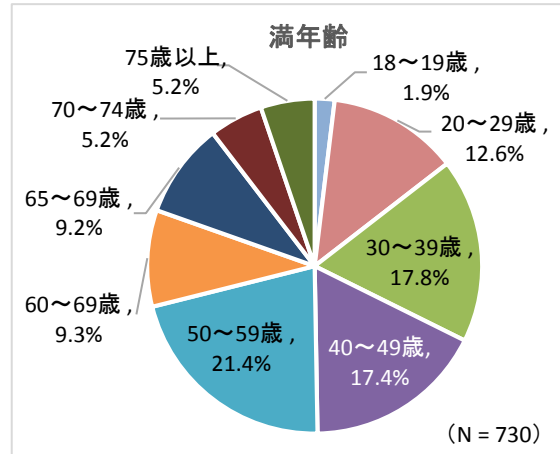
2 調査結果概要

(1) 回答者属性

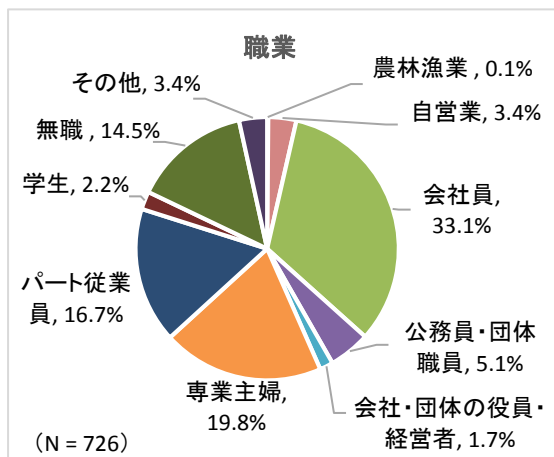
1. 男女の別



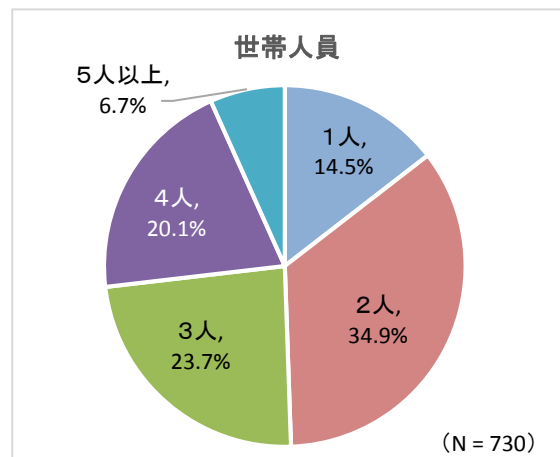
2. 満年齢



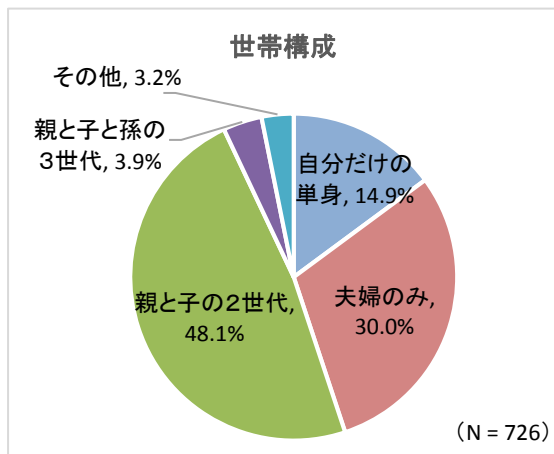
3. 職業



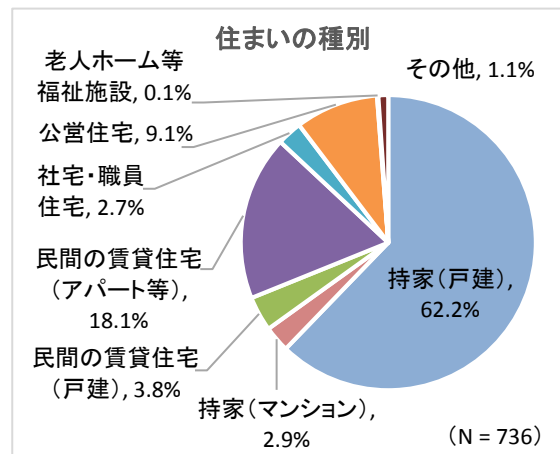
4. 世帯人員



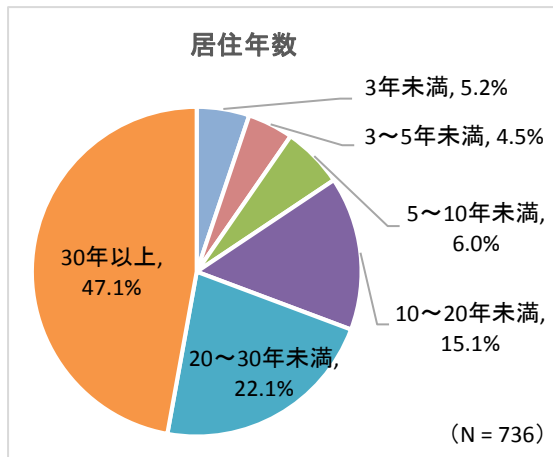
5. 世帯構成



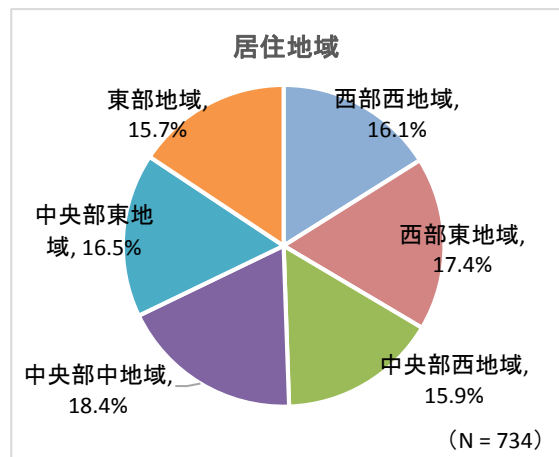
6. 住まいの種別



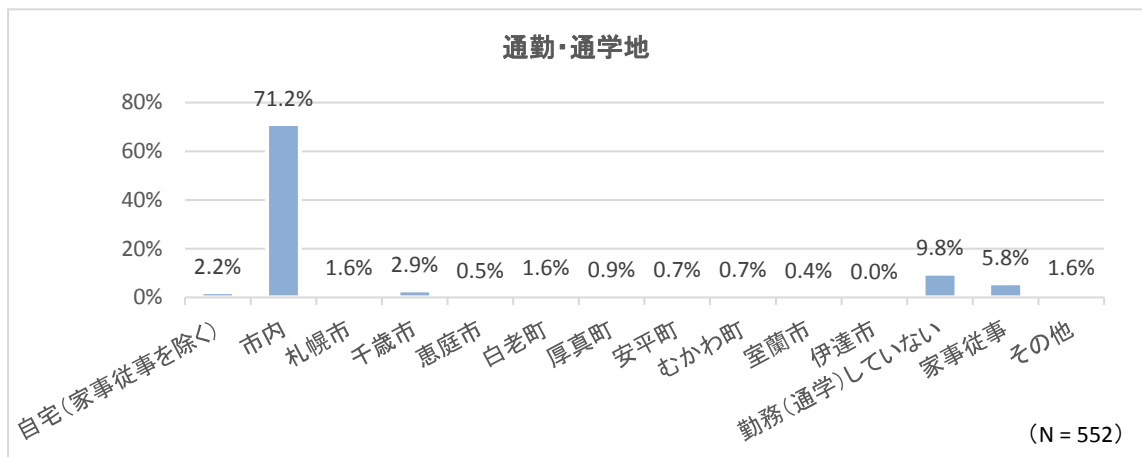
7. 居住年数



8. 居住地域



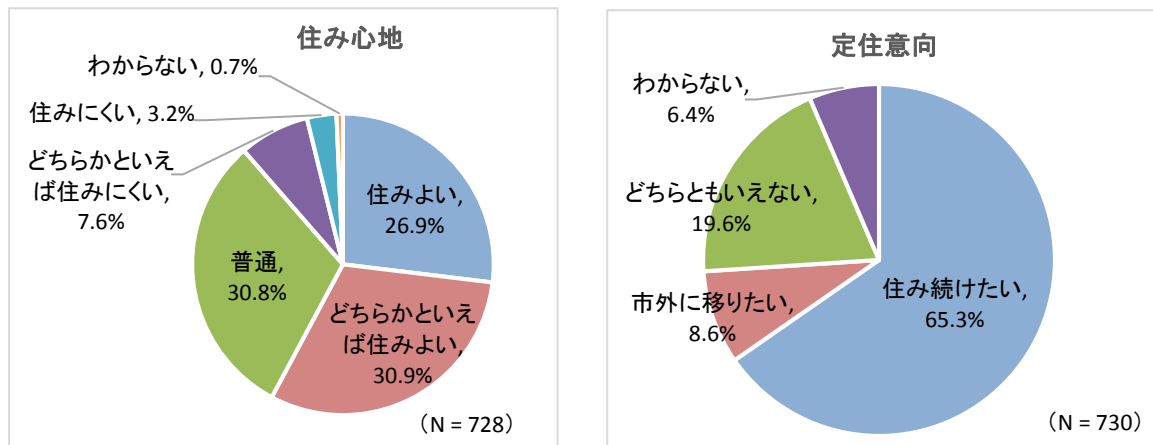
9. 通勤・通学地



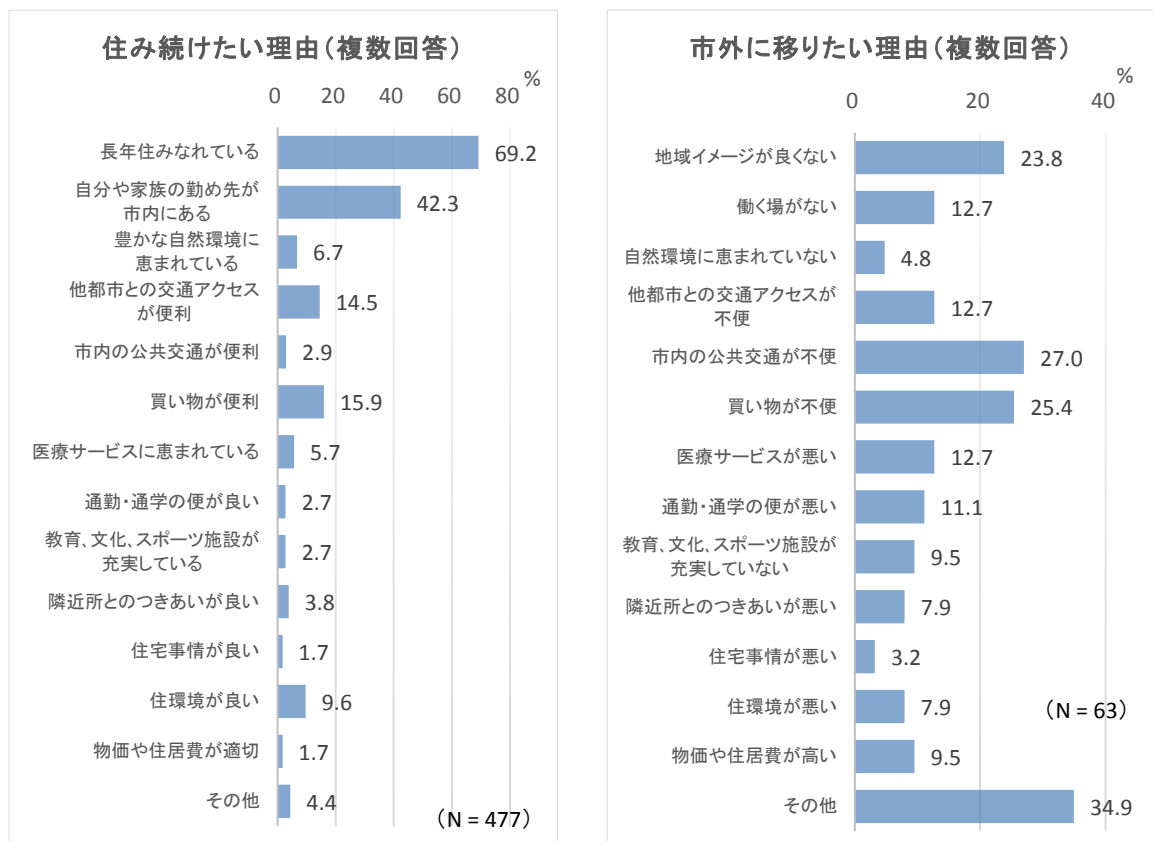
(2) 住み心地と定住意向について

- ・「どちらかと言えば住みよい」が 30.9%で最も多く、「住みよい」と合わせて全体の 6割近くが住みよいと回答。
- ・全体の 65.3%が、今後も苫小牧市に「住み続けたい」と回答。
- ・住み続けたいと回答した理由としては、「長年住みなれている」(69.2%)、「自分や家族の勤め先が市内にある」(42.3%)が多くなっている。
- ・市外に移りたいと回答した理由としては、「市内の公共交通が不便」(27.0%)、「買い物不便」(25.4%)、「地域イメージが良くない」(23.8%)が多くなっている。

苫小牧市の住み心地と今後の定住意向



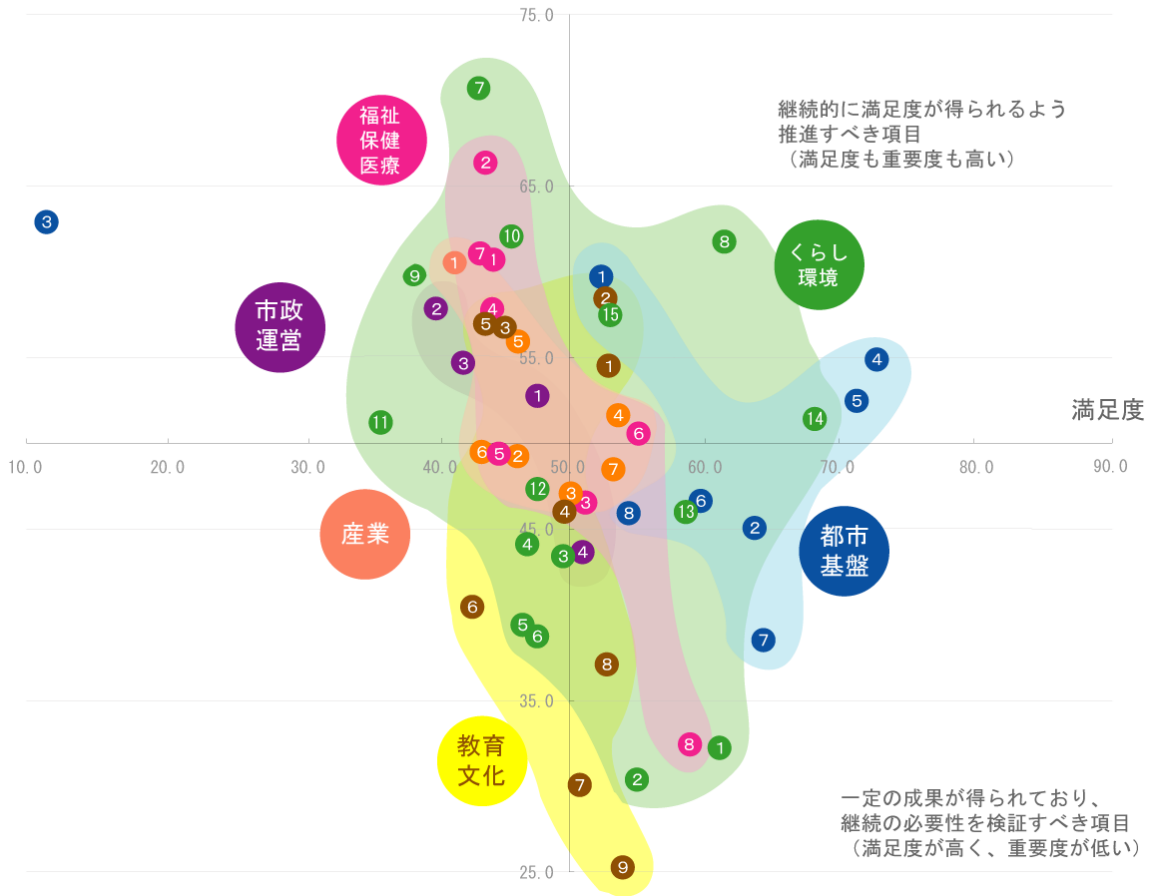
住み続けたい理由と市外に移りたい理由



(3) 施策の満足度と今後の重要度について

課題が多く、重点的に推進すべき項目
(満足度が低く、重要度が高い)

重要度



【各施策項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値】

| 設問項目 | | 満足度 | 重要度 | 設問項目 | | 満足度 | 重要度 |
|----------|--------------------------------|------|------|-------------------------------|------|------|-----|
| 暮らし環境 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 60.5 | 32.7 | ①幼児期において充実した教育が受けられること | 52.4 | 54.3 | |
| | ②NPO やボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 54.1 | 31.1 | ②小学校・中学校において充実した教育が受けられること | 52.4 | 57.7 | |
| | ③女性の社会参加が十分できること | 49.8 | 43.5 | ③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること | 44.9 | 56.8 | |
| | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 47.8 | 44.1 | ④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること | 49.7 | 47.0 | |
| | ⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること | 47.5 | 39.5 | ⑤青少年の非行を防止すること | 43.9 | 57.0 | |
| | ⑥マイホーム建設を支援すること | 48.1 | 39.3 | ⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること | 41.6 | 40.7 | |
| | ⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること | 42.9 | 70.8 | ⑦苫小牧に愛着と誇りを持つシンボルをつくること | 50.7 | 30.4 | |
| | ⑧消防、救急体制が強化されること | 61.7 | 62.3 | ⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しむこと | 52.5 | 37.2 | |
| | ⑨交通事故にあう危険を感じないこと | 37.9 | 59.7 | ⑨姉妹都市と交流する機会があること | 53.1 | 25.1 | |
| | ⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること | 45.9 | 62.7 | ⑩通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること | 52.0 | 59.4 | |
| | ⑪市内のバス利用の便がよいこと | 35.0 | 51.0 | ⑪公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること | 63.0 | 45.1 | |
| | ⑫他都市への交通の便がよいこと | 48.1 | 47.8 | ⑫駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること | 11.2 | 63.2 | |
| | ⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること | 58.7 | 46.2 | ⑬水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること | 75.3 | 55.1 | |
| | ⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること | 68.4 | 51.4 | ⑭下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること | 71.0 | 52.5 | |
| | ⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること | 52.7 | 57.3 | ⑮身近なところの道路が整備されていること | 59.4 | 46.8 | |
| 福祉・保健・医療 | ①高齢者のための生活環境が整っていること | 44.3 | 61.8 | ①新千歳空港の機能を充実させること | 64.4 | 38.6 | |
| | ②子供たちが健やかに成長していく環境ができていないこと | 43.6 | 66.7 | ②苫小牧港(西・東)の機能を充実させること | 54.5 | 46.1 | |
| | ③母子家庭、父子家庭への支援を充実すること | 50.7 | 46.9 | ③いきいきと働くことができる場があること | 42.2 | 61.1 | |
| | ④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること | 44.2 | 57.6 | ④特産品づくりと消費の拡大をはかること | 45.6 | 48.9 | |
| | ⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること | 44.4 | 49.0 | ⑤農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること | 50.2 | 47.2 | |
| | ⑥病気の予防や健康の相談、指導が受けられること | 54.9 | 50.4 | ⑥工業地域の開発と企業の誘致を進めること | 53.3 | 51.6 | |
| | ⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること | 44.2 | 61.9 | ⑦中小企業の振興をはかること | 45.6 | 55.7 | |
| | ⑧霊園、霊葬場の整備を進めること | 58.7 | 32.9 | ⑧観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること | 43.9 | 49.1 | |
| 市政運営 | ①市役所からの情報がよくわかること | 47.8 | 52.8 | ⑨国内外との物流の拠点となること | 53.1 | 48.5 | |
| | ②まちづくりに市民の声が十分反映されること | 39.5 | 57.4 | ⑩市役所からの情報がよくわかること | 47.8 | 52.8 | |
| | ③行財政改革を進めること | 41.9 | 54.3 | ⑪まちづくりに市民の声が十分反映されること | 39.5 | 57.4 | |
| | ④近隣市町村との連携を進めること | 50.9 | 43.8 | ⑫行財政改革を進めること | 41.9 | 54.3 | |

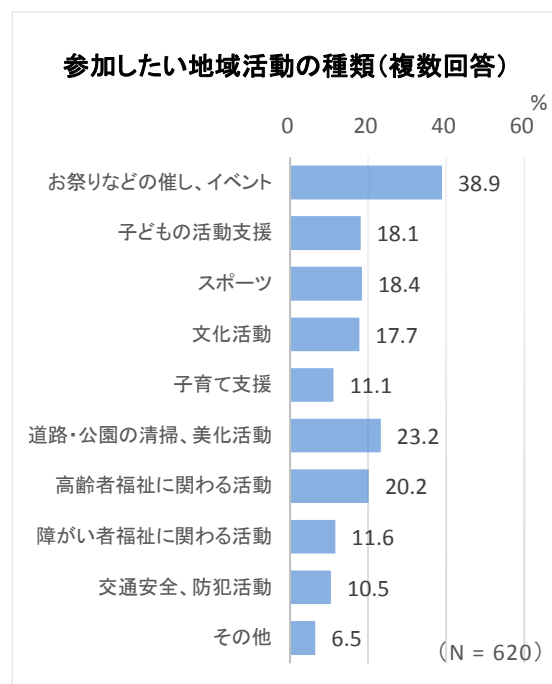
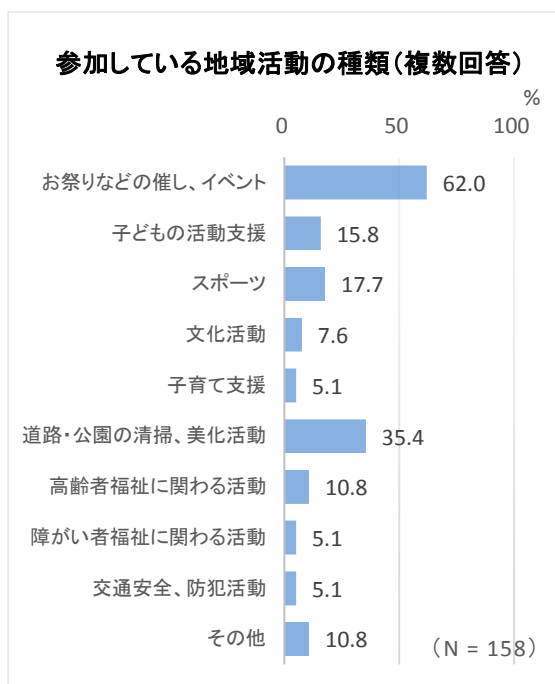
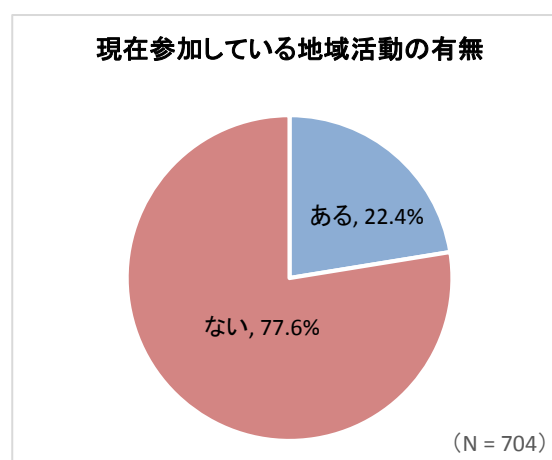
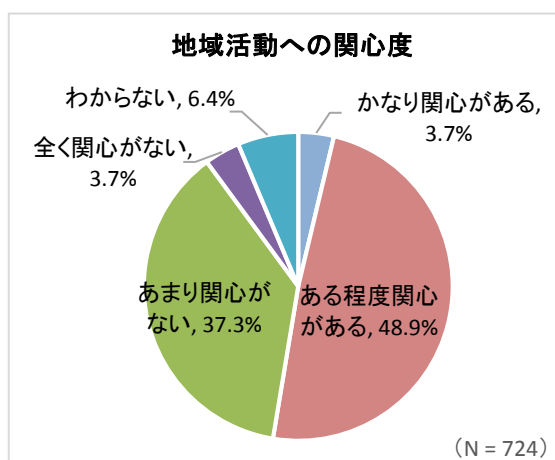
青数字：偏差値 50.0 以上 (平均より高い評価)

赤数字：偏差値 50.0 未満 (平均より低い評価)

■：満足度が低くかつ重要度が高く、重点的に推進すべき項目

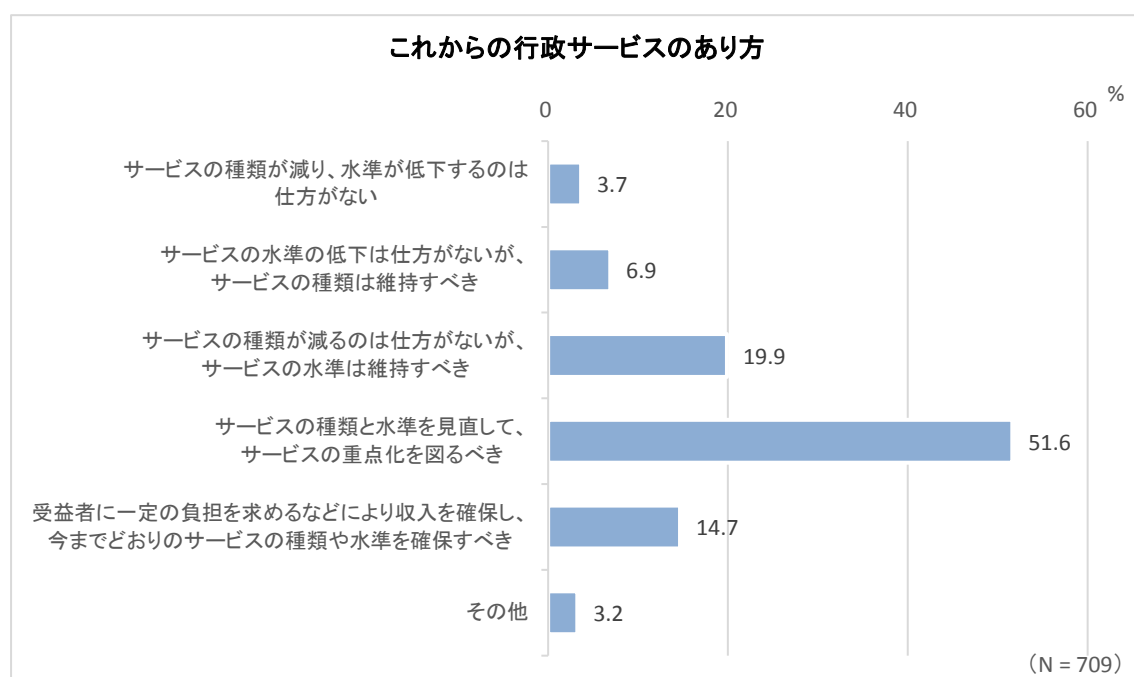
(4) 地域活動について

- ・地域活動への関心度は、「ある程度関心がある」が 48.9%で最も多く、「かなり関心がある」と合わせて 52.6%が「関心がある」と回答。
- ・「参加している地域活動がある」とする回答は、全体の 22.4%と、関心の高さの割に実際の参加は低くなっている。
- ・参加している地域活動は、「お祭りなどの催し、イベント」が 62.0%で最も多く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」(35.4%)の順となっている。
- ・今後(も)参加したい地域活動は、「お祭りなどの催し、イベント」が 38.9%で最も多く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」(23.2%)、「高齢者福祉に関わる活動」(20.2%)の順となっている。



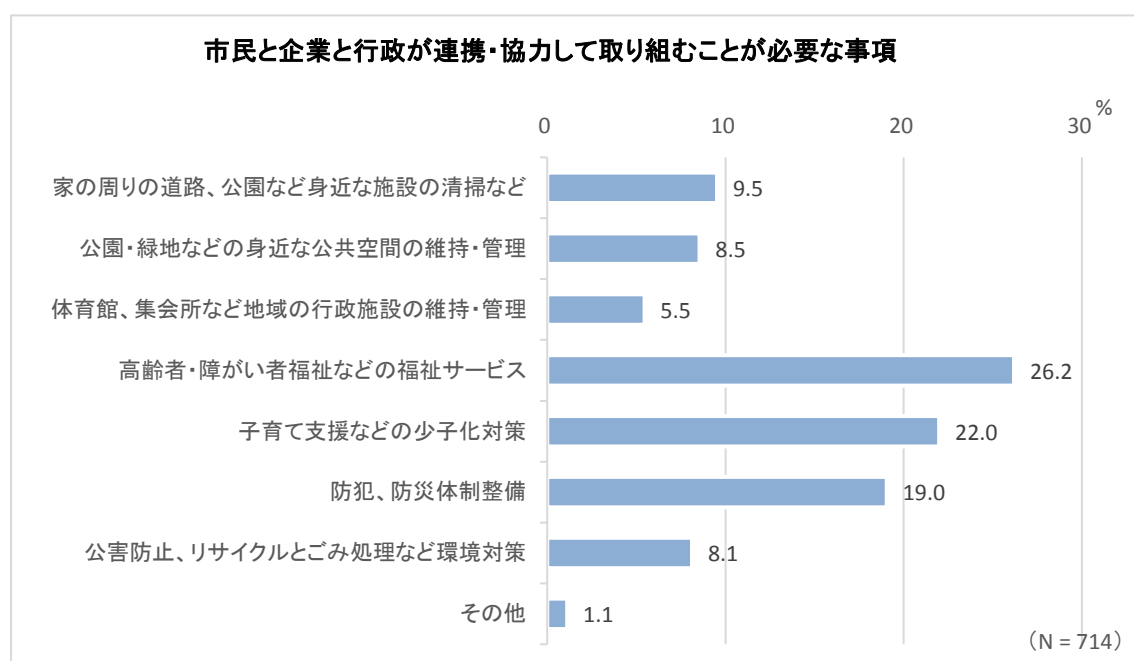
(5) これからの行政サービスのあり方について

- ・「サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべき」が全体の 51.6%を占め、最も多い。



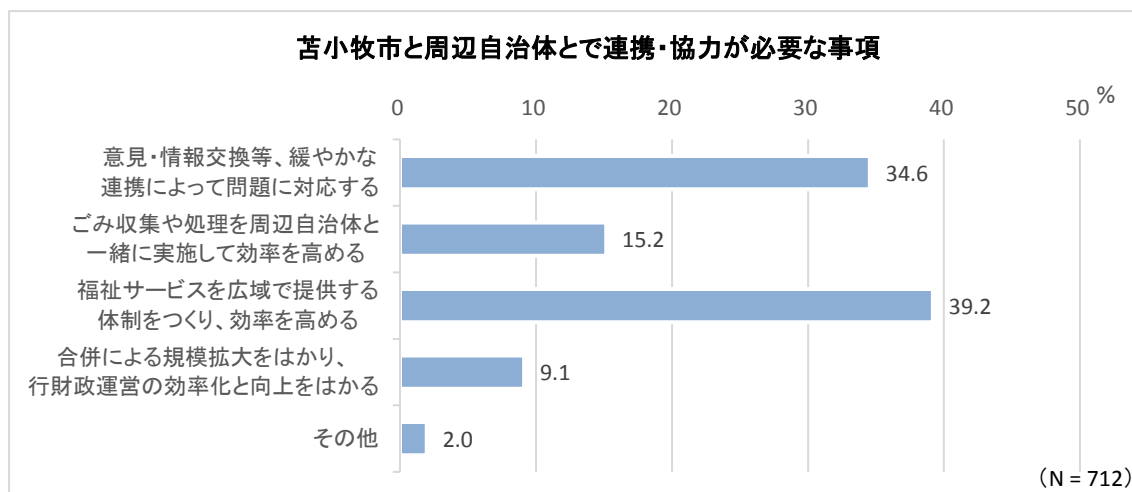
(6) 市民・企業・行政が連携・協力して進めることが必要な事項

- ・「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」が 26.2%で最も多く、次いで「子育て支援などの少子化対策」(22.0%)、「防犯、防災体制整備」(19.0%)の順となっている。



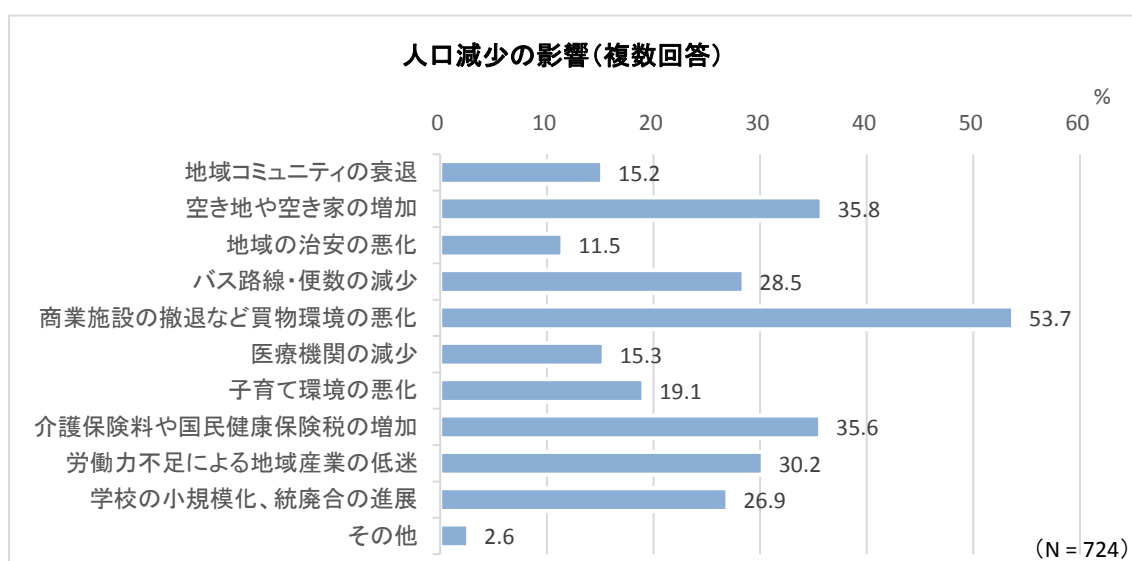
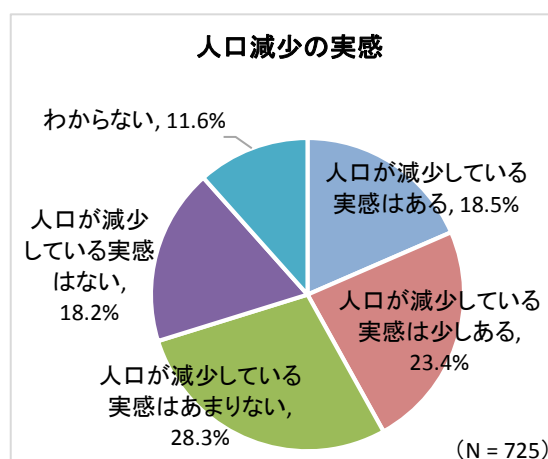
(7) 苫小牧市と周辺自治体とで連携・協力が必要な事項

- ・「福祉サービスを広域で提供する体制をつくり、効率を高める」が 39.2%で最も多く、次いで「意見・情報交換等、緩やかな連携によって問題に対応する」(34.6%)となっている。

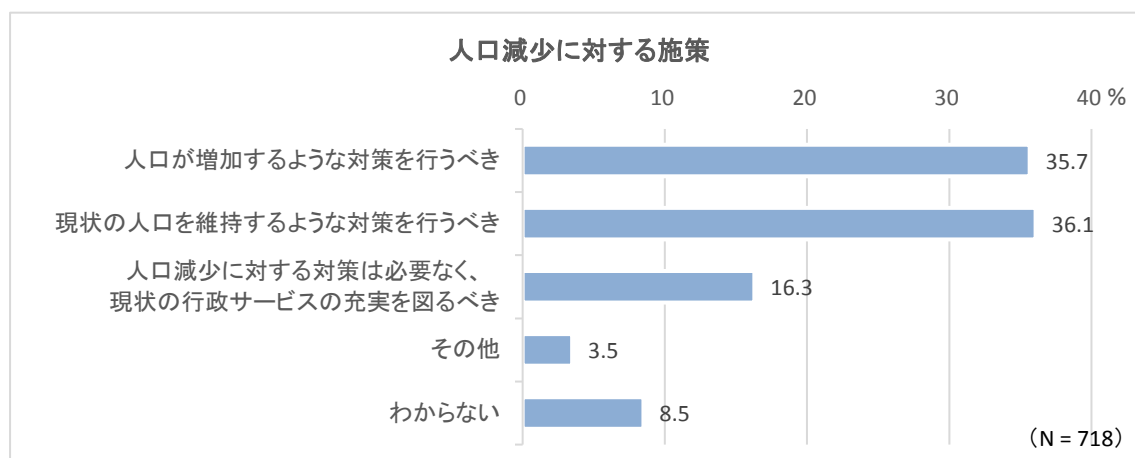


(8) 人口減少について

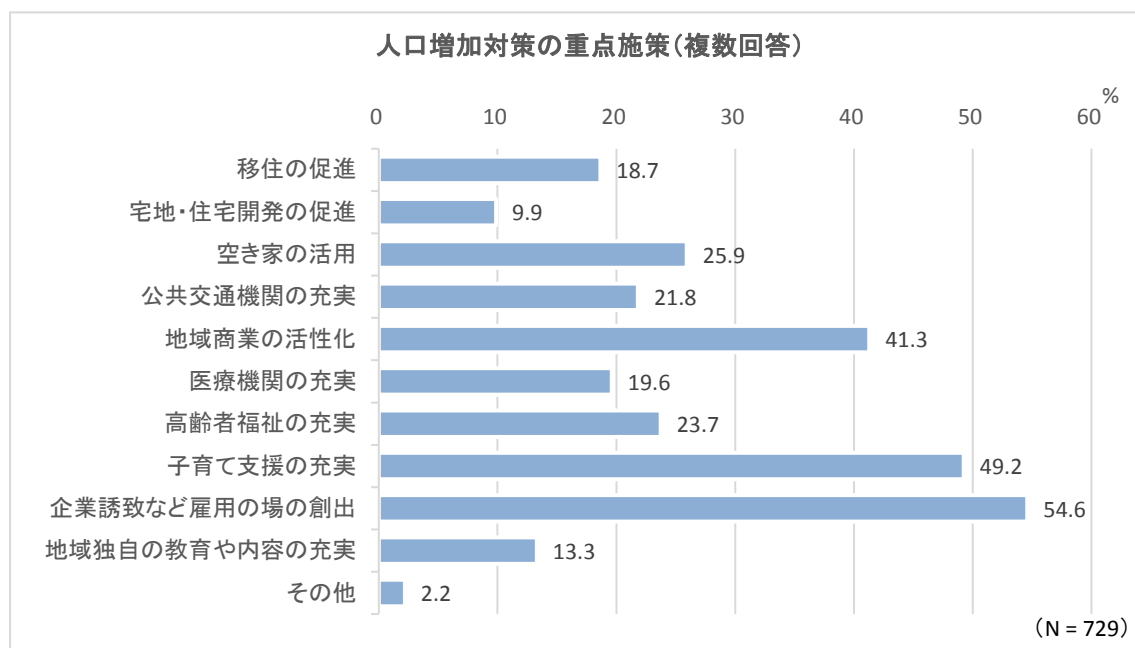
- ・人口減少の実感について、「実感はある」と「少し実感はある」と合わせて 41.9%、「あまり実感はない」と「実感はない」と合わせて 46.5%となっており、若干「実感はない」方が多い。
- ・人口減少の影響については、「商業施設の撤退など買い物環境の悪化」が 53.7%で最も多く、次いで「空き地や空き家の増加」(35.8%)、「介護保険料や国民健康保険税の増加」(35.6%)と続く。



- 人口対策に対する考え方は、「現状の人口を維持するような対策を行うべき」が 36.1%、「人口が増加するような対策を行うべき」が 35.7%と、現状の人口を維持もしくは増加すべきとの意見が7割を超える。

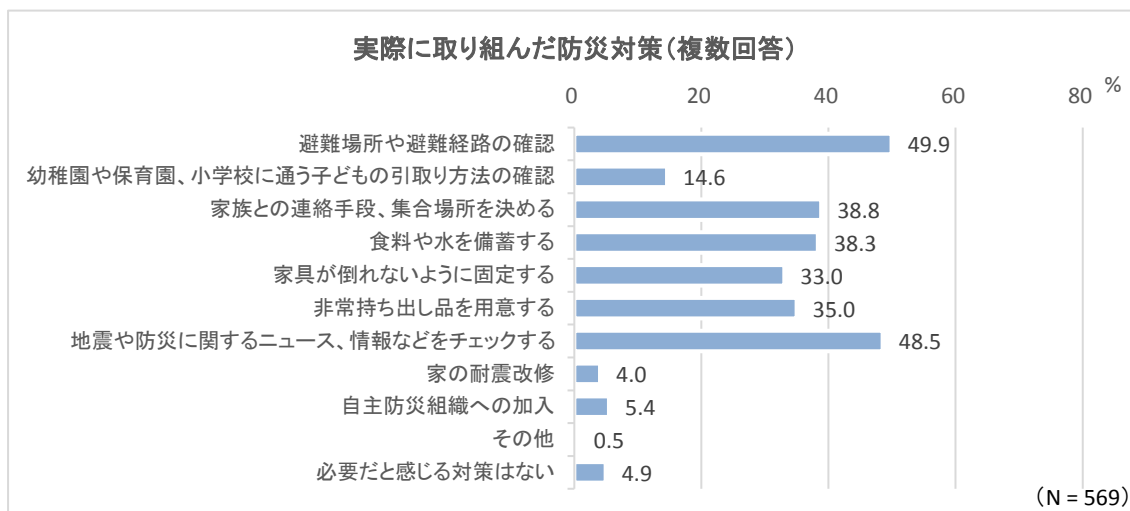
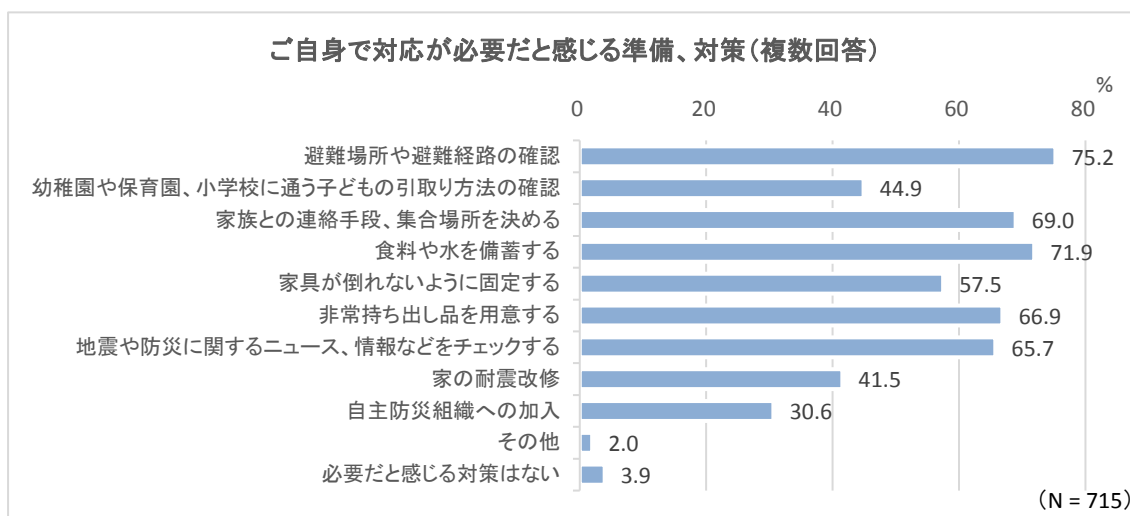
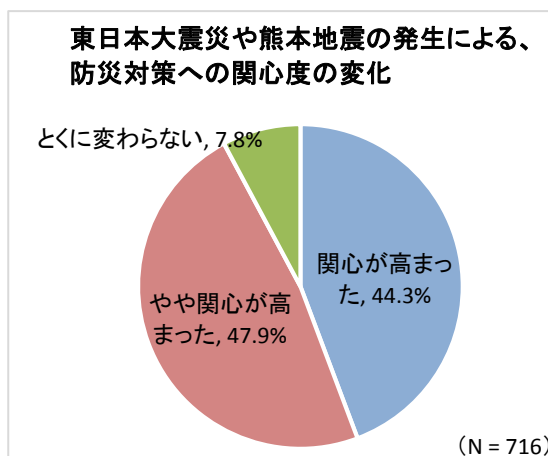


- 重点を置くべき人口増加対策については、「企業誘致など雇用の場の創出」が 54.6%で最も多く、次いで「子育て支援の充実」(49.2%)、「地域商業の活性化」(41.3%)と続く。



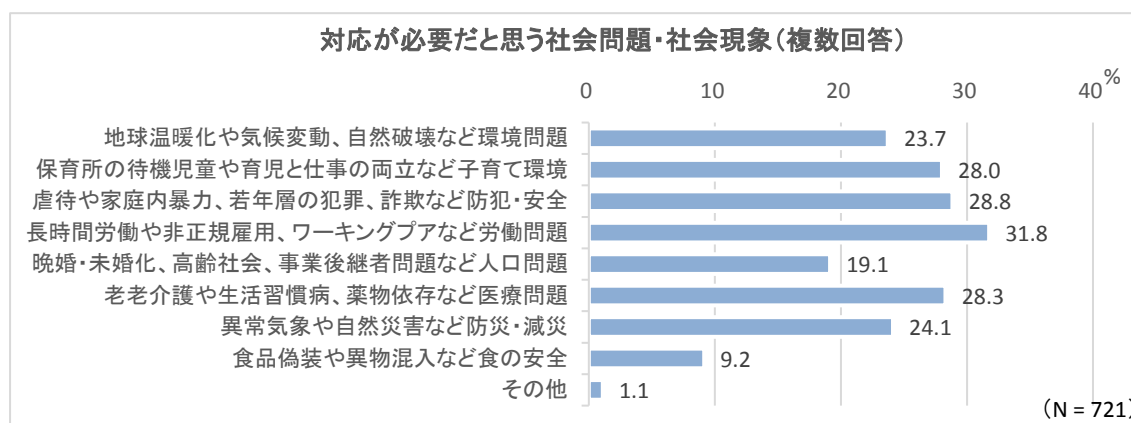
(9) 防災について

- 東日本大震災や熊本地震の発生により、防災対策に関する考え方は、「関心が高まった」、「やや関心が高まった」と合わせて全体の92.2%が防災対策に対する意識が高まったと回答。
- ご自身で対応が必要だと感じる準備、対策については、回答が多い順に「避難場所や避難経路の確認」(75.2%)、「食料や水を備蓄する」(71.9%)、「家族との連絡手段、集合場所を決める」(69.0%)、「非常持ち出し品を用意する」(66.9%)、「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(65.7%)となっている。
- このうち、実際に取り組んだ防災対策は、「避難場所や避難経路の確認」(49.9%)、「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(48.5%)、「家族との連絡手段、集合場所を決める」(38.8%)、「食料や水を備蓄する」(38.3%)となっている。



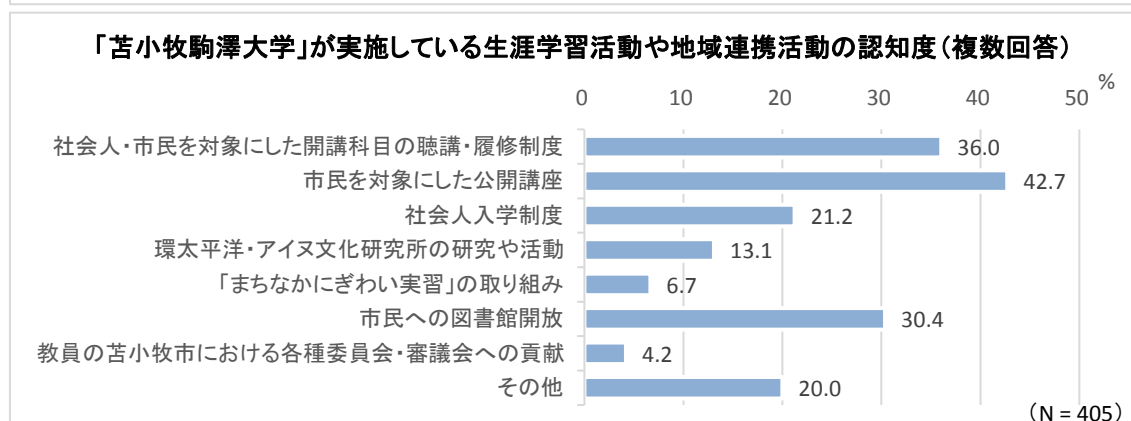
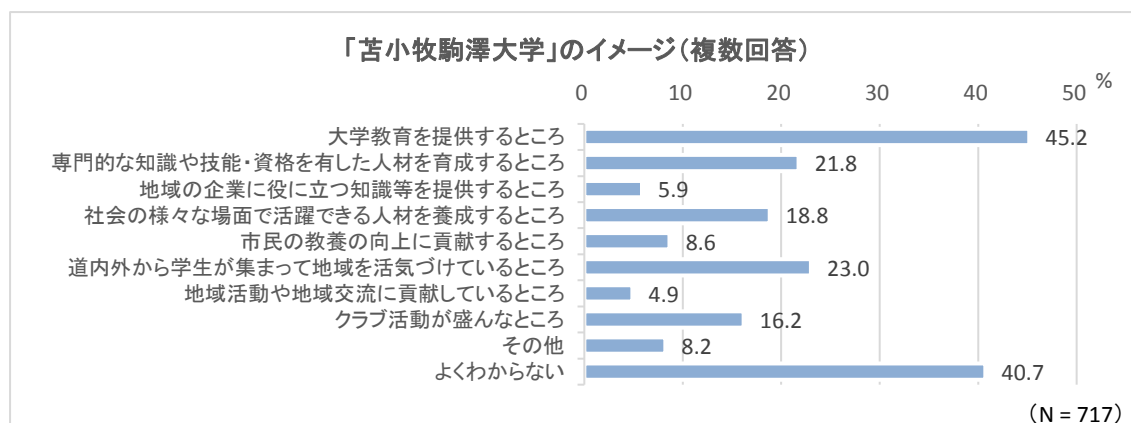
(10) 対応が必要だと思う社会問題（社会現象）について

- 「長時間労働や非正規雇用、ワーキングプアなど労働問題」が 31.8%で最も多く、次いで「虐待や家庭内暴力、若年層の犯罪、詐欺など防犯・安全」（28.8%）、「老老介護や生活習慣病、薬物依存など医療問題」（28.3%）、「保育所の待機児童や育児と仕事の両立など子育て環境」（28.0%）となっている。

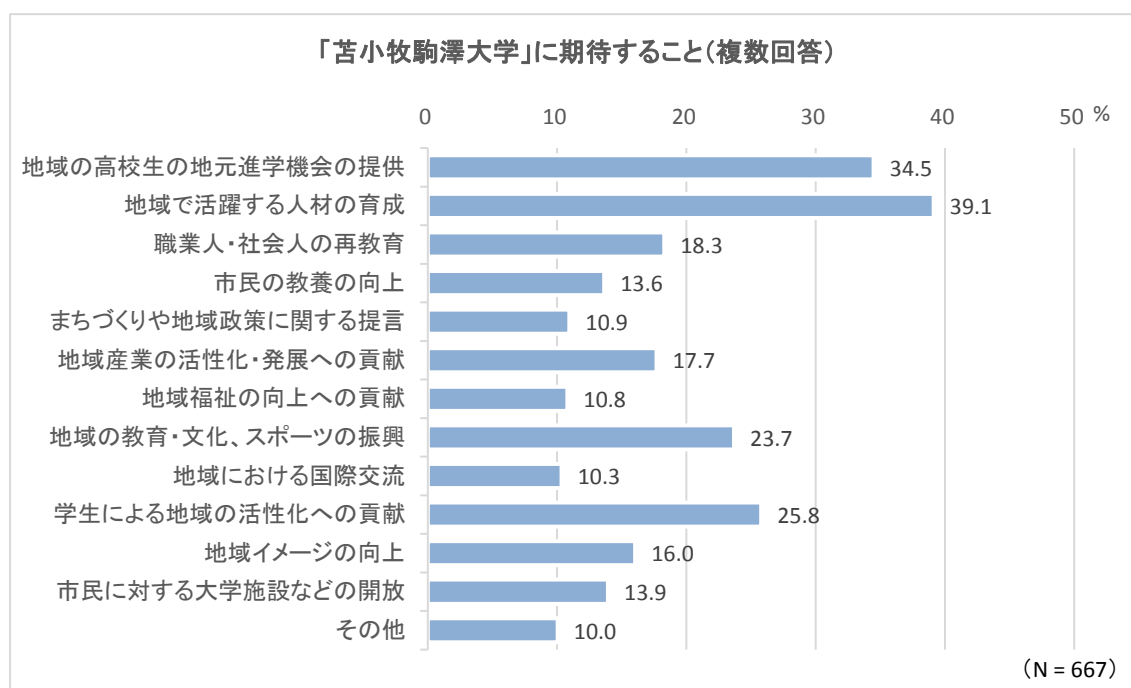


(11) 苫小牧駒澤大学について

- 「苫小牧駒澤大学」のイメージは、「大学教育を提供するところ」が 45.2%で最も多い一方、「よくわからない」も 40.7%と多くなっている。
- 「苫小牧駒澤大学」が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知については、「市民を対象にした公開講座」が 45.2%で最も多く、次いで「社会人・市民を対象にした開講科目の聴講・履修制度」（36.0%）、「市民への図書館開放」（30.4%）となっている。

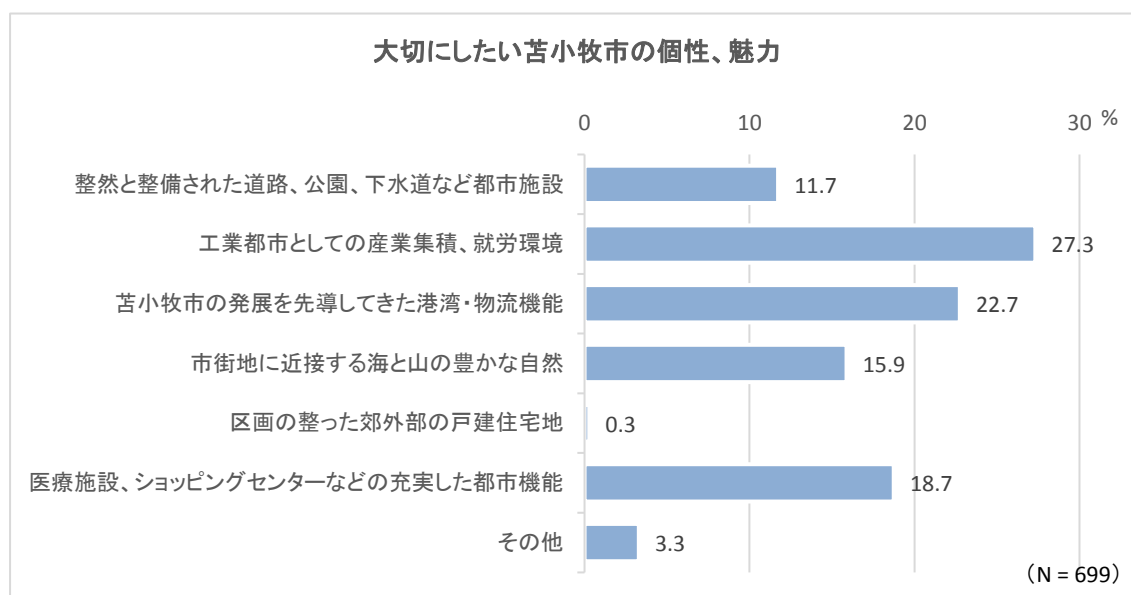


- ・「苦小牧駒澤大学」に期待することとしては、「地域で活躍する人材の育成」が 39.1%で最も多く、次いで「地域の高校生の地元進学機械の提供」（34.5%）の順となっている。



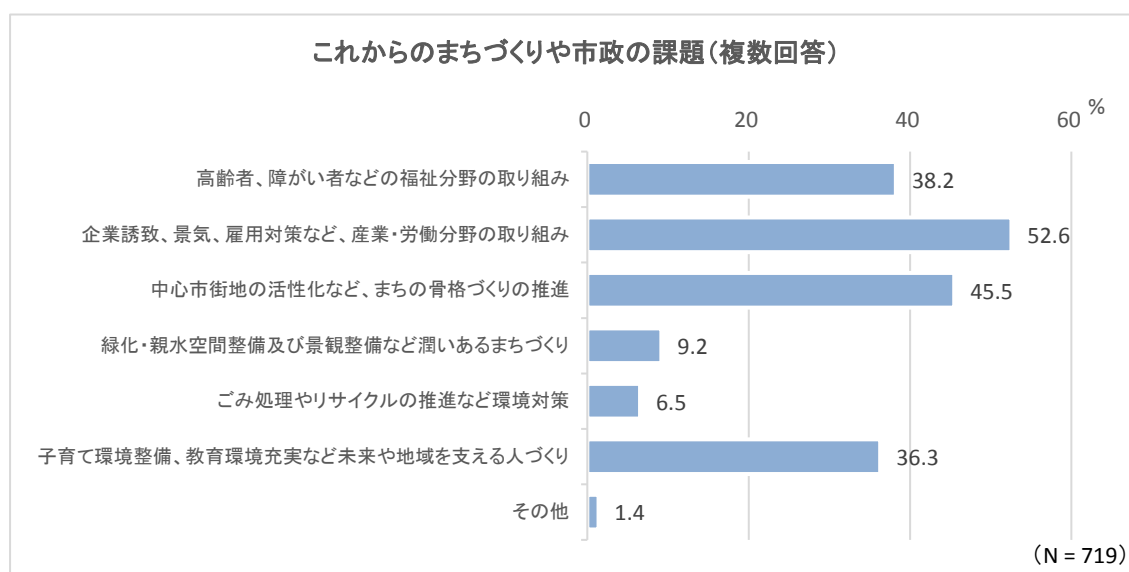
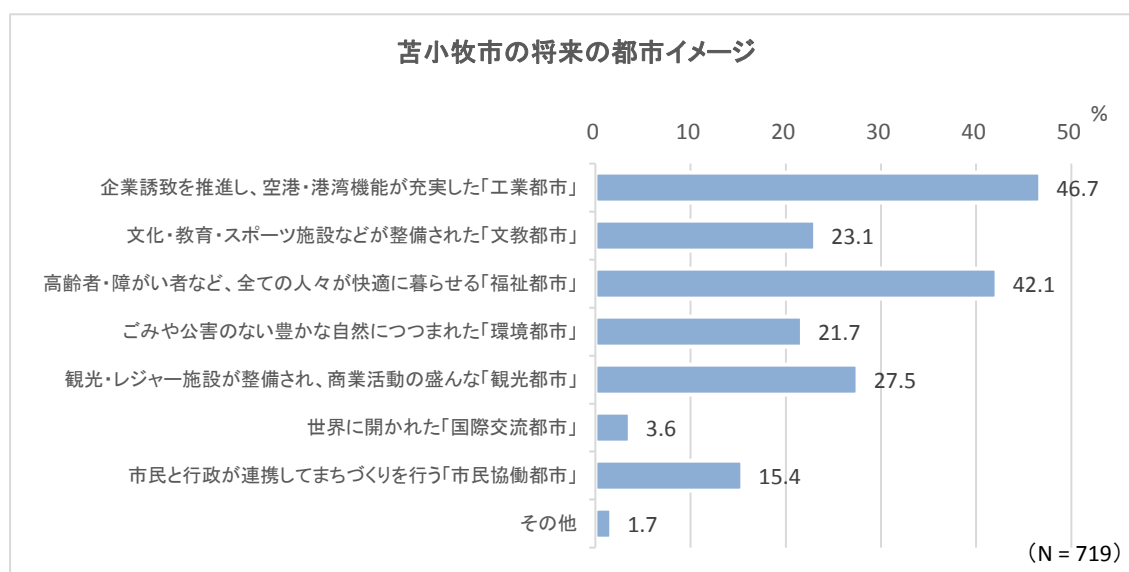
(12) 大切にしたい苦小牧市の個性・魅力

- ・「工業都市としての産業集積、就労環境」が 27.3%で最も多く、次いで「苦小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」（22.7%）、「医療施設、ショッピングセンターなどの充実した都市機能」（18.7%）の順となっている。



(13) 苫小牧市の将来の都市イメージ、これからのまちづくりや市政の課題

- ・ 苫小牧市の将来の都市イメージは、「企業誘致を推進し、空港・港湾機能が充実した『工業都市』」が 46.7%、「高齢者・障がい者など全ての人々が快適に暮らせる『福祉都市』」が 42.1%と、いずれも全体の半数近くが回答している。
- ・ これからのまちづくりや市政の課題としては、「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」が 52.6%で最も多く、次いで「中心市街地の活性化など、まちの骨格づくりの推進」（45.5%）、「高齢者、障がい者など福祉分野の取り組み」（38.2%）、「子育て環境整備、教育環境充実など未来や地域を支える人づくり」（36.3%）の順となっている。



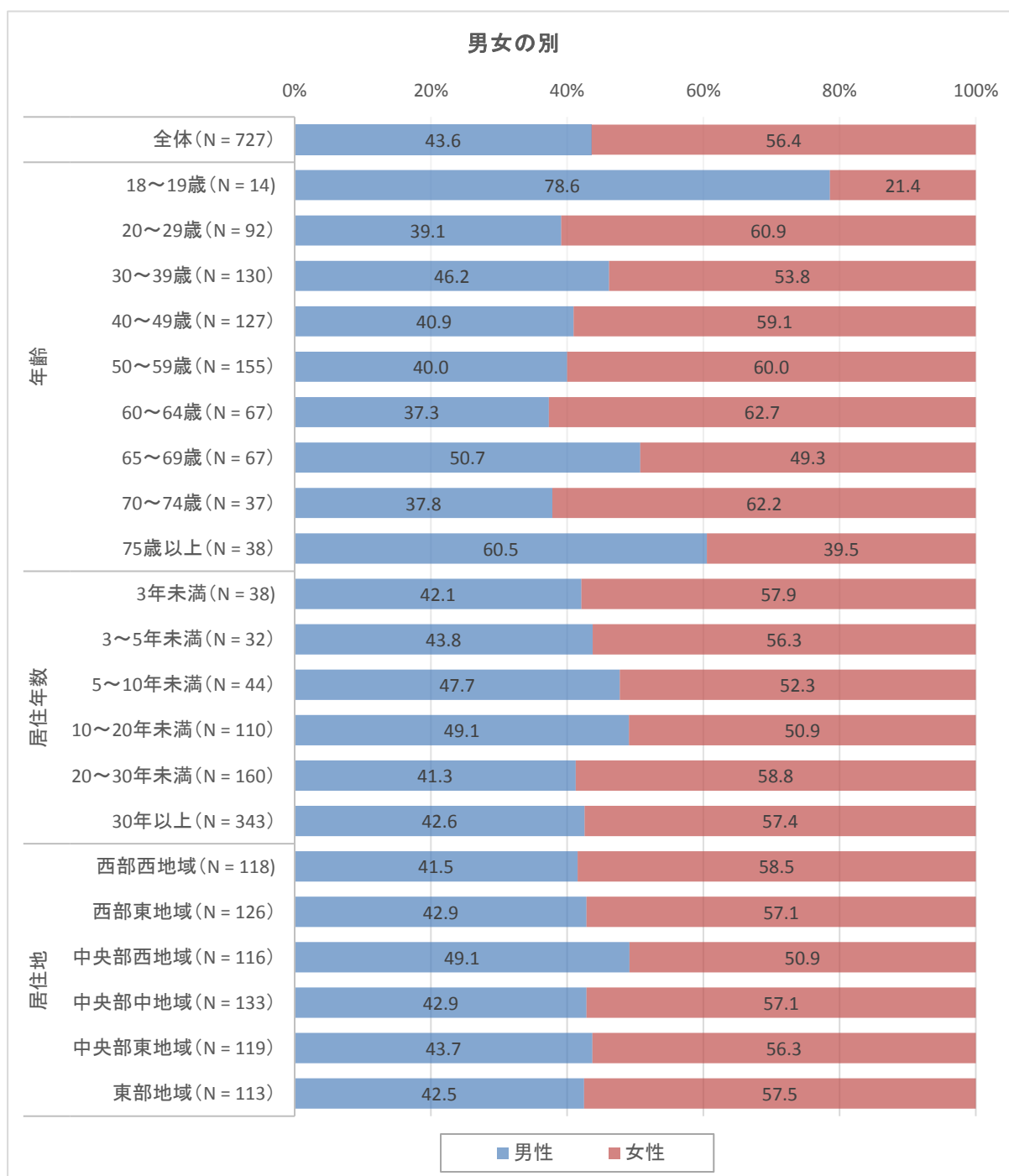
3 調査結果

(1) 回答者属性

1. 男女の別

男性が43.6%、女性が56.4%となっている。

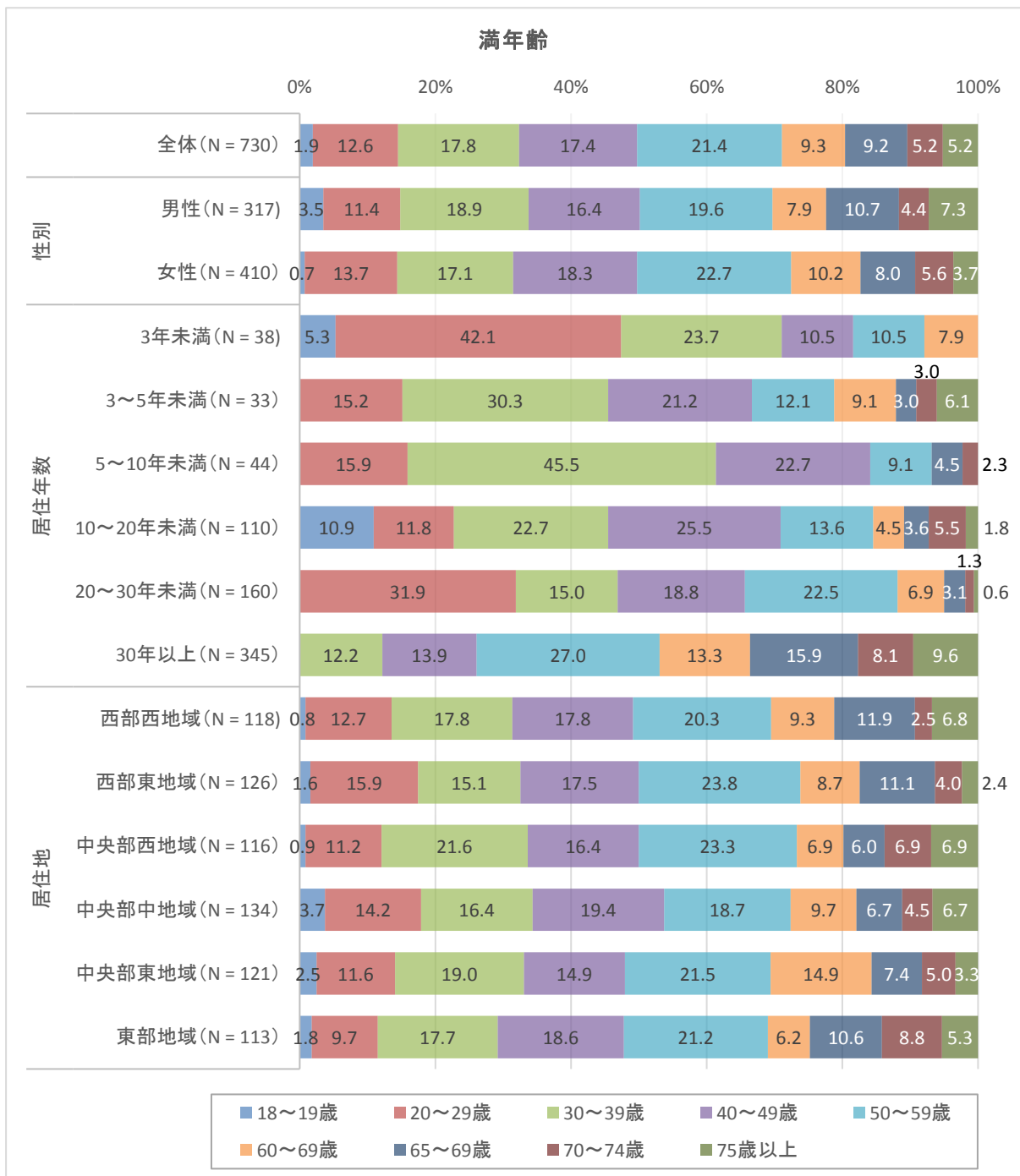
属性別にみると、18～19歳、75歳以上では男性の割合が高くなっている。



2. 満年齢

満年齢は、「50～59歳」が21.4%で最も多く、次いで、「30～39歳」（17.8%）、
「40～49歳」（17.4%）の順に多い。

属性別にみると、居住年数「3年未満」及び「20～30年未満」で「30歳未満」の層が多く、「3～10年未満」で「30～39歳未満」の層が多くなっている。



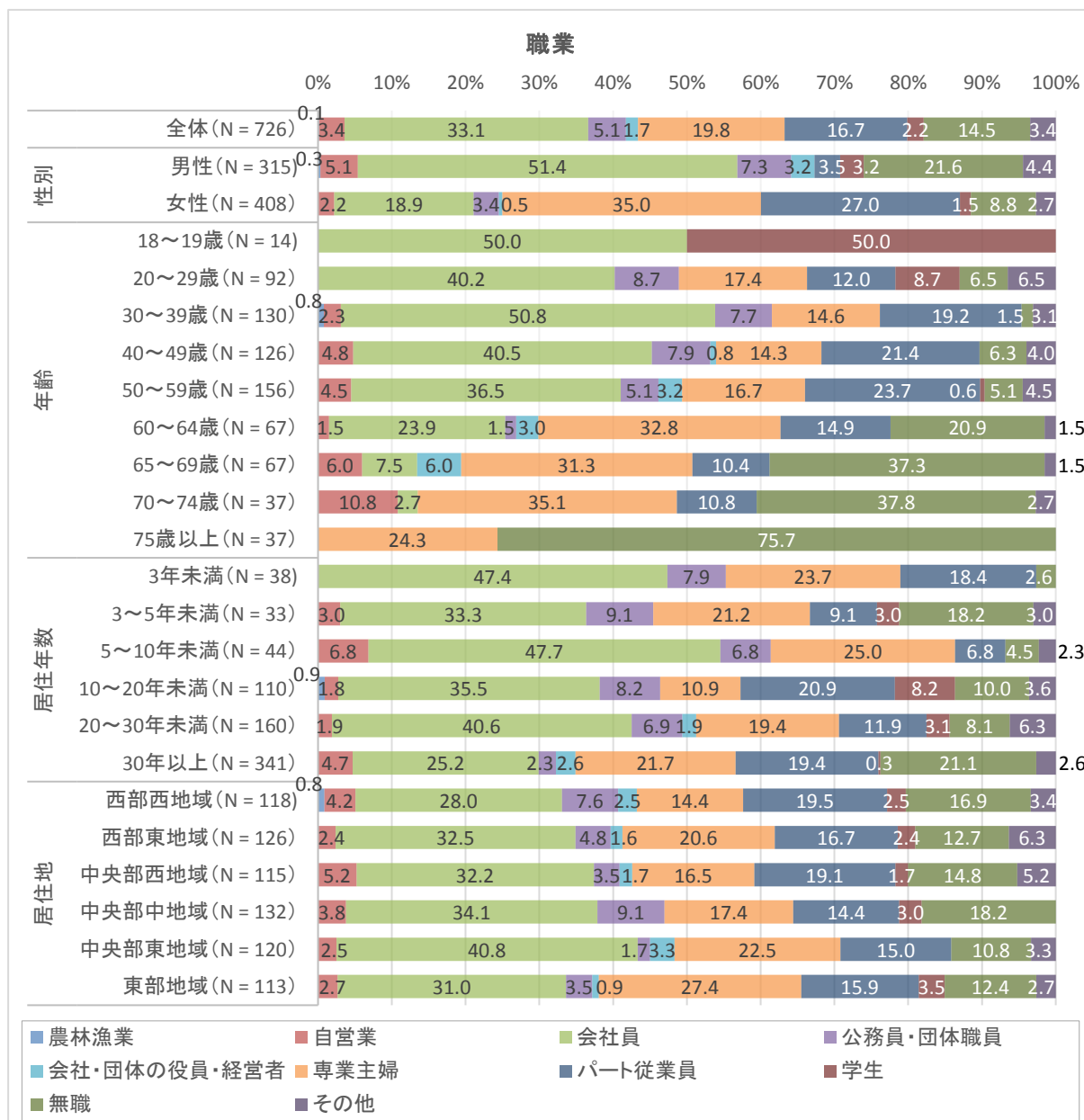
3. 職業

職業は、「会社員」が 33.1%で最も多く、次いで「専業主婦」（19.8%）、「パート従業員」（16.7%）の順となっている。

男女別では、男性の半数が「会社員」、女性の 3 割強が「専業主婦」、3 割弱が「パート従業員」となっている。

年齢別では、59 歳以下で「会社員」の割合が高く、65 歳以上では「無職」の割合が高くなる。

居住年数別では、「5～10 年未満」で、居住地別では「中央部東地域」で、それぞれの階層より「会社員」の割合が高い。



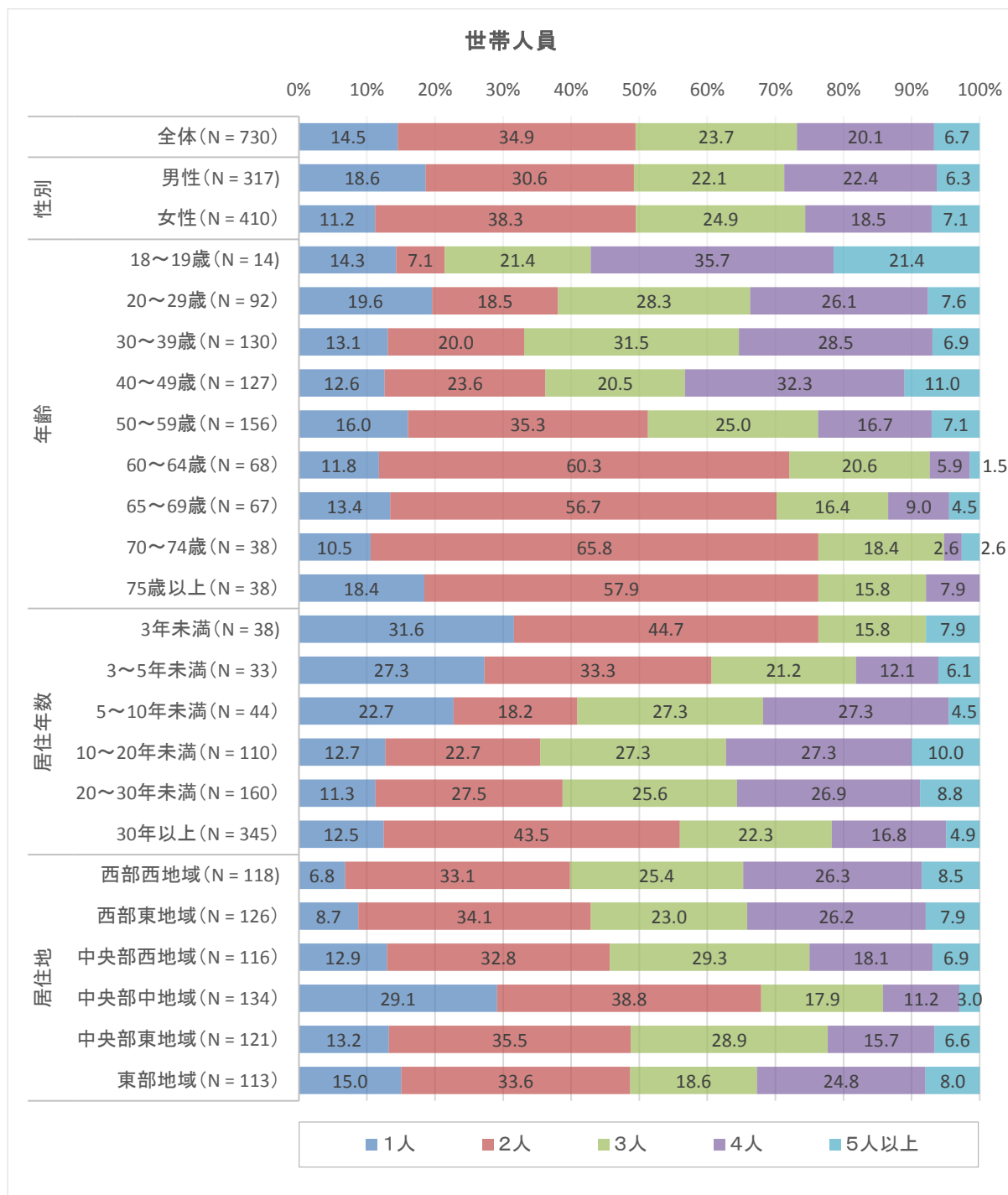
※その他の回答内容

| | | | |
|----------------|---------|--------------|--------------|
| ・幼稚園教諭 | ・運転手 | ・施設利用 | ・派遣社員 (2 件) |
| ・医療関係職員 | ・調理師 | ・障がい者福祉施設通所者 | ・時間講師 |
| ・福祉関係職員 (3 件) | ・エステシャン | ・サービス業 | ・SOHO |
| ・社会福祉士、ケアマネジャー | ・不動産貸付け | ・契約社員 | ・アルバイト (3 件) |

4. 世帯人数

世帯人数は、「2人」が34.9%で最も多く、次いで「3人」(23.7%)、「4人」(20.1%)の順となっている。

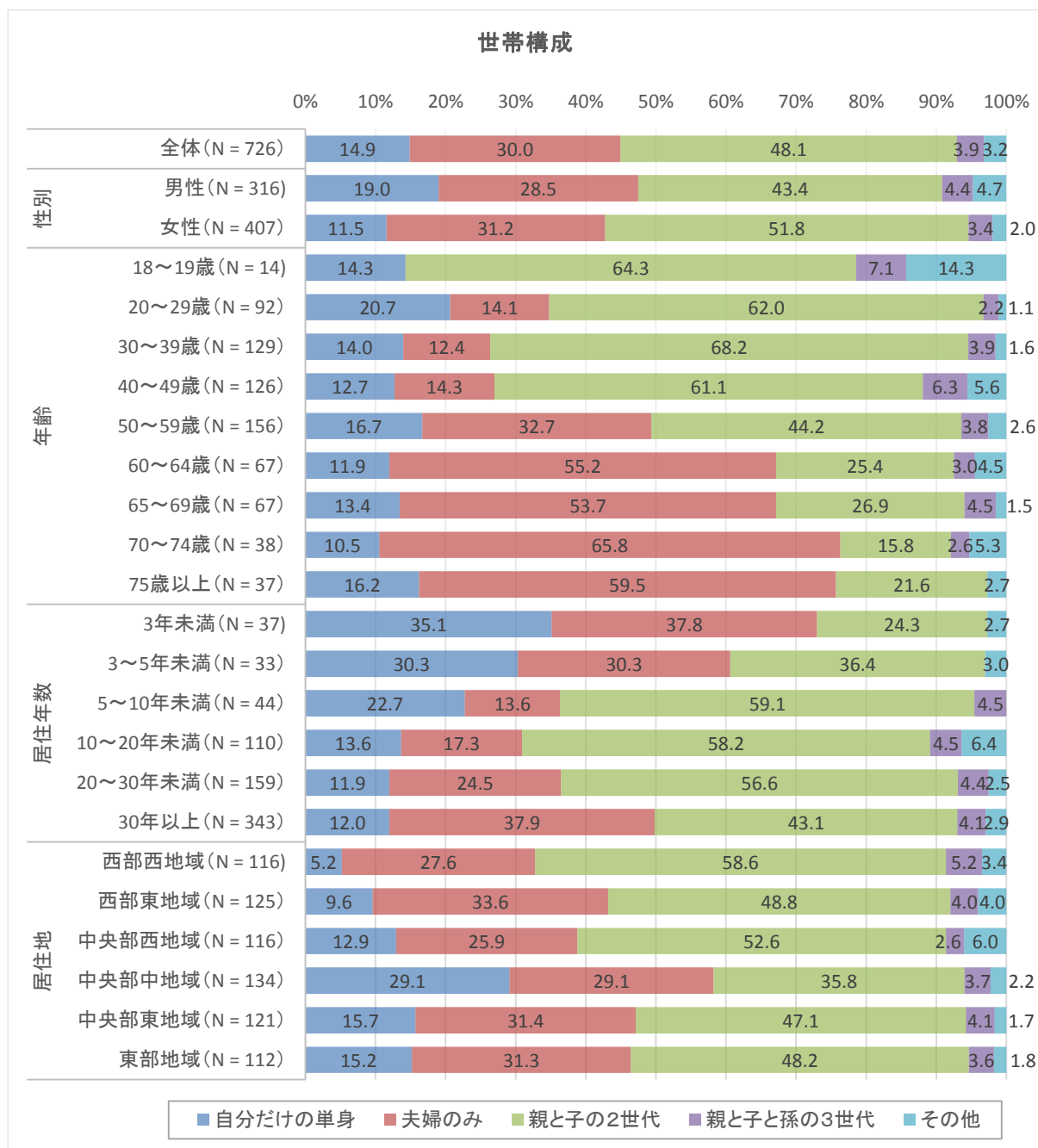
属性別にみると、年齢「60歳以上」、居住年数「30年以上」で「2人」の割合が高く、居住年数「3年未満」、居住地「中央部中地域」で「1人」の割合が高くなっている。



5. 世帯構成

世帯構成は、「親と子の2世代」が48.1%で最も多く、次いで「夫婦のみ」(30.0%)、「自分だけの単身」(14.9%)の順となっている。

属性別にみると、年齢別では、「49歳以下」で「親と子の2世代」の割合が高く、「60歳以上」で「夫婦のみ」の割合が高い。また居住地別では、「中央部中地域」で「自分だけの単身」の割合が高くなっている。



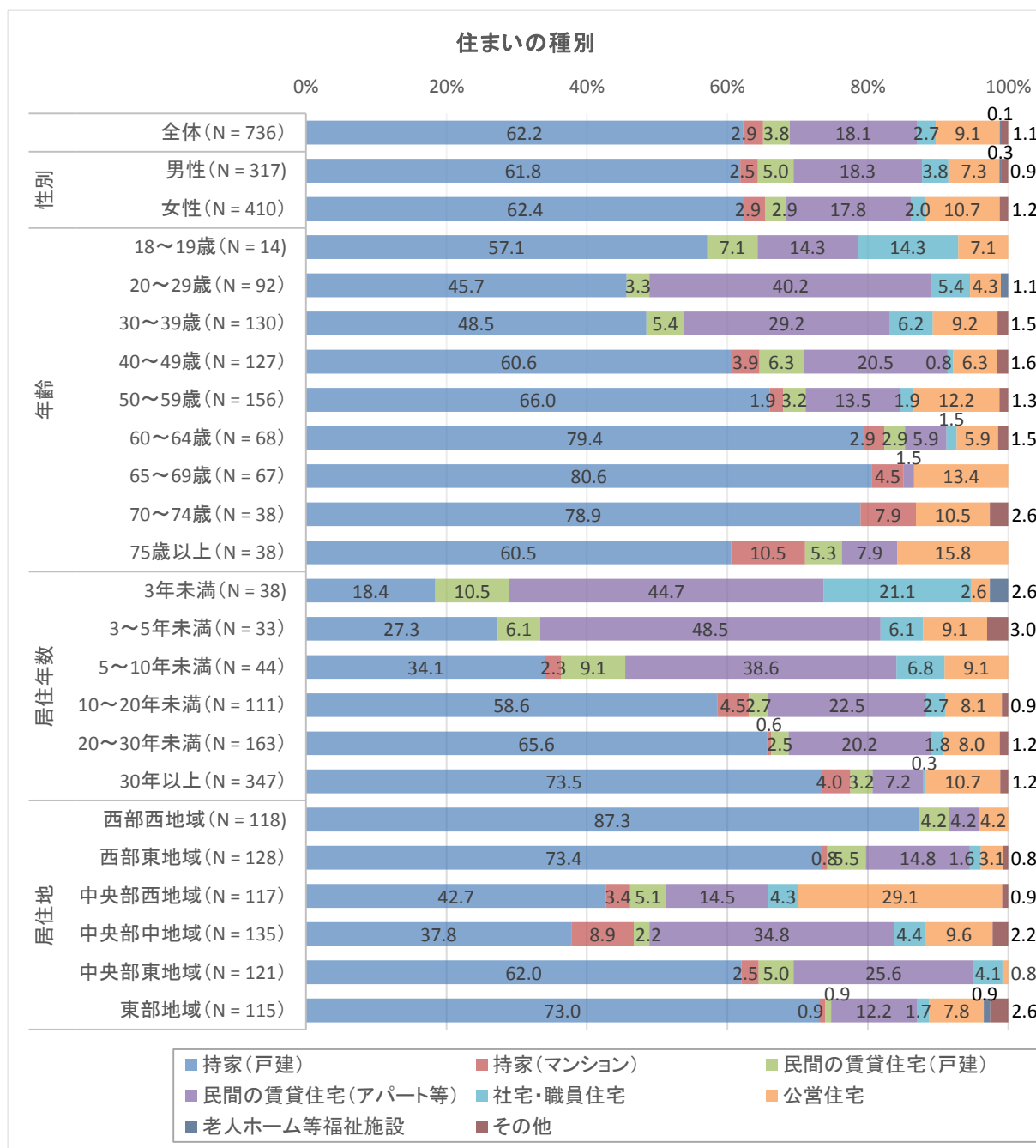
※その他の回答内容

| | | | |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分と子 (2件) ・兄弟 ・自分と妹 ・母、弟 | <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦と子 (2件) ・夫婦と孫 ・夫婦と孫1人 ・自分、同居人 | <ul style="list-style-type: none"> ・親と夫婦 ・親と夫婦と子 ・夫婦、子ども、孫 ・母、妹、甥、姪 | <ul style="list-style-type: none"> ・祖父母、親、妹、自分 ・4世代 |
|--|---|---|---|

6. 住まいの種別

住まいの種別は、「持家（戸建）」が 62.2%で最も多く、次いで「民間賃貸住宅（アパート等）」（18.1%）となっている。

属性別にみると、比較的若い年齢層及び居住年数が短いほど「民間賃貸住宅（アパート等）」の割合が高くなっている。また、居住地別では、「西部西地域」、「西部東地域」、「東部地域」で「持家（戸建）」の割合が、「中央部中地域」で「民間賃貸住宅（アパート等）」の割合が、「中央部西地域」で「公営住宅」の割合が、それぞれ高くなっている。



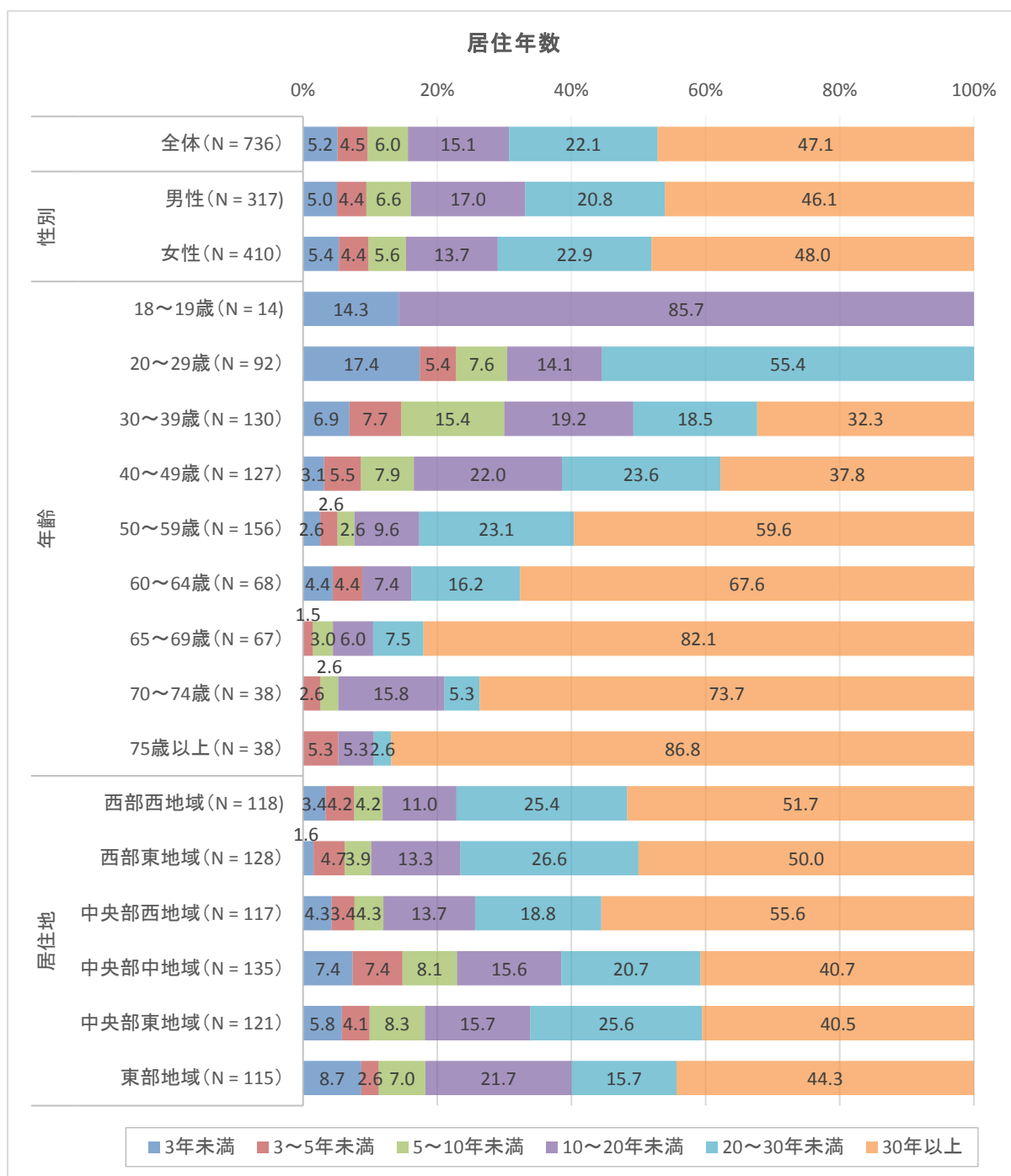
※その他の回答内容

・親の家（4件） ・親の家の離れ ・息子の家に同居 ・高校野球部寮

7. 居住年数

苫小牧市での通算の居住年数は、「30年以上」が47.1%で最も多く、次いで「20～30年未満」（22.1%）、「10～20年未満」（15.1%）の順となっている。

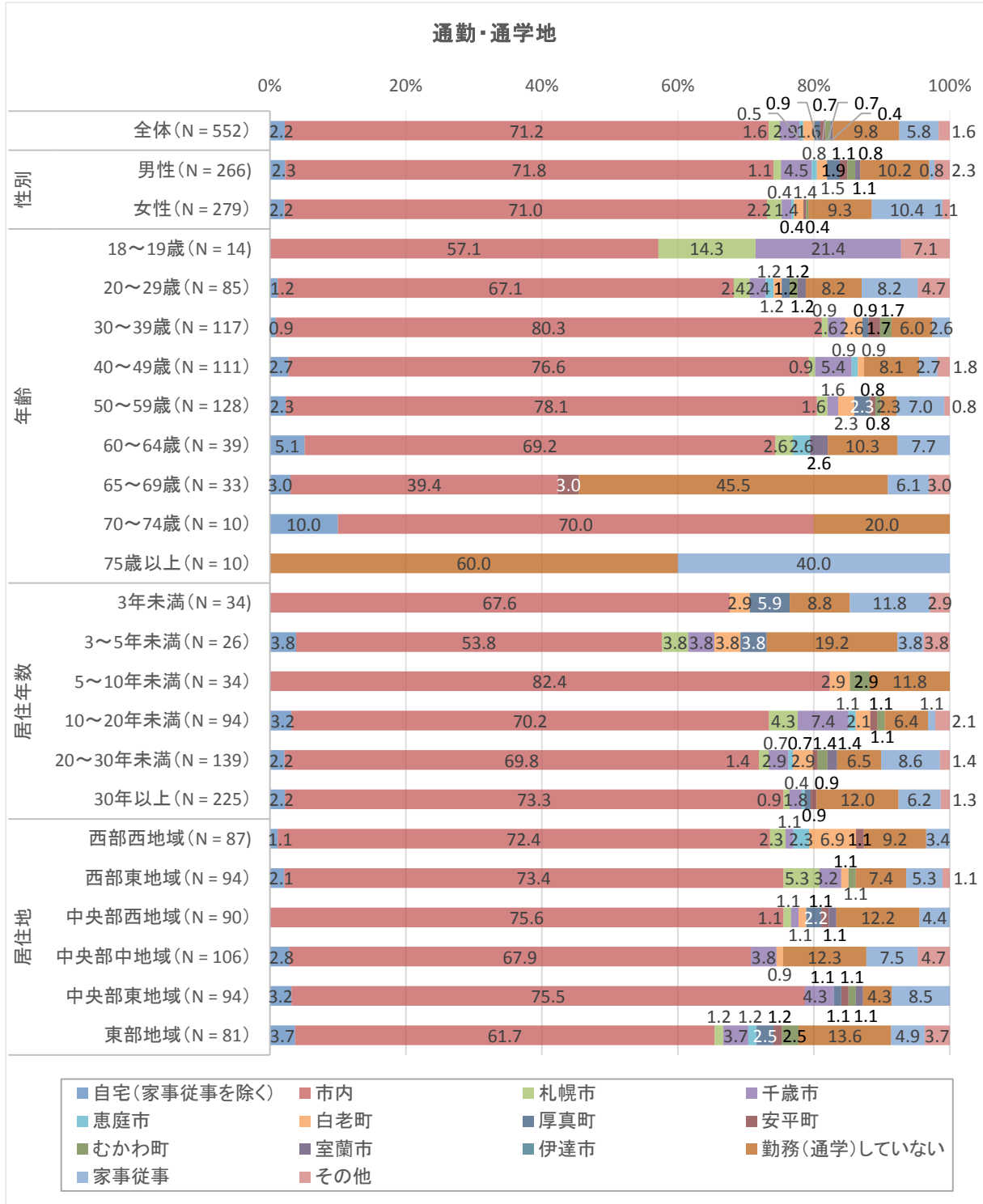
属性別にみると、年齢別では、高い年齢層ほど居住年数も長くなっている。また、居住地別では、「中央部中地域」、「中央部東地域」、「東部地域」で他の地域よりやや居住年数が短くなっている。



8. 通勤・通学地

通勤・通学地は、「市内」が71.2%と大半を占め、次いで「勤務（通学）していない」（9.8%）となっている。

属性別にみると、「18～19歳」において「千歳市」と「札幌市」の割合が高くなっている。



※その他の回答内容

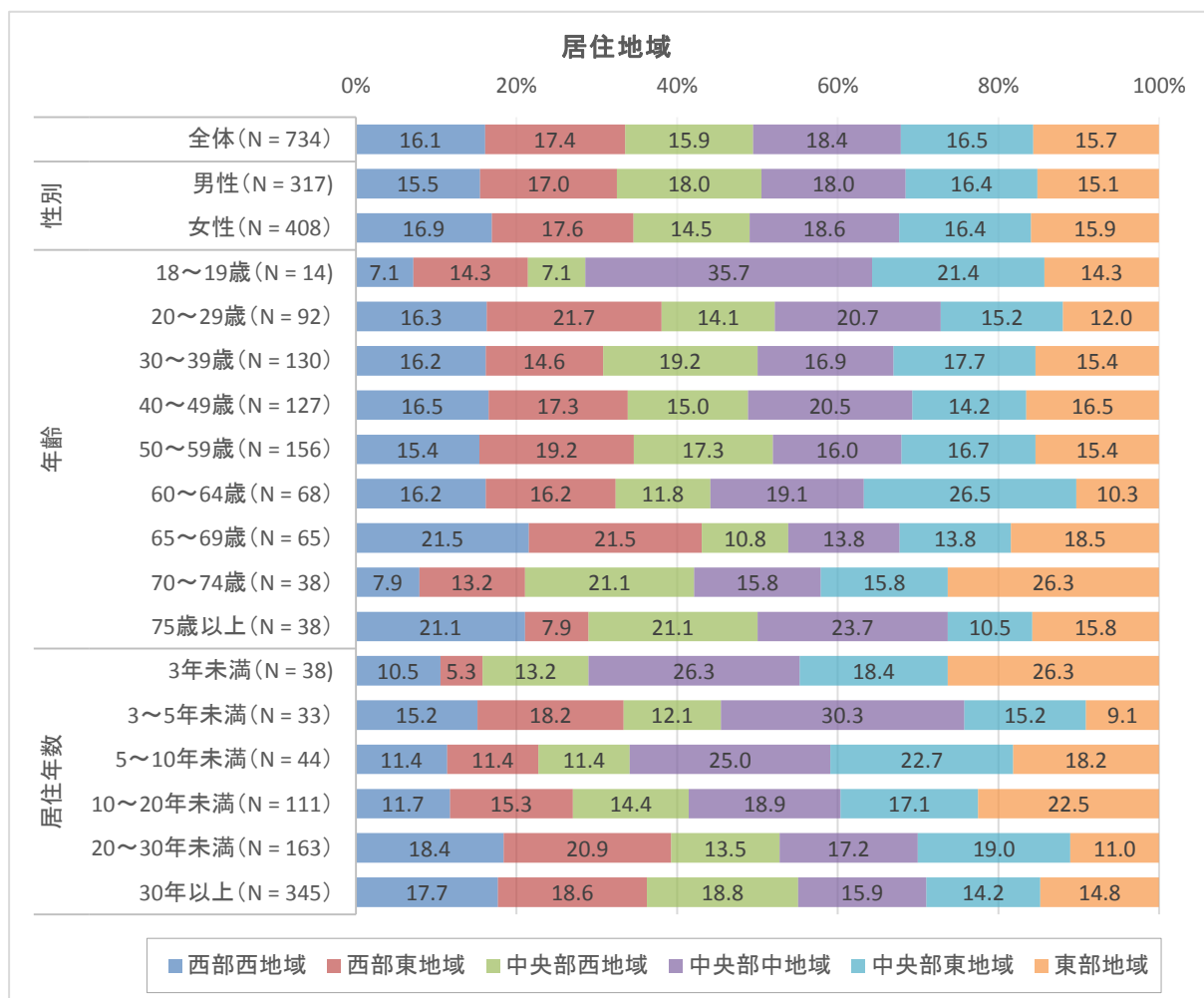
- ・江別市 ・帯広市 ・胆振日高管内 ・東京都（2件） ・京都市 ・道外の大学に在学中
- ・出張サービス ・在宅介護

9. 居住地域

回答者の居住地域は、6地域ともに16～18%程度と、ほぼ均等になっている。

属性別にみると、年齢別では、「18～19歳」で「中央部中地域」の割合が、「60～64歳」では「中央部東地域」の割合が、「70～74歳」では「東部地域」の割合が、それぞれ高くなっている。

居住年数別では、「3年未満」の層で「中央部中地域」及び「東部地域」の割合が高く、「西部東地域」の割合が低くなっている。また、「3年～10年未満」の層では、「中央部中地域」の割合が高くなっている。



【地域区分】

| | |
|--------|---|
| 西部西地域 | 澄川町、ときわ町、美原町、のぞみ町、明德町、宮前町、青雲町、もえぎ町、錦岡、樽前 |
| 西部東地域 | はまなす町、川沿町、柏木町、小糸井町、しらかば町、日新町、永福町、日吉町、桜木町、光洋町、豊川町、松風町、有珠の沢町、有明町、桜坂町、宮の森町、糸井 |
| 中央部西地域 | 見山町、啓北町、山手町、花園町、北光町、青葉町、大成町、新富町、元町、白金町、弥生町、矢代町 |
| 中央部中地域 | 清水町、高丘、泉町、美園町、住吉町、双葉町、緑町、音羽町、三光町、日の出町、木場町、春日町、王子町、表町、幸町、本幸町、大町、本町、寿町、栄町、錦町、旭町、末広町、若草町、新中野町、元中野町、汐見町、港町、浜町、高砂町、船見町、入船町 |
| 中央部東地域 | 新明町、明野新町、明野元町、新開町、柳町、晴海町、一本松町、真砂町 |
| 東部地域 | 沼ノ端中央、あけぼの町、勇払、植苗、美沢、東開町、拓勇東町、拓勇西町、北栄町、柏原、沼ノ端、ウトナイ北、ウトナイ南、丸山、静川、弁天 |

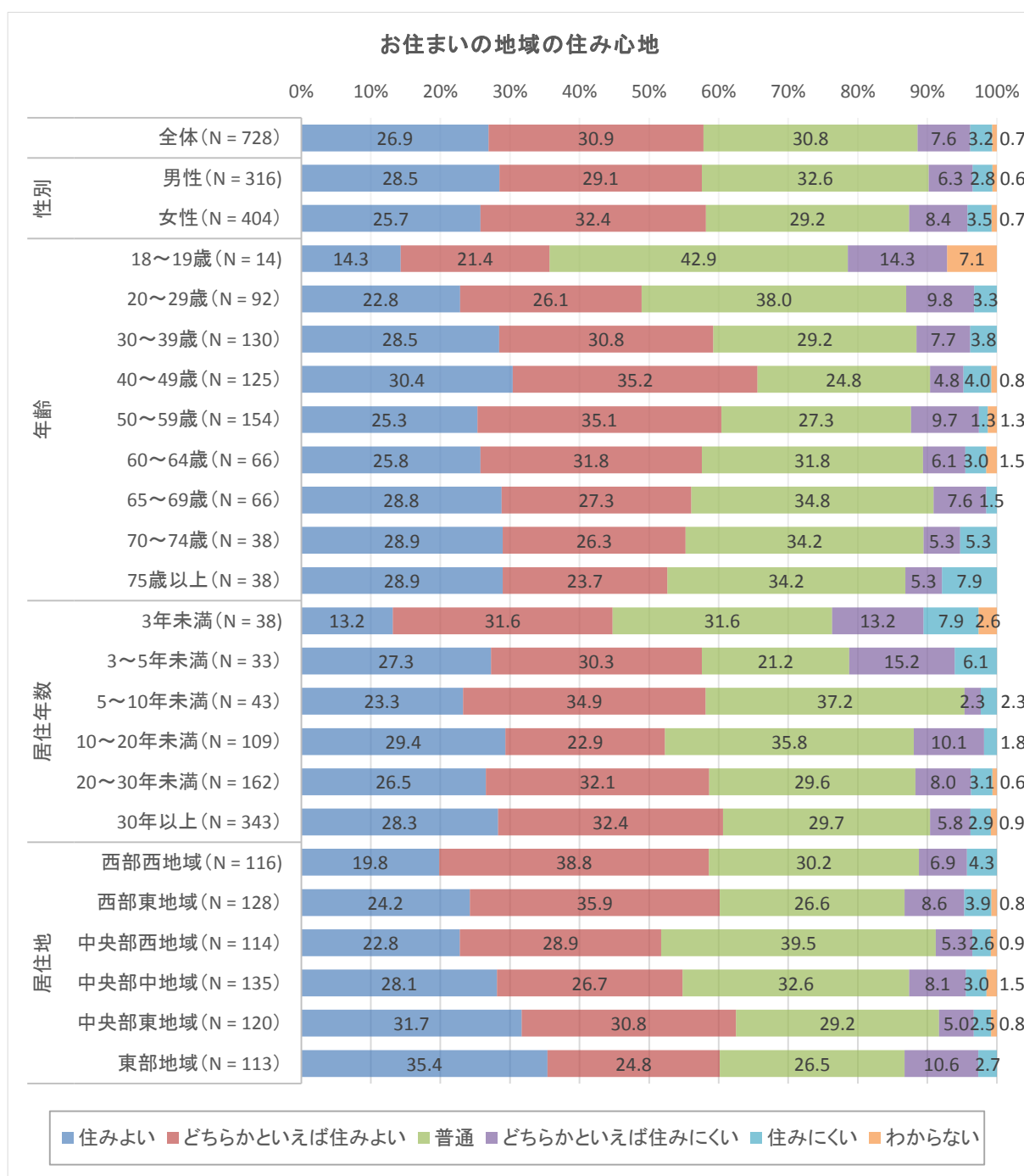
(2) 住み心地と定住意向について

1. 住み心地

お住まいの地域の住み心地については、「住みよい」(26.9%)、「どちらかと言えば住みよい」(30.9%)を合わせて、全体の57.8%が住みよいと感じている。

属性別にみると、年齢別で「18～19歳」の層、居住年数別で「5年未満」の層で、「どちらかと言えば住みにくい」、「住みにくい」とする回答割合が高くなっている。

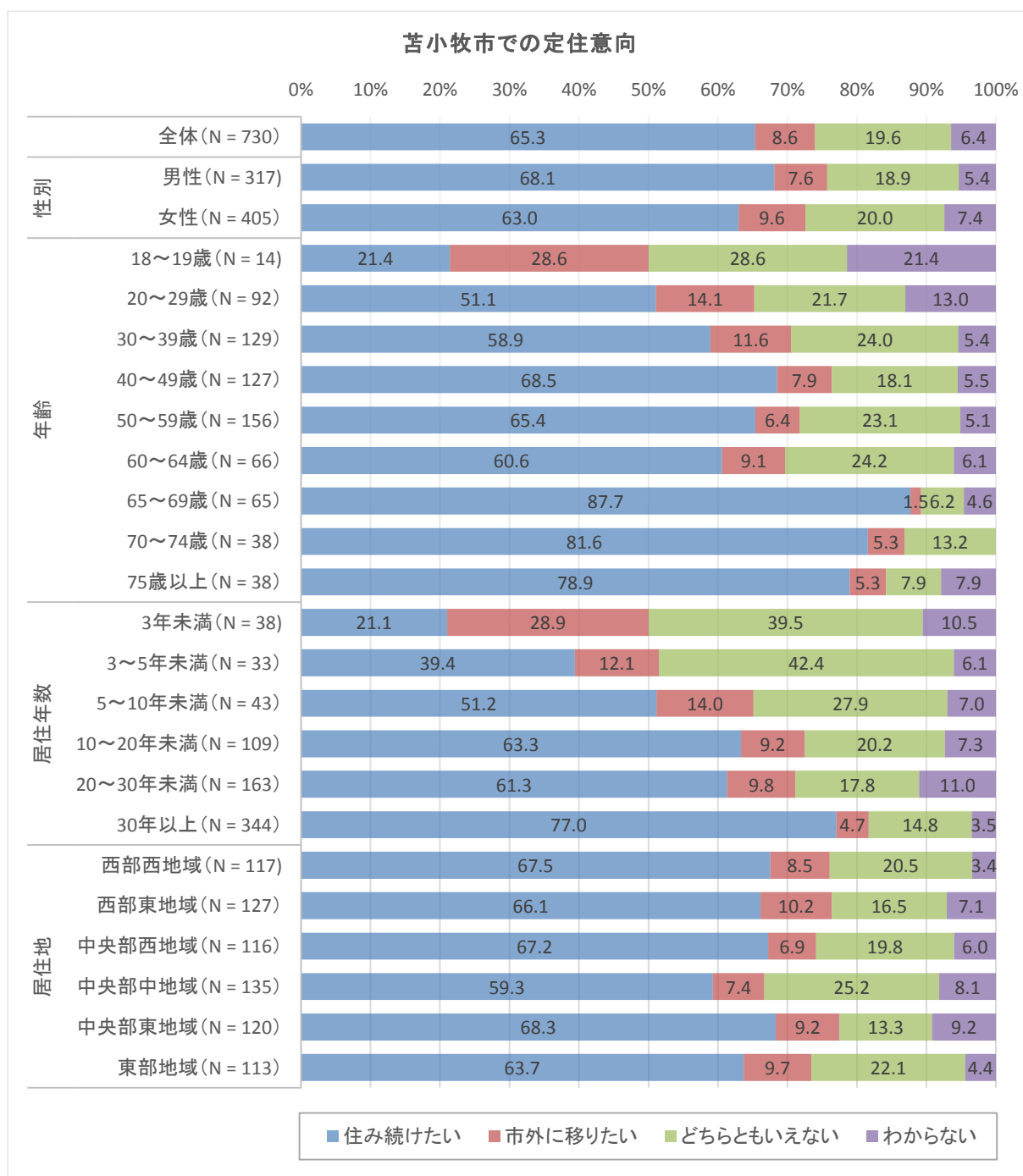
また、居住地別では、市域の東側の地域ほど「住みよい」の回答割合が高くなっている。



2. 定住意向

苫小牧市での定住意向については、「住み続けたい」が 65.3%となっており、「市外に移りたい」の 8.6%を大きく上回っている。

属性別にみると、年齢「18～19 歳」、居住年数「3 年未満」の層で「住み続けたい」より「市外に移りたい」の割合が高くなっている。

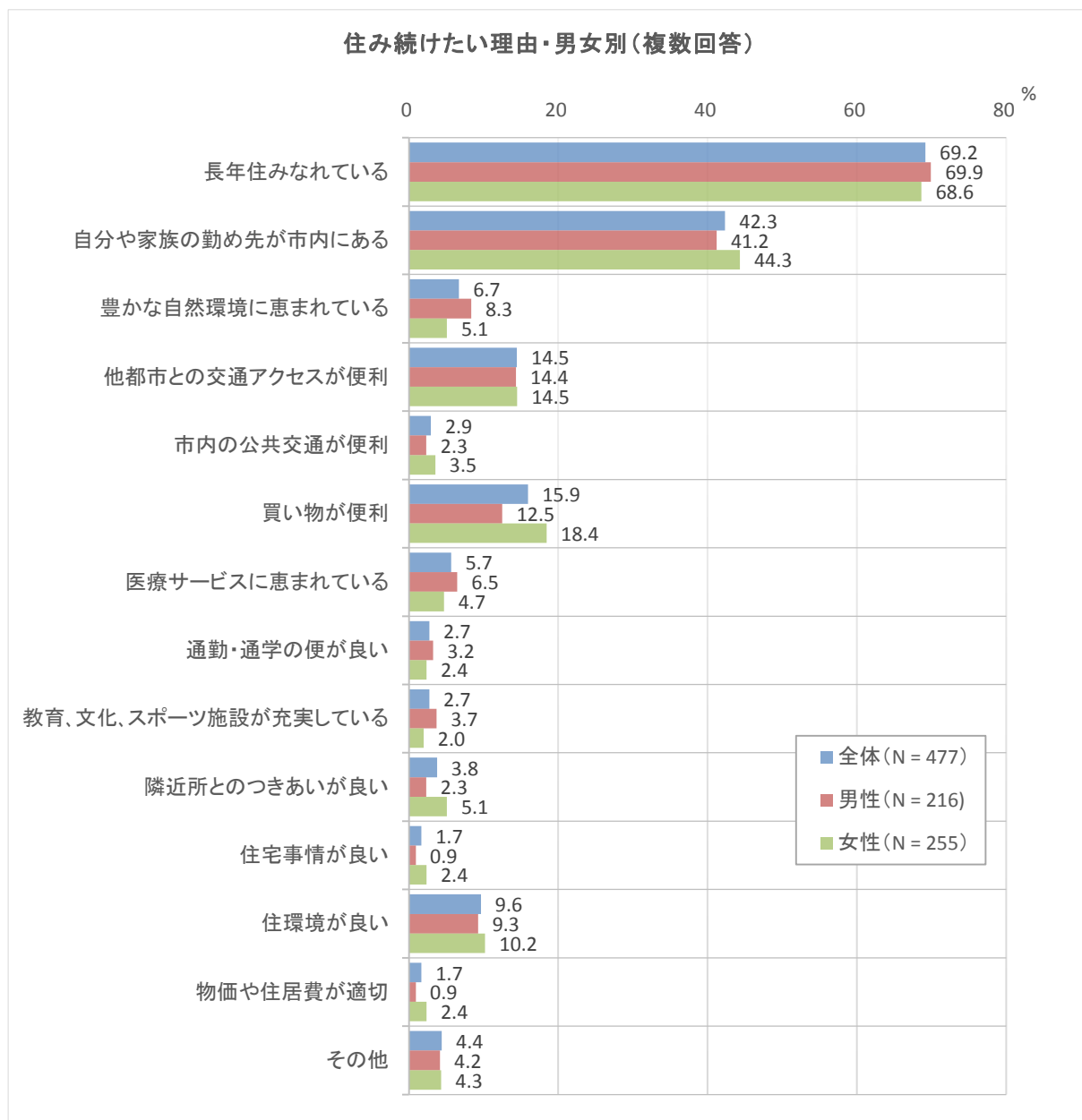


3. 住み続けたい理由

「住み続けたい」と思う主な理由については、「長年住みなれている」が 69.2%で最も多く、次いで「自分や家族の勤め先が市内にある」（42.3%）となっている。

属性別にみると、全体的な傾向と大きくは変わらないものの、男女別では、「買い物便利」の回答割合が「女性」でやや高くなっている。

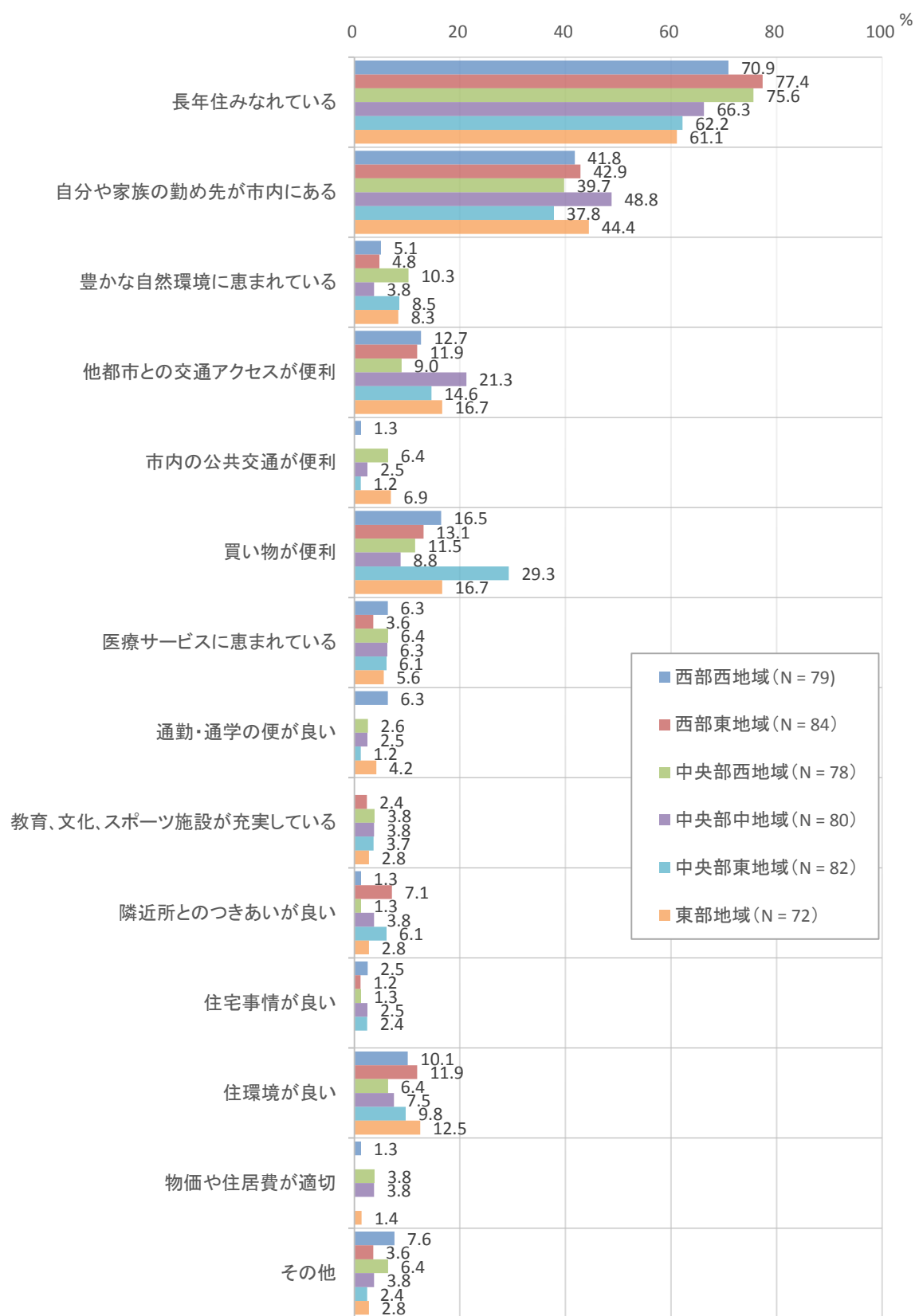
また、居住地別では、「中央部東地域」では、大型商業施設の立地等を反映し、「買い物便利」の回答割合が他地域に比べ高くなっている。



※その他の回答内容

| | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家を購入したから（2件）。 ・家を建てたため。 ・持家のため。 ・実家が近いため。 ・両親の世話がしたい。 ・先祖の墓がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧が好きだから。 ・図書館、博物館などの施設やサービスが充実しているから。 ・全てにおいてこちよいので。 ・今に良くなるという将来への期待がある。 ・ゴルフ場環境良好。 | <ul style="list-style-type: none"> ・雪が少ない（3件）。 ・静か。 ・災害が少ない。 ・娘の学校の関係。 ・家庭の事情で。 ・他に行けないので。 |
|---|---|--|

住み続けたい理由・居住地域別（複数回答）

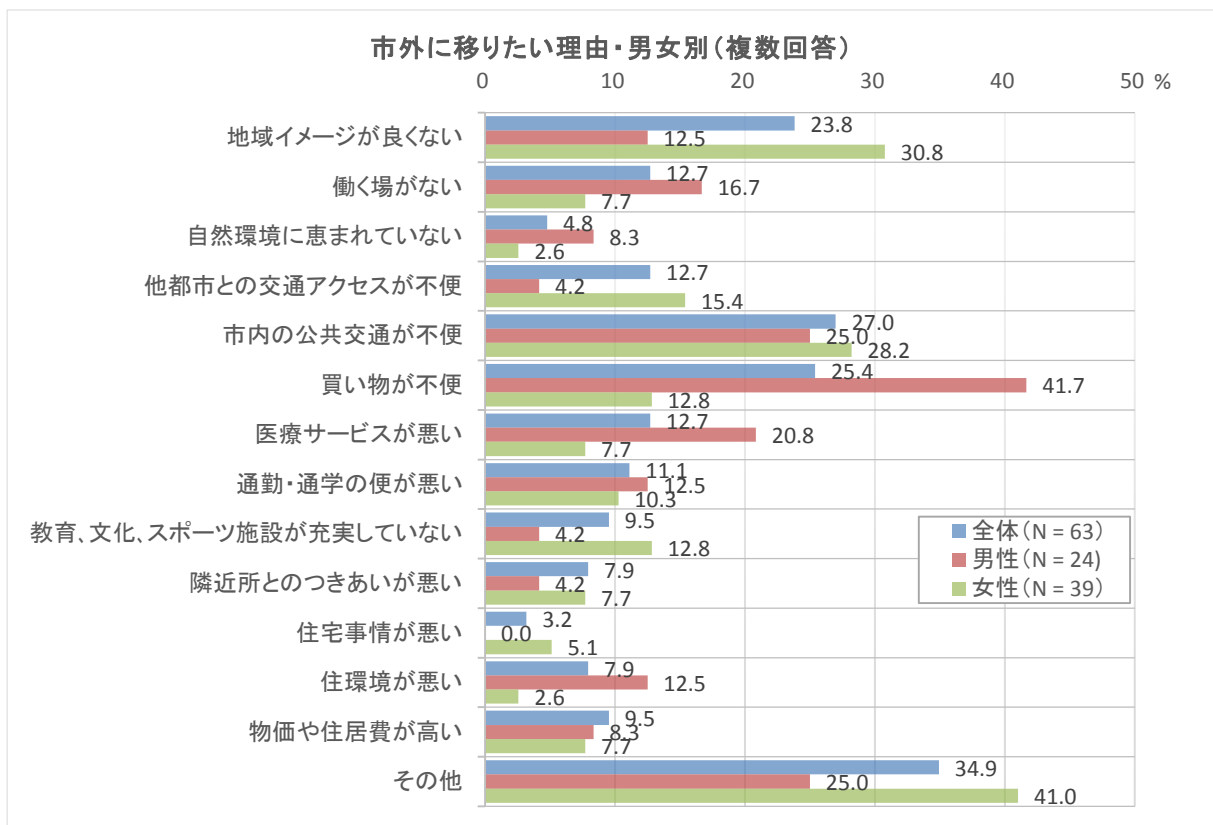


4. 市外に移りたい理由

「市外に移りたい」と思う主な理由について、「市内の公共交通が不便」が 27.0%で最も多く、次いで「買い物が不便」(25.4%)、「地域イメージが良くない」(23.8%)の順となっている。

属性別にみると、男女別では、男性は「買い物が不便」が 41.7%で最も多く、次いで「市内の公共交通が不便」(25.0%)、「医療サービスが悪い」(20.8%)となっている。一方、女性は「地域イメージが良くない」が 30.8%で最も多く、次いで「市内の公共交通が不便」(28.2%)、「他都市との交通アクセスが不便」(15.4%)となっており、男女での回答に差がある。

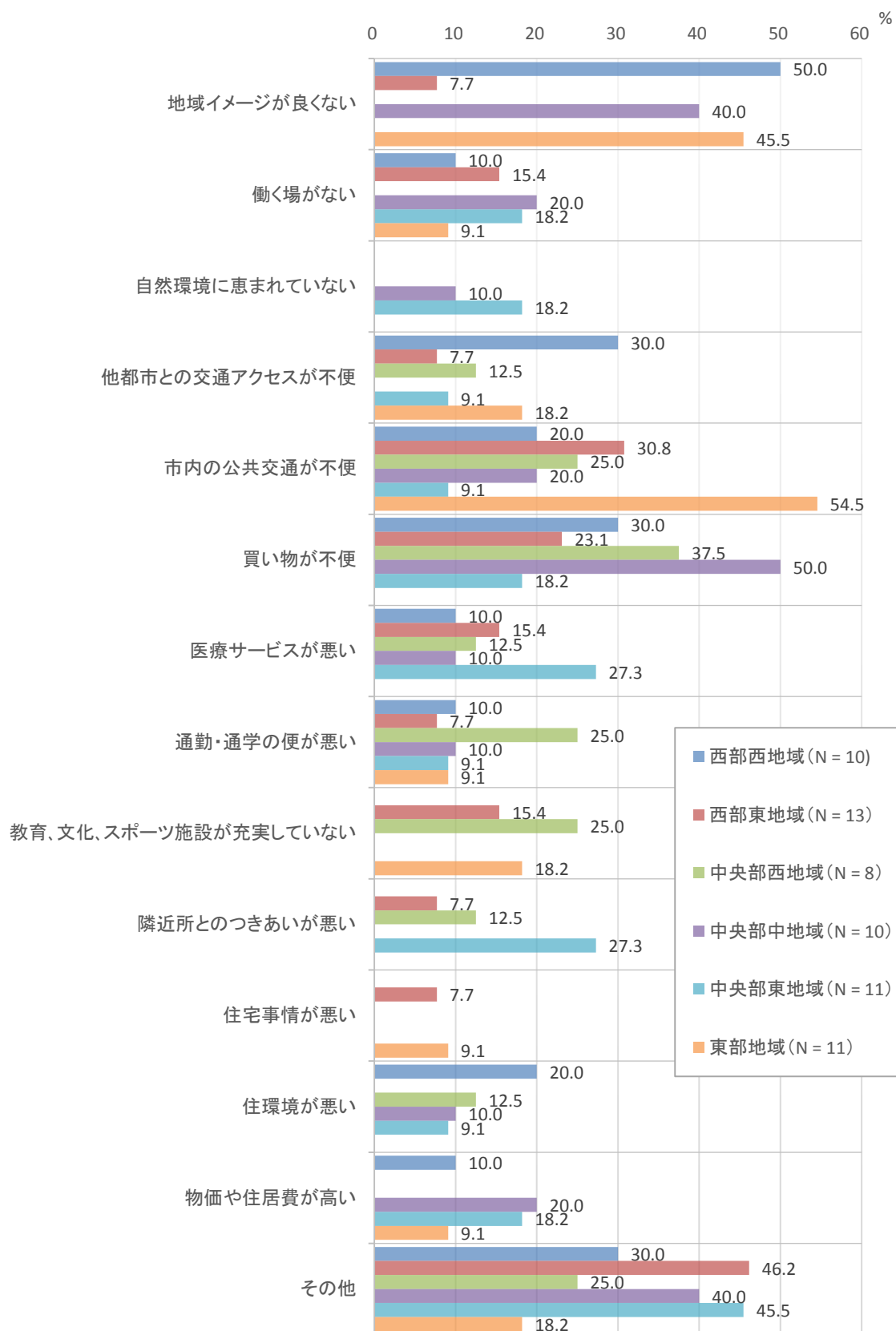
居住地別では、集計母数が少ないことから集計結果に偏りはあるものの、地域によって違いが出ている。それぞれの地域で 1 位にあげた理由をみると、「西部西地域」では「地域イメージが良くない」、「西部東地域」及び「東部地域」では「市内の公共交通が不便」、「中央部西地域」及び「中央部中地域」では「買い物が不便」、「中央部東地域」では「医療サービスが悪い」と「隣近所とのつきあいが悪い」となっている。



※その他の回答内容

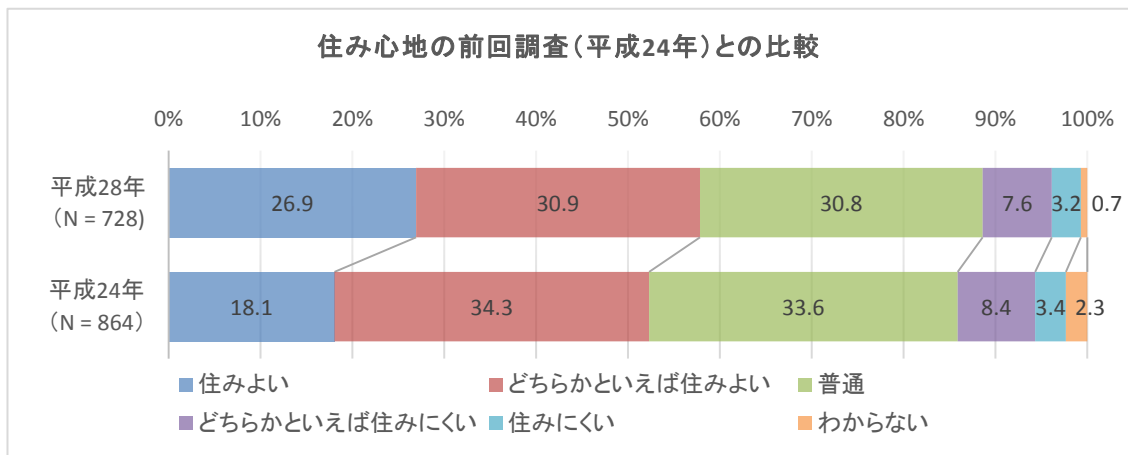
| | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・パチンコ店が多く子どもたちにとって環境が良くない。 ・生活を楽しむ場所がなく、退屈に過ごしている。 ・商業施設がイオンだけ、屋内で遊ぶ所が少ない。 ・保育園が少ない。 ・税金が高すぎ。 ・治安がよくない。 ・大気汚染。 ・肌が合わない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・海が見えるところを買ったのに、海岸沿いにタイヤや小屋がらくたが積まれて海が見えなくなった、市は何もしてくれない。 ・夏がない。 ・市内の天候が悪い。 ・車がなくても生活がしやすい環境が好きだから。 ・市外にある実家付近に住もうと思っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢になると雪かきが大変になるので市外にいる妹の近くのマンションに移り住みたい。 ・子どもと離れて住んでいるため。 ・生まれ育った札幌に戻りたいから。 ・地元に戻るから。 ・苫小牧に愛着がない。 ・魅力がない。 ・別の地域に住んでみたいため。 |
|--|---|--|

市外に移りたい理由・居住地域別(複数回答)

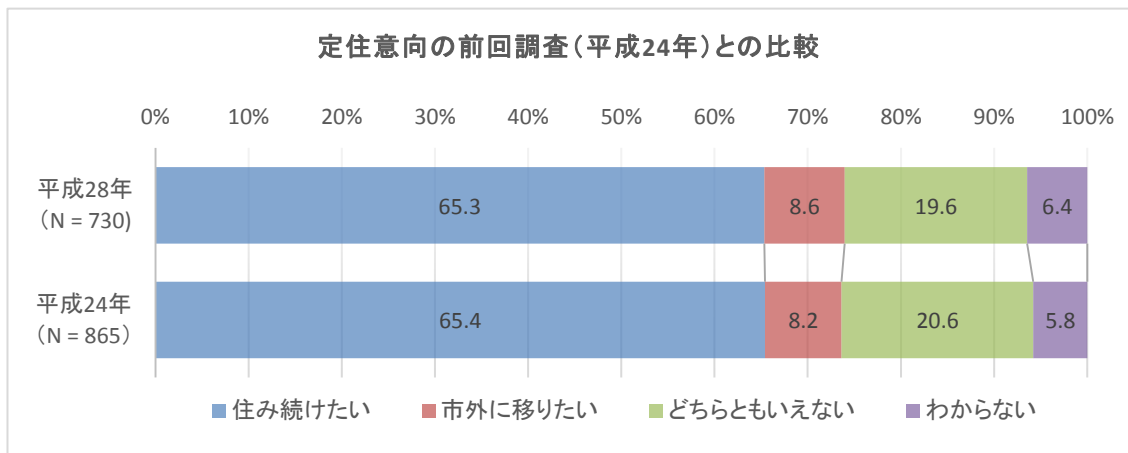


<参考>前回の市民意識調査結果（平成24年）との比較

平成24年調査の住み心地では、住みよいとする回答（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）が52.4%、住みにくいとする回答（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）が11.8%となっているのに対し、今回調査では、それぞれ57.8%、10.8%となり、住み良いとする回答が5.4ポイント増加、住みにくいとする回答が1ポイント減少する結果となっている。

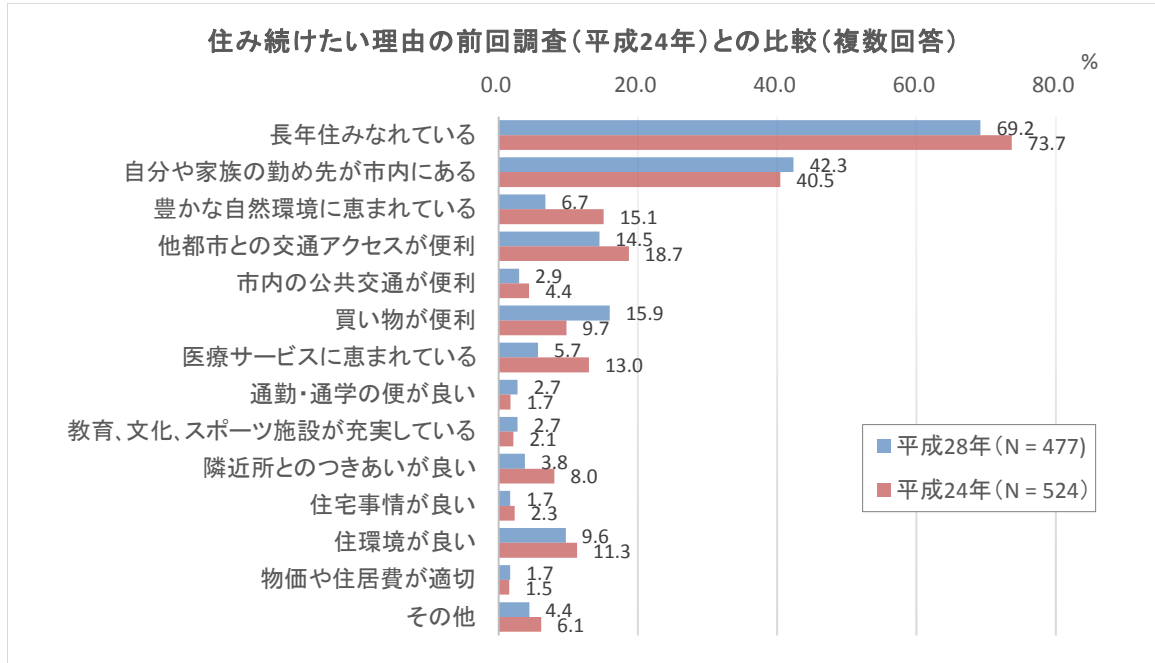


今後の苫小牧市での定住意向については、「住み続けたい」との回答が、前回調査では65.4%であったのに対し、今回調査では65.3%とほぼ拮抗している。



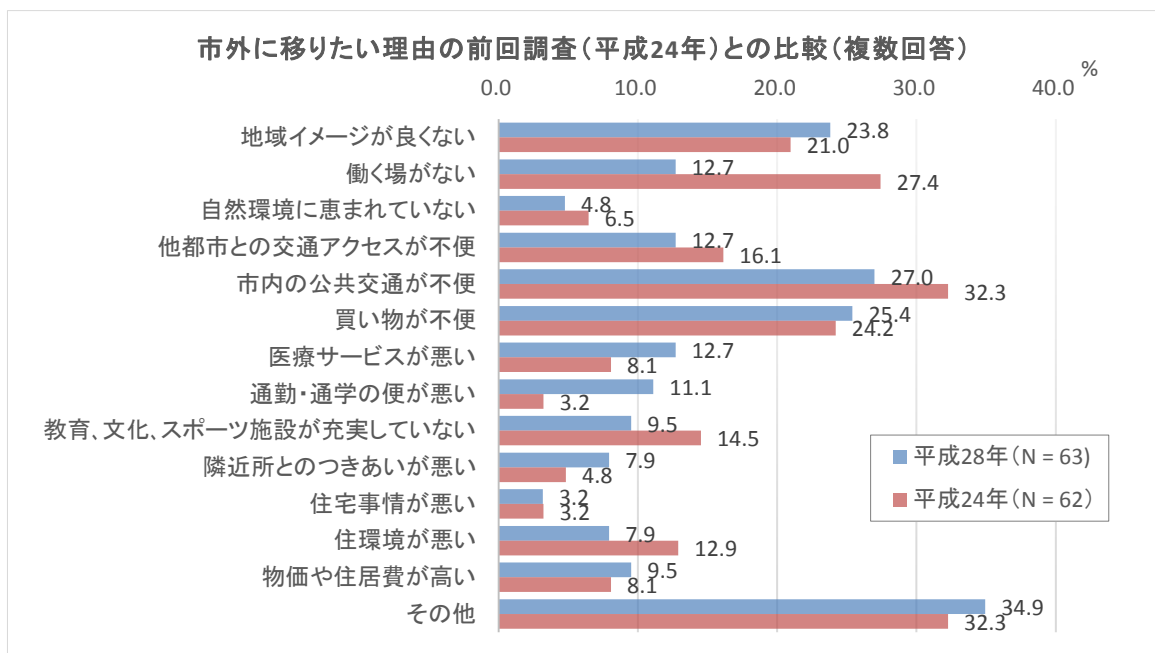
「住み続けたい」と思う理由について比較すると、前回調査、今回調査ともに「長年住みなれている」が最も高くなっており、次いで「自分や家族の勤め先が市内にある」となっている。

また、「豊かな自然環境に恵まれている」については 8.4 ポイント、「医療サービスに恵まれている」については 7.3 ポイント、それぞれ前回調査から減少している。



一方、「市外に移りたい」と思う理由について比較すると、前回調査、今回調査ともに「市内の公共交通が不便」が最も高く、次いで「買い物が不便」、「地域イメージが良くない」の順となっている。

このうち「市内の公共交通が不便」については、前回調査より 5.3 ポイント減少、前回、2 番目の回答であった「働く場がない」は、14.7 ポイント減少している。一方「地域イメージが良くない」は、前回調査より 2.8 ポイント増加している。



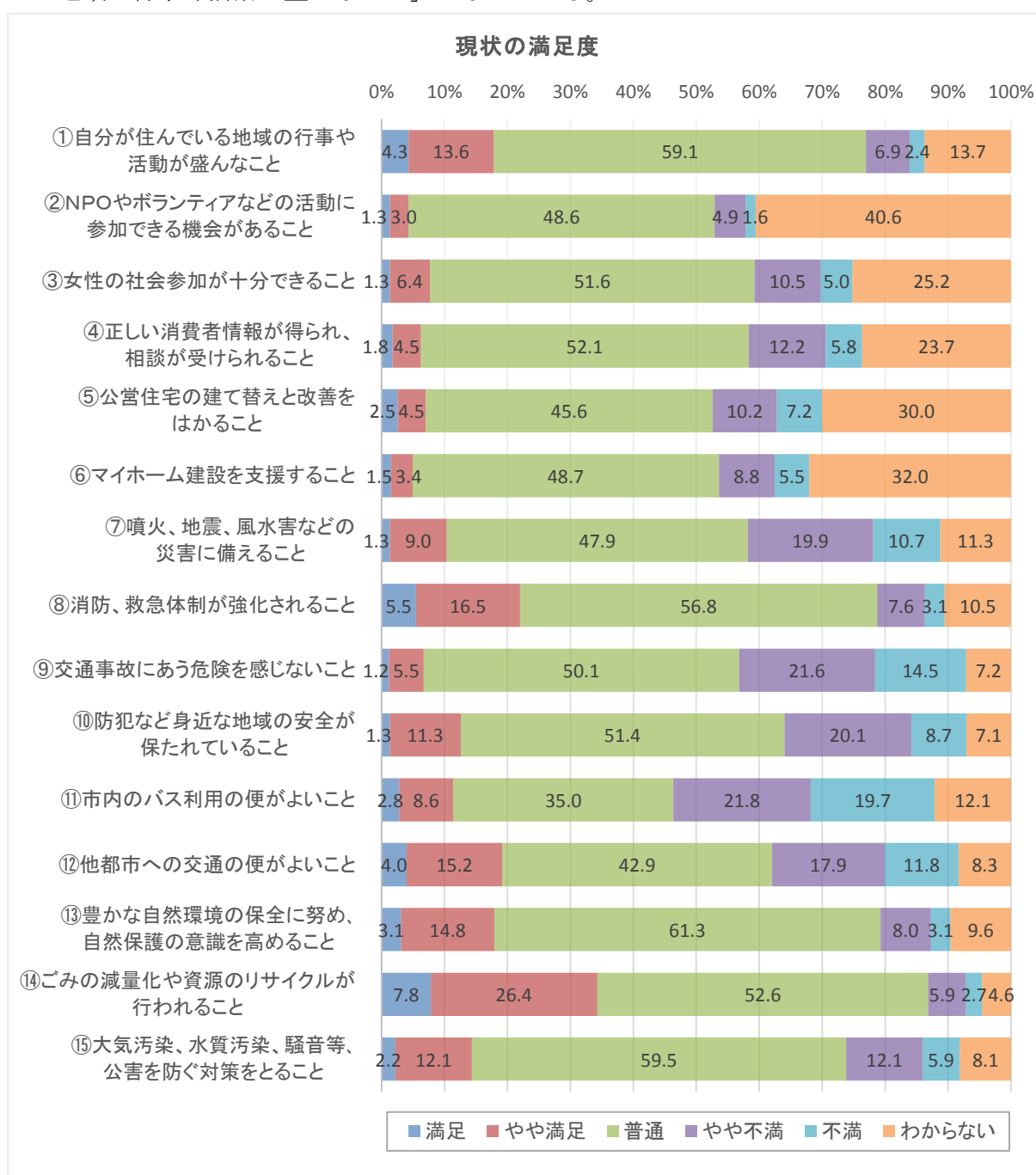
(3) 施策の満足度と今後の重要度について

1. 暮らし・環境

<現状の満足度>

生活環境の現状の満足度について、「普通」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、満足よりも不満の割合の方が高いものは、順に「⑪市内のバス利用の便がよいこと」、「⑨交通事故にあう危険を感じないこと」、「⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること」となっている。

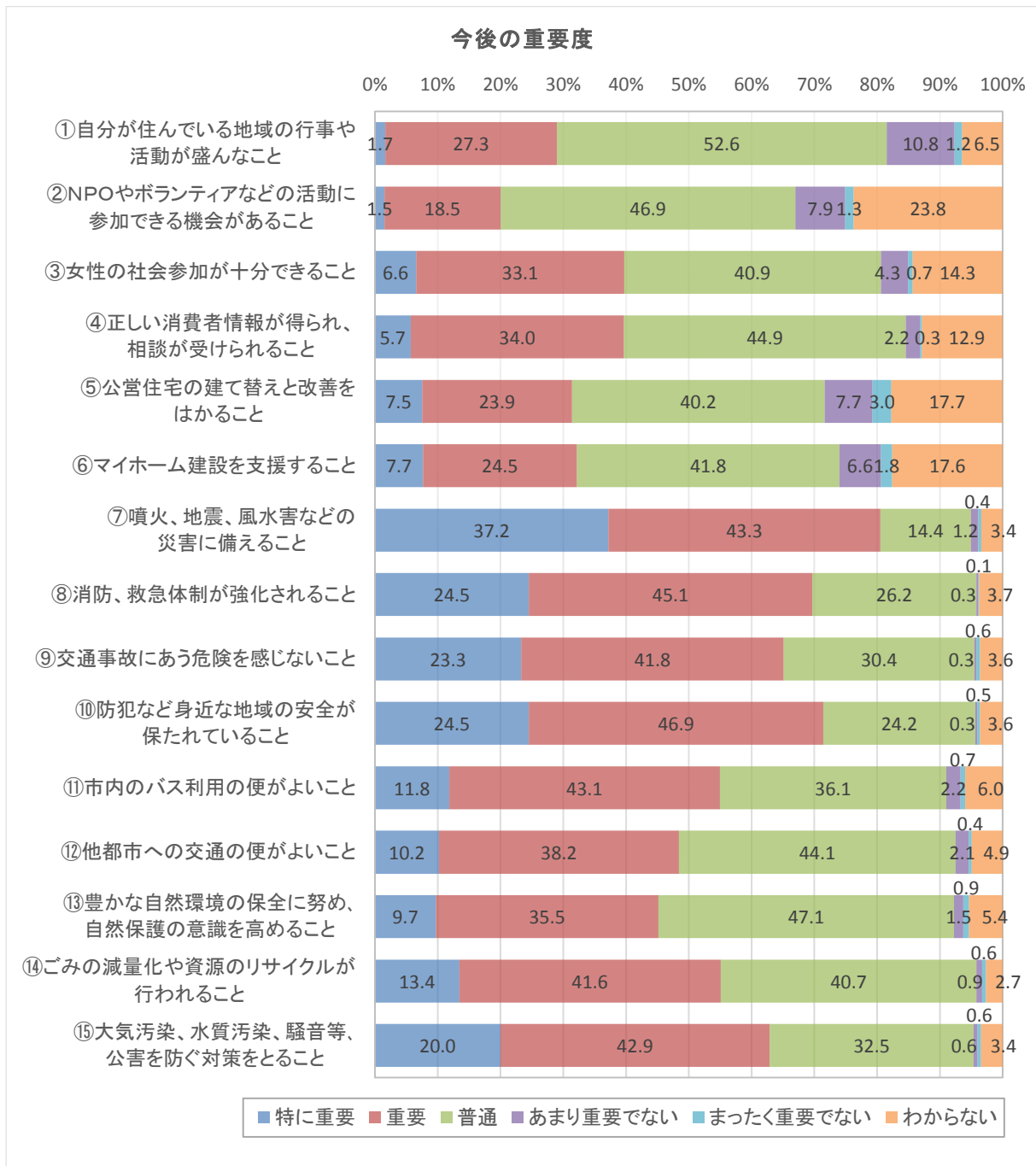
一方、満足している割合の方が高いものは、順に「⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること」、「⑧消防、救急体制が強化されること」、「①自分の住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと」となっている。



<今後の重要度>

生活環境の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること」、「⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること」、「⑧消防、救急体制が強化されること」、「⑨交通事故にあう危険を感じないこと」となっている。

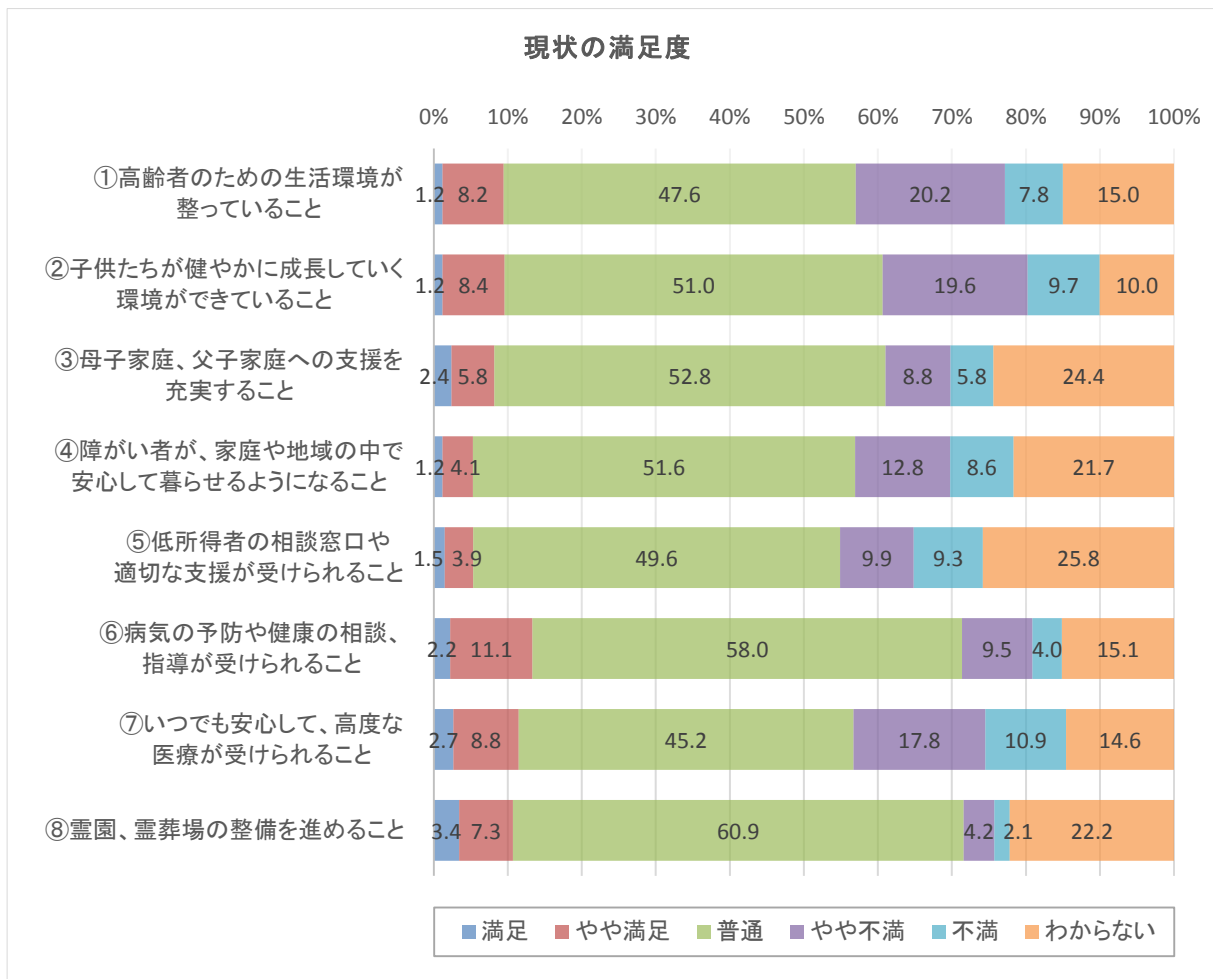


2. 福祉・保健・医療

<現状の満足度>

福祉・保健・医療の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、「⑧霊園、霊葬場の整備を進めること」を除く他の項目全てにおいて満足よりも不満の割合の方が大きい。

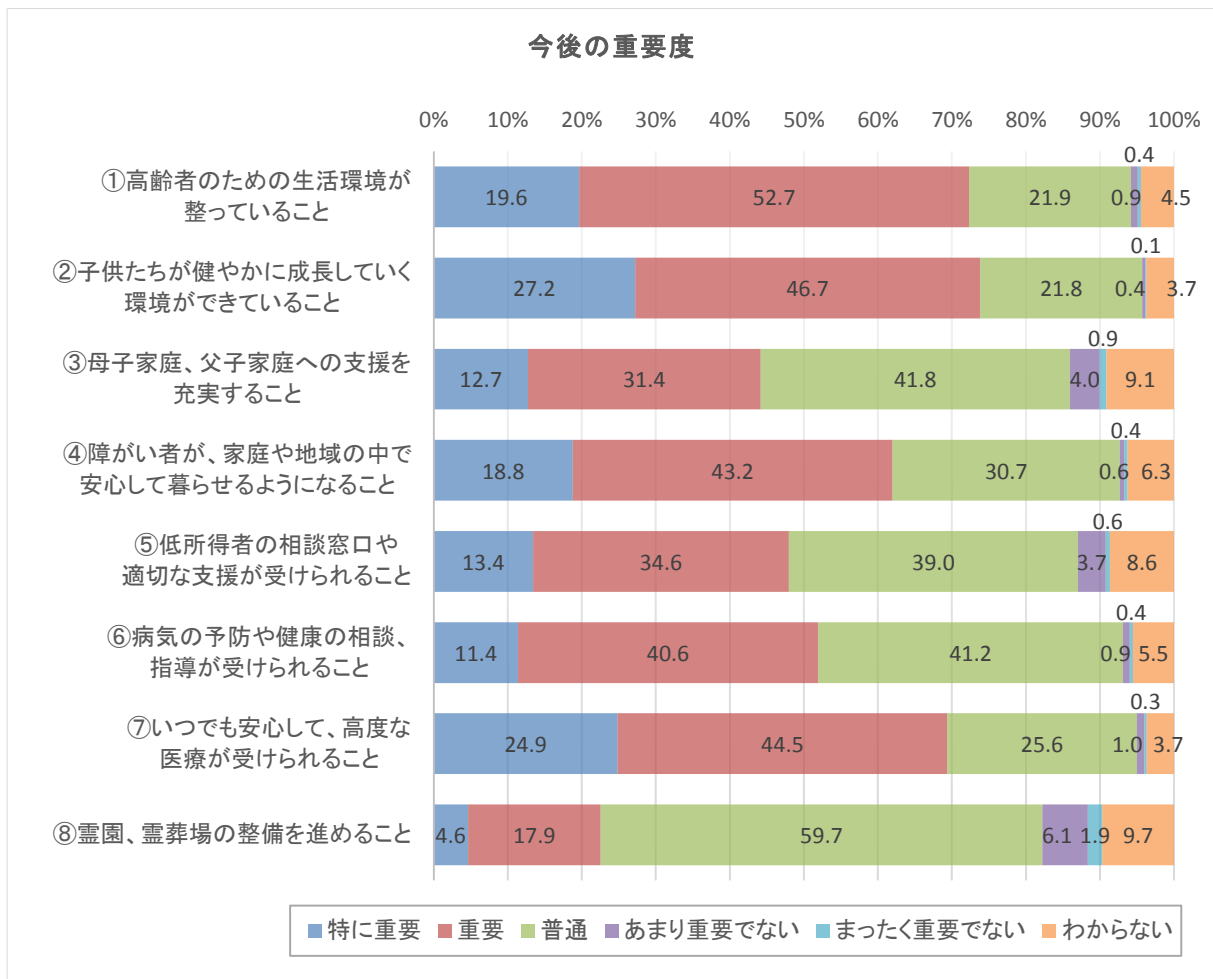
不満の割合の高い項目は、順に「②子供たちが健やかに成長していく環境ができていくこと」、「①高齢者のための生活環境が整っていること」、「⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること」となっている。



<今後の重要度>

保健・医療・福祉の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「②子供たちが健やかに成長していく環境ができていくこと」、「①高齢者のための生活環境が整っていること」、「⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること」となっている。

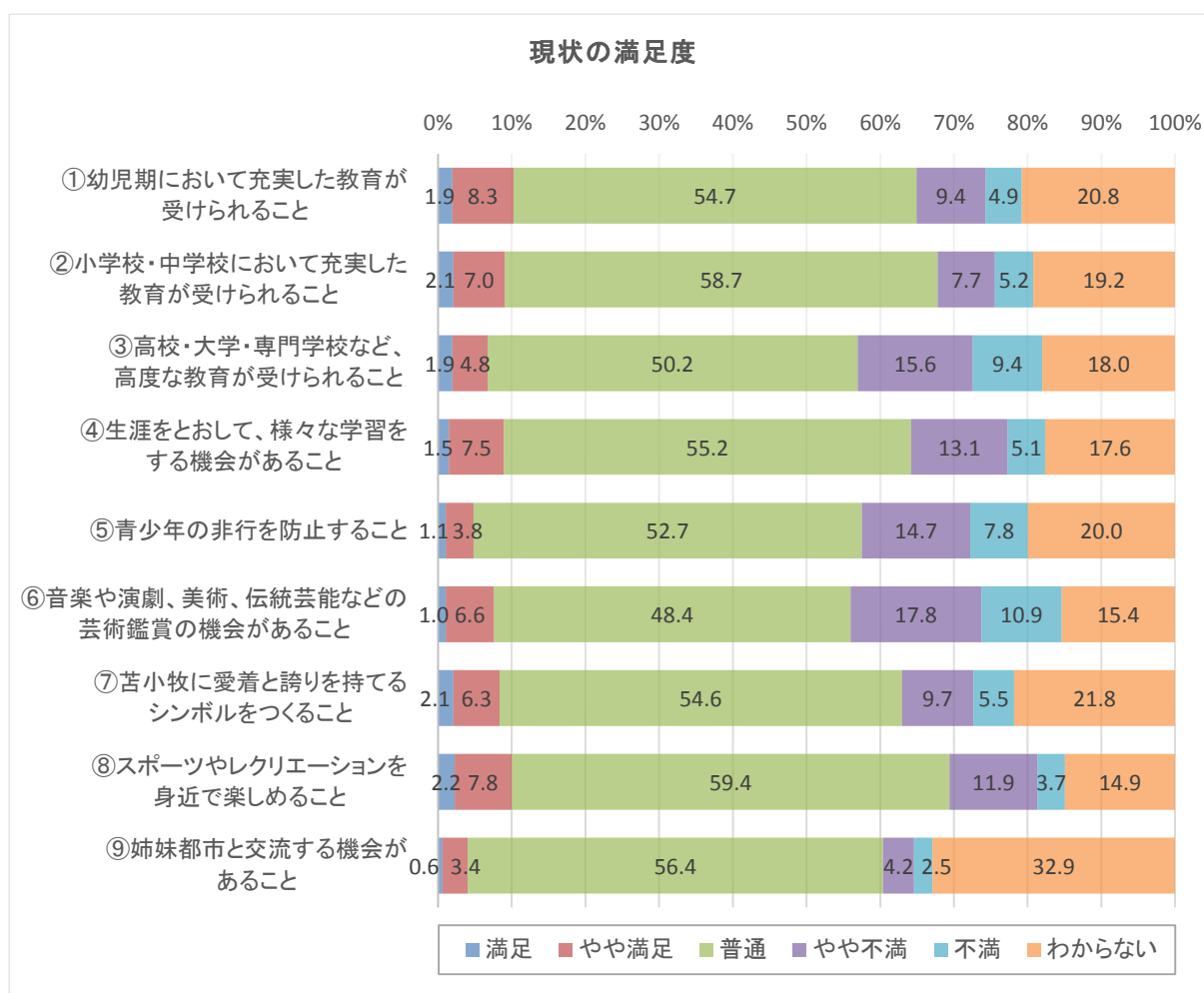


3. 教育・文化

<現状の満足度>

教育・文化の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、全ての項目において満足よりも不満の割合の方が大きい。

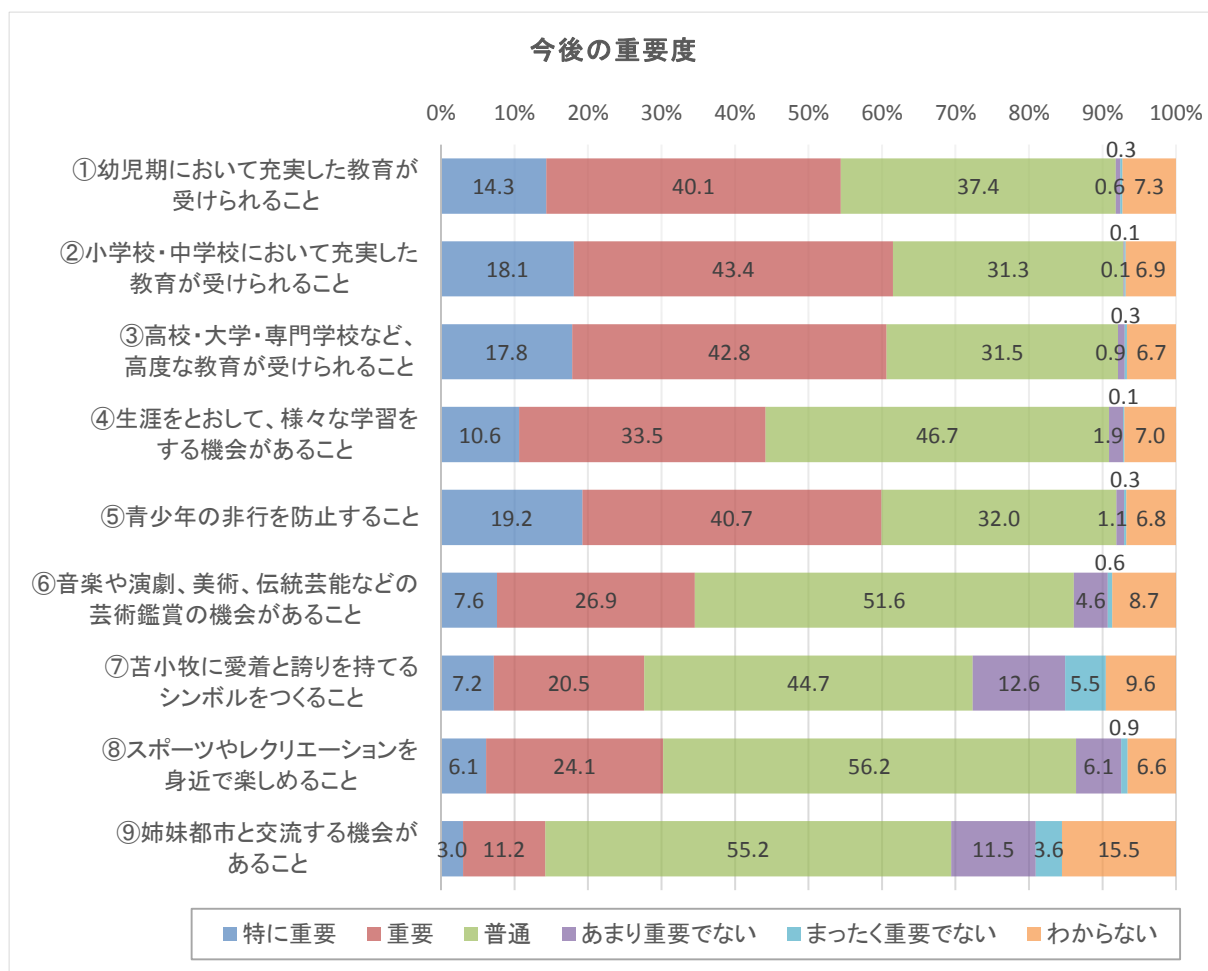
不満の割合の方が高いものは、順に「⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること」、「③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること」、「⑤青少年の非行を防止すること」となっている。



<今後の重要度>

教育・文化の今後の重要度について、「普通」との回答割合が比較的高いものの、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、「⑨姉妹都市と交流する機会があること」を除く他の項目全てにおいて、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「②小学校・中学校において充実した教育が受けられること」、「③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること」、「⑤青少年の非行を防止すること」となっている。



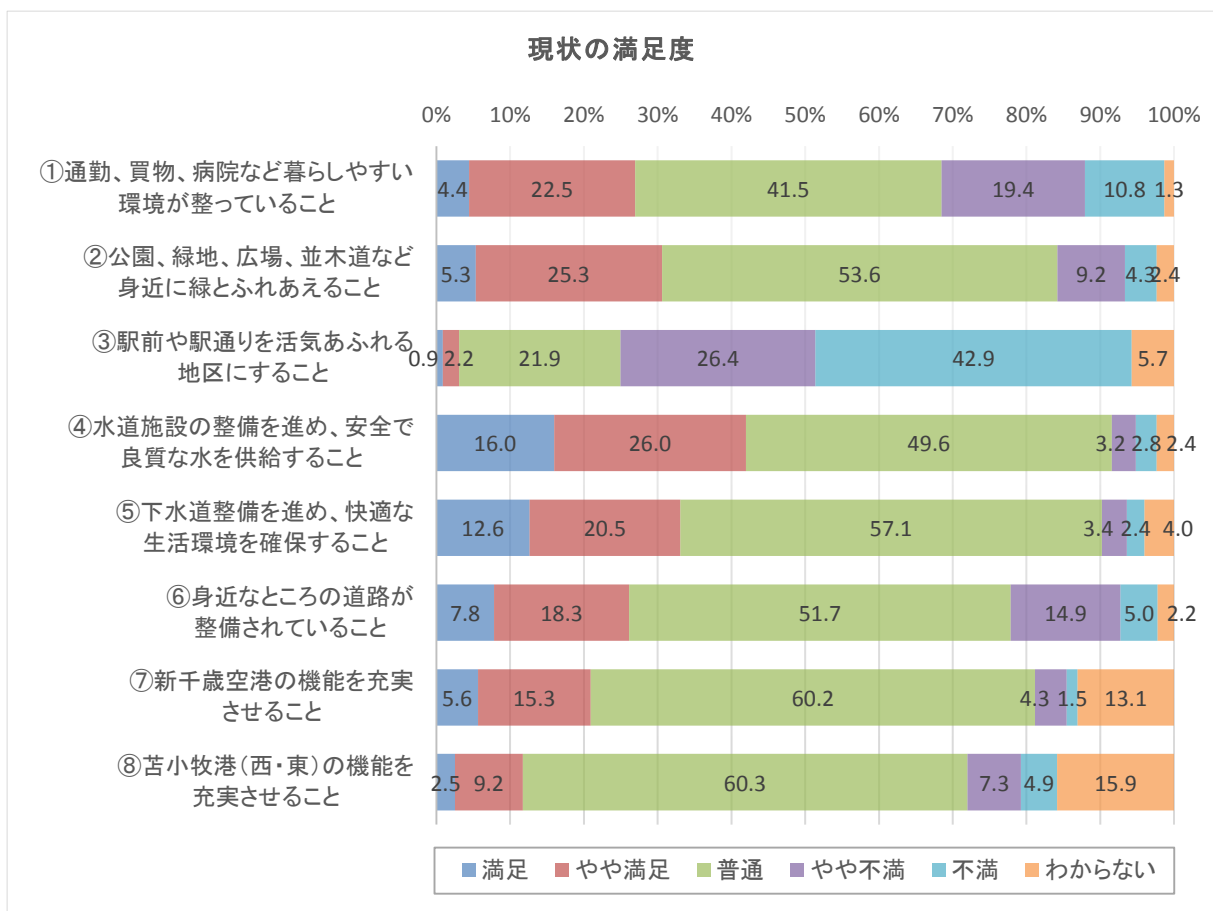
4. 都市基盤

<現状の満足度>

都市基盤の現状の満足度について、「普通」の回答割合が「③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」を除いて高くなっている。

「③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」については、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）が69.3%と非常に高くなっている。

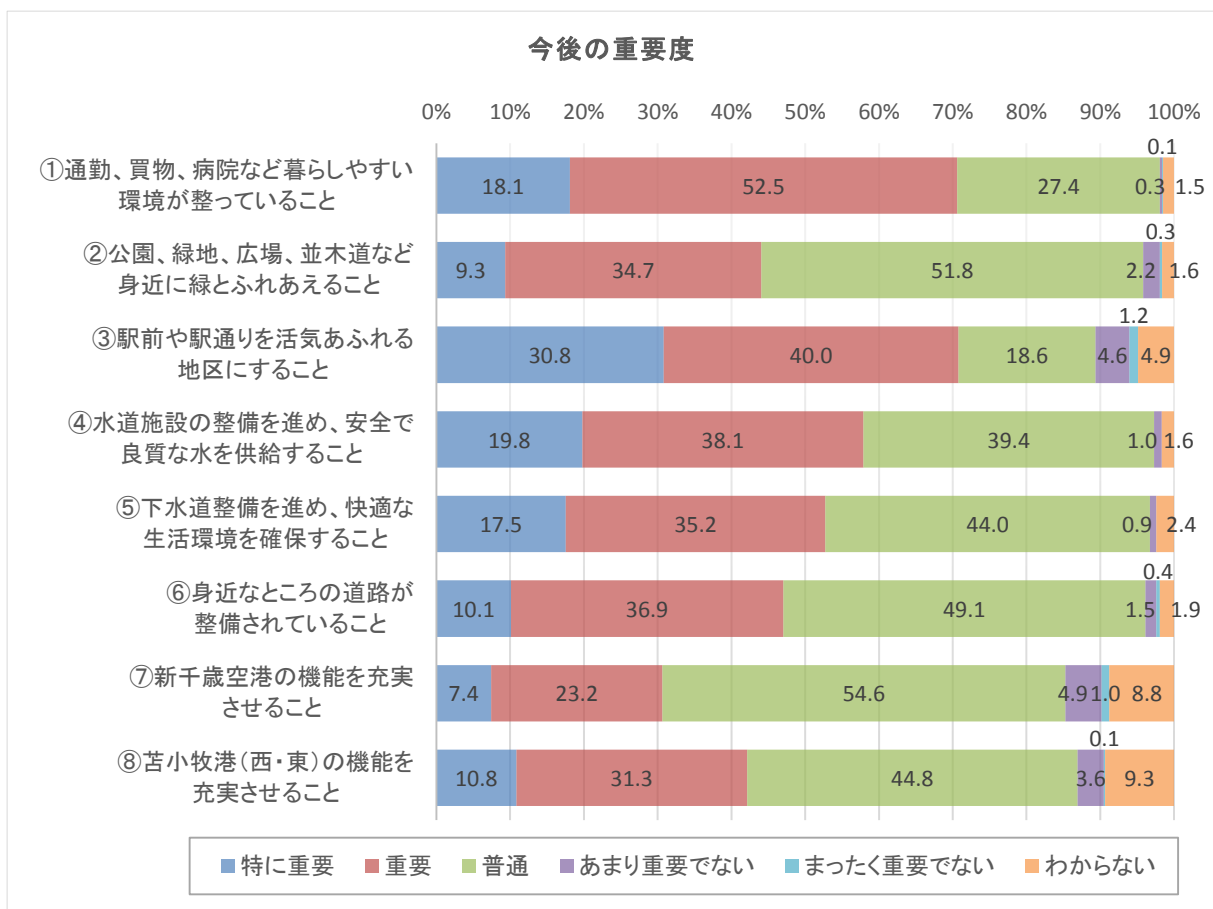
その他の項目の大半は満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合が高くなっており、高い順に「④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること」、「⑤下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること」、「④品揃えの豊富な小売店の充実」、「②公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること」となっている。



<今後の重要度>

都市基盤の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「①通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」、「③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」、「④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること」となっている。

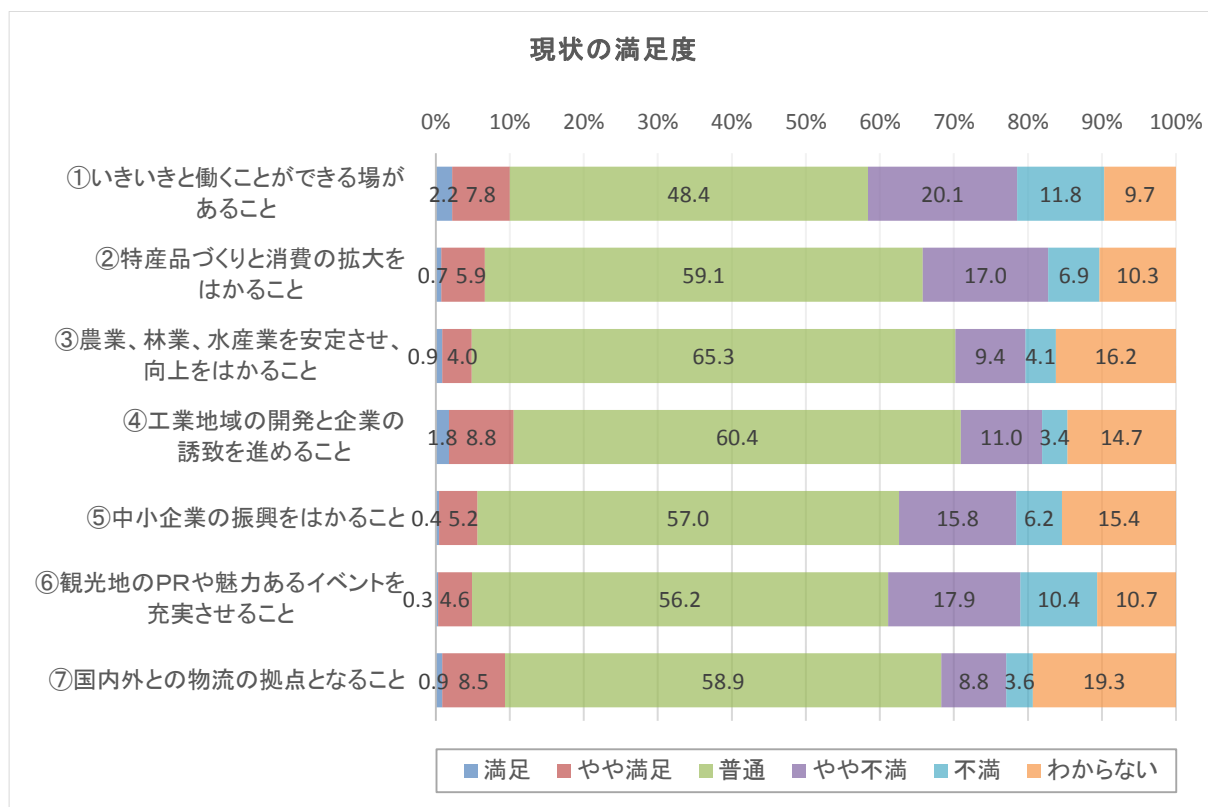


5. 産業

<現状の満足度>

産業の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が比較的高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、全ての項目において満足よりも不満の割合の方が大きい。

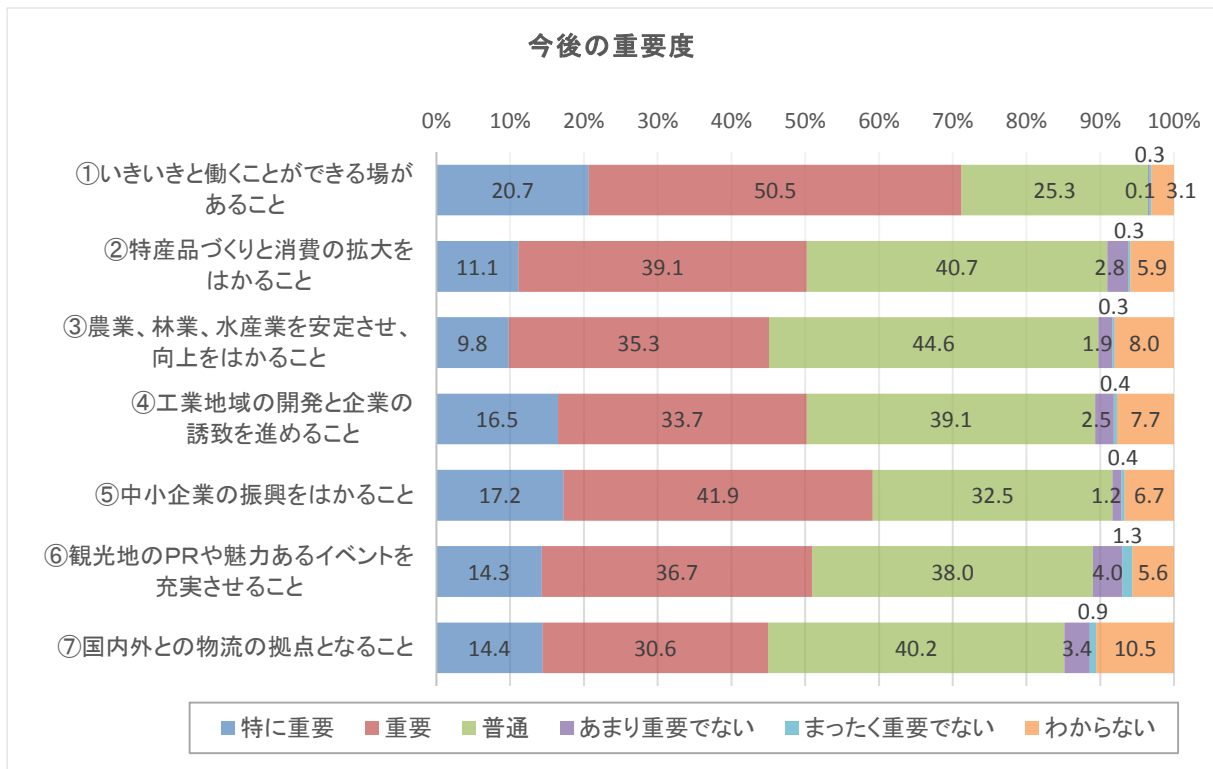
不満の割合の方が高いものは、順に「⑥観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること」、「①いきいきと働くことができる場があること」、「②特産品づくりと消費の拡大をはかること」、「⑤中小企業の振興をはかること」となっている。



<今後の重要度>

産業の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「①いきいきと働くことができる場があること」、「⑤中小企業の振興をはかること」、「②特産品づくりと消費の拡大をはかること」となっている。

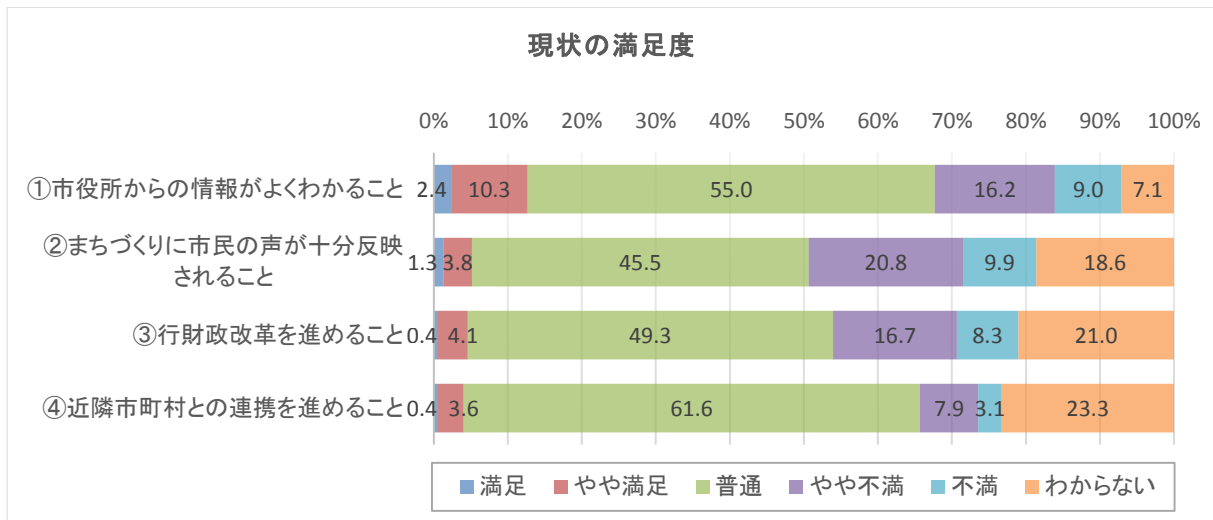


6. 市政運営

<現状の満足度>

市政運営の現状の満足度について、「普通」や「わからない」との回答割合が高いが、不満がある回答者（「不満」＋「やや不満」）と満足している回答者（「満足」＋「やや満足」）の割合を比較すると、全ての項目において満足よりも不満の割合の方が大きい。

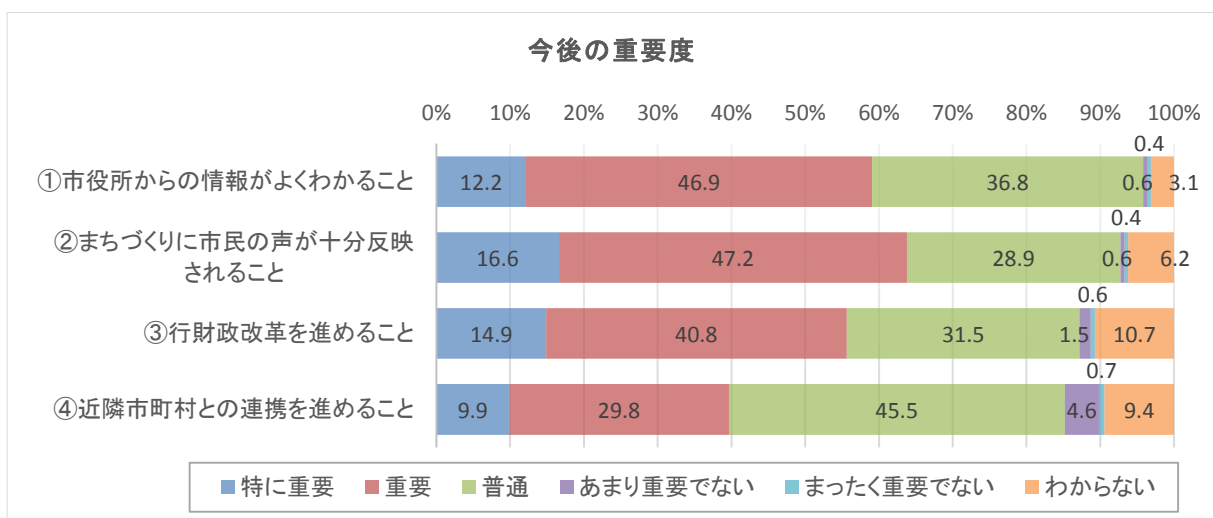
不満の割合の方が高いものは、順に「②まちづくりに市民の声が十分反映されること」、「③行財政改革を進めること」となっている。



<今後の重要度>

市政運営の今後の重要度について、重要ではないとの回答者（「まったく重要でない」＋「あまり重要でない」）と重要との回答者（「重要」＋「特に重要」）の割合を比較すると、全ての項目において、重要ではないという回答よりも、重要と回答する割合の方が高い。

特にその差が大きい項目は、順に「②まちづくりに市民の声が十分反映されること」、「①市役所からの情報がよくわかること」となっている。



7. 満足度・重要度分析

重点的に取り組むべき施策を抽出するため、施策項目ごとに満足度、重要度の偏差値を算出し、全項目の総体的な位置づけがわかるよう、満足度、重要度を軸として図表化を行った。

○算出方法

項目ごとの5段階評価を点数化し、各項目の平均点を得点として、「くらし・環境」、「福祉・保健・医療」、「教育・文化」、「都市基盤」、「産業」「市政運営」を統合して、項目間での偏差値を算出した。

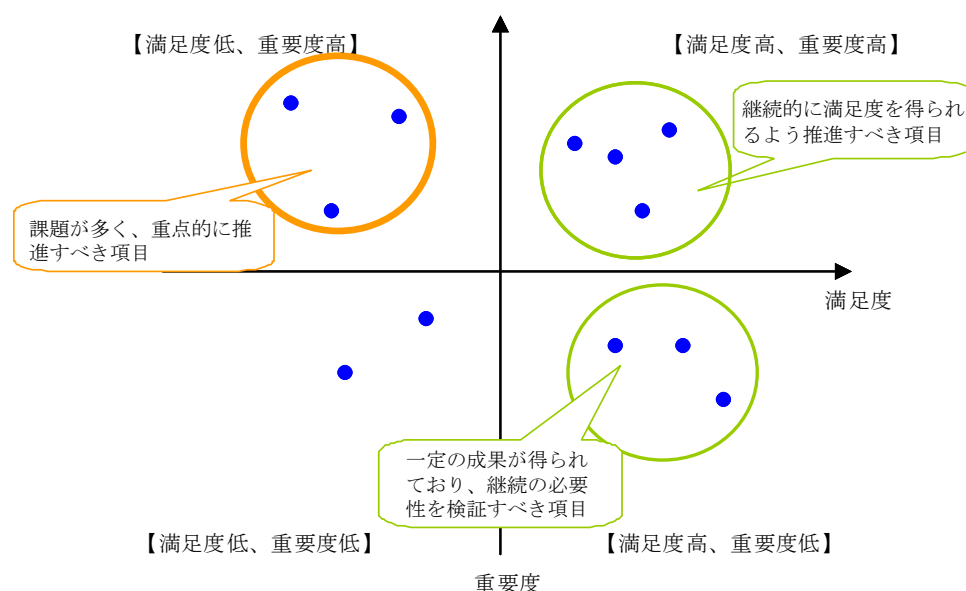
選択肢の得点算出条件

| 選択肢 | 点数 |
|-------------------|----|
| 「満足」／「特に重要」 | 5点 |
| 「やや満足」／「重要」 | 4点 |
| 「どちらともいえない」 | 3点 |
| 「やや不満」／「あまり重要でない」 | 2点 |
| 「不満」／「まったく重要でない」 | 1点 |
| 「わからない」・無回答 | 除外 |

ここで偏差値とは、全体の平均値を50とし、それからのへだたりの度合いを算定した相対的な数値である。したがって、全体の平均値より大きければ50より大きい値、小さければ50より小さい値で示される。

このようなデータ加工をした後、満足度を横軸、重要度を縦軸にとり、各項目の満足度・重要度の関係を図示した。

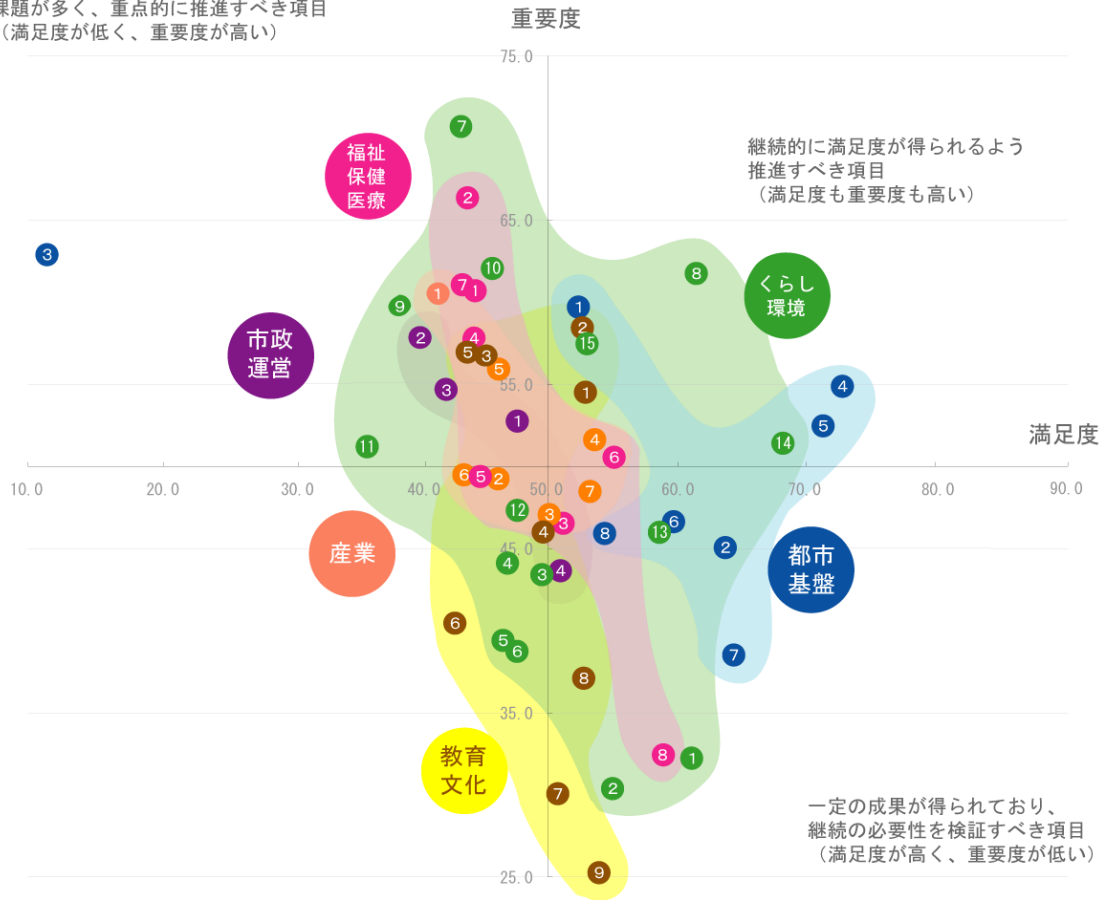
満足度・重要度分析（イメージ）



○満足度・重要度評価

各施策項目の得点から算出した偏差値に基づき、満足度、重要度を軸としたマトリクス上にプロットし、関係を図示すると以下のようなになる。

課題が多く、重点的に推進すべき項目
(満足度が低く、重要度が高い)



【各施策項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値】

| | 設問項目 | | 満足度 | 重要度 | | 設問項目 | | 満足度 | 重要度 | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|------|--------------------------------|----------|-----------------------------|-----------------------|--------------------------------|-----------------------------|----------------------|----------------------------|------|------|
| | 偏差値 | 偏差値 | | | | 偏差値 | 偏差値 | | | | | | |
| 暮らし環境 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 60.5 | 32.7 | ①幼児期において充実した教育が受けられること | 52.4 | 54.3 | 教育・文化 | ②NPO やボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 54.1 | 31.1 | ②小学校・中学校において充実した教育が受けられること | 52.4 | 57.7 |
| | ③女性の社会参加が十分できること | 49.8 | 43.5 | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 47.8 | 44.1 | | ③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること | 44.9 | 56.8 | | | |
| | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 47.8 | 44.1 | ⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること | 47.5 | 39.5 | | ④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること | 49.7 | 47.0 | | | |
| | ⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること | 47.5 | 39.5 | ⑥マイホーム建設を支援すること | 48.1 | 39.3 | | ⑤青少年の非行を防止すること | 43.9 | 57.0 | | | |
| | ⑥マイホーム建設を支援すること | 48.1 | 39.3 | ⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること | 42.9 | 70.8 | | ⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること | 41.6 | 40.7 | | | |
| | ⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること | 42.9 | 70.8 | ⑧消防、救急体制が強化されること | 61.7 | 62.3 | | ⑦苫小牧に愛着と誇りを持てるシンボルをつくること | 50.7 | 30.4 | | | |
| | ⑧消防、救急体制が強化されること | 61.7 | 62.3 | ⑨交通事故にあう危険を感じないこと | 37.9 | 59.7 | | ⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しむこと | 52.5 | 37.2 | | | |
| | ⑨交通事故にあう危険を感じないこと | 37.9 | 59.7 | ⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること | 45.9 | 62.7 | | ⑨姉妹都市と交流する機会があること | 53.1 | 25.1 | | | |
| | ⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること | 45.9 | 62.7 | ⑪市内のバス利用の便がよいこと | 35.0 | 51.0 | | 都市基盤 | ⑩通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること | 52.0 | 59.4 | | |
| | ⑪市内のバス利用の便がよいこと | 35.0 | 51.0 | ⑫他都市への交通の便がよいこと | 48.1 | 47.8 | | | ⑪公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること | 63.0 | 45.1 | | |
| | ⑫他都市への交通の便がよいこと | 48.1 | 47.8 | ⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること | 58.7 | 46.2 | | | ⑫駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること | 11.2 | 63.2 | | |
| | ⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること | 58.7 | 46.2 | ⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること | 68.4 | 51.4 | | | ⑬水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること | 75.3 | 55.1 | | |
| | ⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること | 68.4 | 51.4 | ⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること | 52.7 | 57.3 | | | ⑭下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること | 71.0 | 52.5 | | |
| | 福祉・保健・医療 | ①高齢者のための生活環境が整っていること | 44.3 | 61.8 | 福祉・保健・医療 | ⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること | | 52.7 | 57.3 | ⑮身近なところの道路が整備されていること | 59.4 | 46.8 | |
| | | ②子供たちが健やかに成長していく環境ができていないこと | 43.6 | 66.7 | | ⑯市内のバス利用の便がよいこと | | 35.0 | 51.0 | ⑯新千歳空港の機能を充実させること | 64.4 | 38.6 | |
| ③母子家庭、父子家庭への支援を充実すること | | 50.7 | 46.9 | ⑰高齢者のための生活環境が整っていること | | 44.3 | 61.8 | ⑰苫小牧港(西・東)の機能を充実させること | 54.5 | 46.1 | | | |
| ④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること | | 44.2 | 57.6 | ⑱いきいきと働くことができる場があること | | 42.2 | 61.1 | 産業 | ⑱特産品づくりと消費の拡大をはかること | 45.6 | 48.9 | | |
| ⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること | | 44.4 | 49.0 | ⑲母子家庭、父子家庭への支援を充実すること | | 50.7 | 46.9 | | ⑲農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること | 50.2 | 47.2 | | |
| ⑥病気の予防や健康の相談、指導が受けられること | | 54.9 | 50.4 | ⑳障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること | | 44.2 | 57.6 | | ⑳工業地域の開発と企業の誘致を進めること | 53.3 | 51.6 | | |
| ⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること | | 44.2 | 61.9 | ㉑低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること | | 44.4 | 49.0 | | ㉑中小企業の振興をはかること | 45.6 | 55.7 | | |
| ⑧霊園、霊葬場の整備を進めること | | 58.7 | 32.9 | ㉒病気の予防や健康の相談、指導が受けられること | | 54.9 | 50.4 | ㉒観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること | 43.9 | 49.1 | | | |
| 市政運営 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 60.5 | 32.7 | ㉓いつでも安心して、高度な医療が受けられること | 44.2 | 61.9 | ㉓国内外との物流の拠点となること | 53.1 | 48.5 | | | | |
| | ②NPO やボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 54.1 | 31.1 | ㉔霊園、霊葬場の整備を進めること | 58.7 | 32.9 | ㉔市役所からの情報がよくわかること | 47.8 | 52.8 | | | | |
| | ③女性の社会参加が十分できること | 49.8 | 43.5 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 60.5 | 32.7 | ㉔まちづくりに市民の声が十分反映されること | 39.5 | 57.4 | | | | |
| | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 47.8 | 44.1 | ②NPO やボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 54.1 | 31.1 | ㉕行財政改革を進めること | 41.9 | 54.3 | | | | |
| | | | | | | | ㉕近隣市町村との連携を進めること | 50.9 | 43.8 | | | | |

青数字：偏差値 50.0 以上 (平均より高い評価)

赤数字：偏差値 50.0 未満 (平均より低い評価)

■：満足度が低くかつ重要度が高く、重点的に推進すべき項目

各分野・項目の特徴を以下に整理する。

【くらし・環境】

満足度では、「ごみの減量化や資源リサイクル」、「消防救急体制」、「地域活動」、「自然環境保全」などの項目において高い得点となっている。一方、「市内のバスの利用の便」、「交通安全」、「噴火、地震、風水害などの防災対策」などにおいては低い得点となっており、全体的には満足度の低い分野である。

重要度では、「噴火、地震、風水害などの防災対策」が、全項目中最も高い得点となっており、満足度も低いことから課題が多い項目といえる。他の重要度では、「消防・救急体制」、「防犯・交通安全対策」の得点も高くなっている。

【福祉・保健・医療】

満足度では、「霊園、霊葬場」、「病気予防、健康相談・指導体制」、「母子家庭、父子家庭への支援」で50を超えているものの、その他の福祉・医療面では得点が低くなっている。

重要度をみると、満足度の高い施策項目を除くほとんどの施策項目で偏差値が50を超えており、特に「子育て環境」、「高齢者の生活環境」、「高度医療の受診機会」、「障がい者福祉」に関する施策項目については、満足度が低くかつ重要度が高いことから積極的な対応が不可欠な項目となっている。

【教育・文化】

満足度では、「高等教育」、「生涯学習」、「青少年の非行防止」、「芸術鑑賞機会」に関する施策項目で偏差値が50を下回っている。

重要度をみると、「幼児教育」、「学校教育」及び「青少年の非行防止」において得点が高くなっている。「社会学習」、「スポーツ・レクリエーション」、「姉妹都市交流」については得点が低く、市民の関心があまり高くないことが伺える。

【都市基盤】

満足度は、「駅前・駅通りの活性化」を除く全ての施策項目において50を大きく上回っており、全体的には満足度の高い分野である。

「駅前・駅通りの活性化」については、満足度が11.2と極端に低く重要度も63.2と50を大きく超えていることから、積極的な対応が不可欠な項目となっている。

【産業】

満足度は、「雇用の場の確保」、「特産品づくり」、「中小企業振興」、「観光振興」においてやや得点が低くなっている。

重要度では、「雇用の場の確保」、「中小企業振興」において得点が高くなっており、満足度も低いことから課題が多い項目といえる。

【市政運営】

満足度は、全ての項目で偏差値が50を下回っており、満足度の低い分野である。

重要度をみると、「近隣市町村との連携」を除く全ての項目で得点が50を上回り、特に「市役所からの情報がよくわかること」、「まちづくりに市民の声が十分反映されること」で高くなっている。

以下では、居住地域ごとの分析結果を示す。

| 設問項目 | 全体 | | 西部西地域 | | 西部東地域 | | 中央部西地域 | | 中央部中地域 | | 中央部東地域 | | 東部地域 | | |
|----------|--------------------------------|------|-------|------|-------|------|--------|------|--------|------|--------|------|------|------|------|
| | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 | |
| 暮らし・環境 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 60.5 | 32.7 | 64.9 | 35.8 | 60.6 | 31.0 | 51.2 | 31.4 | 60.8 | 34.3 | 58.7 | 30.4 | 65.4 | 35.0 |
| | ②NPOやボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 54.1 | 31.1 | 52.6 | 29.1 | 53.9 | 33.5 | 51.8 | 31.6 | 59.2 | 29.4 | 54.7 | 33.1 | 52.2 | 32.8 |
| | ③女性の社会参加が十分できること | 49.8 | 43.5 | 52.6 | 40.8 | 52.0 | 44.0 | 46.6 | 44.7 | 49.4 | 45.8 | 49.3 | 41.2 | 48.7 | 44.5 |
| | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 47.8 | 44.1 | 48.0 | 43.3 | 43.9 | 45.0 | 50.5 | 42.3 | 49.0 | 47.0 | 47.0 | 44.2 | 48.7 | 42.7 |
| | ⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること | 47.5 | 39.5 | 55.4 | 32.7 | 52.1 | 39.2 | 42.6 | 43.2 | 42.1 | 50.4 | 45.6 | 36.1 | 48.4 | 32.6 |
| | ⑥マイホーム建設を支援すること | 48.1 | 39.3 | 51.2 | 42.9 | 50.1 | 40.5 | 50.4 | 35.8 | 45.6 | 39.4 | 46.1 | 39.6 | 45.3 | 38.2 |
| | ⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること | 42.9 | 70.8 | 37.0 | 70.4 | 42.7 | 72.9 | 49.5 | 68.2 | 43.3 | 71.1 | 42.4 | 71.2 | 44.5 | 67.8 |
| | ⑧消防、救急体制が強化されること | 61.7 | 62.3 | 56.7 | 60.1 | 61.8 | 62.2 | 66.5 | 63.4 | 58.0 | 60.1 | 61.3 | 63.4 | 62.5 | 64.3 |
| | ⑨交通事故にあう危険を感じないこと | 37.9 | 59.7 | 39.8 | 58.8 | 41.8 | 60.6 | 41.0 | 59.6 | 35.4 | 59.2 | 35.3 | 59.2 | 37.6 | 59.6 |
| | ⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること | 45.9 | 62.7 | 44.3 | 61.2 | 45.7 | 66.0 | 47.1 | 61.5 | 48.5 | 59.5 | 46.7 | 62.2 | 43.0 | 65.1 |
| | ⑪市内のバス利用の便がよいこと | 35.0 | 51.0 | 35.8 | 51.5 | 33.9 | 48.9 | 42.9 | 49.3 | 38.5 | 50.8 | 36.3 | 49.3 | 26.2 | 56.5 |
| | ⑫他都市への交通の便がよいこと | 48.1 | 47.8 | 36.3 | 51.0 | 47.8 | 45.4 | 49.2 | 45.1 | 53.6 | 48.7 | 53.7 | 45.0 | 47.1 | 51.4 |
| | ⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること | 58.7 | 46.2 | 58.7 | 45.7 | 56.6 | 43.1 | 61.3 | 42.2 | 56.3 | 51.9 | 58.6 | 44.0 | 58.7 | 49.7 |
| | ⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること | 68.4 | 51.4 | 70.6 | 50.0 | 71.4 | 52.4 | 65.7 | 50.3 | 65.2 | 50.9 | 63.6 | 52.3 | 67.9 | 52.8 |
| | ⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること | 52.7 | 57.3 | 54.8 | 56.7 | 54.7 | 55.8 | 53.6 | 55.3 | 50.2 | 57.8 | 52.9 | 60.3 | 48.7 | 57.5 |
| 福祉・保健・医療 | ①高齢者のための生活環境が整っていること | 44.3 | 61.8 | 46.7 | 59.9 | 45.3 | 59.9 | 43.2 | 61.1 | 45.6 | 63.5 | 43.5 | 64.2 | 43.1 | 60.5 |
| | ②子供たちが健やかに成長していく環境ができてきていること | 43.6 | 66.7 | 44.6 | 73.2 | 41.4 | 67.0 | 42.1 | 65.6 | 44.8 | 63.8 | 43.3 | 66.5 | 47.4 | 62.4 |
| | ③母子家庭、父子家庭への支援を充実すること | 50.7 | 46.9 | 54.3 | 46.1 | 50.9 | 46.6 | 47.8 | 45.9 | 54.0 | 46.5 | 49.4 | 47.9 | 47.2 | 49.0 |
| | ④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること | 44.2 | 57.6 | 44.9 | 55.0 | 43.6 | 57.0 | 45.6 | 59.5 | 45.2 | 57.3 | 45.2 | 57.8 | 41.9 | 58.5 |
| | ⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること | 44.4 | 49.0 | 47.4 | 50.9 | 41.9 | 47.4 | 43.5 | 52.1 | 46.2 | 43.9 | 45.6 | 49.0 | 42.6 | 52.6 |
| | ⑥病気の予防や健康の相談、指導が受けられること | 54.9 | 50.4 | 56.7 | 48.5 | 54.1 | 51.1 | 53.9 | 49.4 | 56.0 | 52.5 | 53.4 | 52.4 | 53.9 | 47.9 |
| | ⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること | 44.2 | 61.9 | 44.8 | 60.3 | 43.0 | 63.2 | 45.6 | 58.1 | 50.6 | 62.4 | 40.1 | 64.2 | 42.1 | 62.1 |
| | ⑧霊園、霊葬場の整備を進めること | 58.7 | 32.9 | 59.3 | 39.5 | 61.5 | 30.3 | 63.3 | 32.7 | 55.2 | 30.0 | 52.6 | 34.0 | 57.3 | 33.5 |
| 教育・文化 | ①幼児期において充実した教育が受けられること | 52.4 | 54.3 | 53.6 | 52.2 | 50.7 | 53.8 | 56.2 | 54.6 | 51.8 | 57.4 | 49.5 | 52.6 | 51.8 | 54.2 |
| | ②小学校・中学校において充実した教育が受けられること | 52.4 | 57.7 | 52.7 | 54.9 | 52.6 | 58.0 | 53.4 | 58.0 | 51.5 | 55.3 | 50.8 | 59.2 | 52.6 | 60.8 |
| | ③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること | 44.9 | 56.8 | 40.7 | 56.0 | 53.8 | 55.5 | 43.5 | 58.7 | 41.8 | 56.6 | 46.2 | 56.7 | 43.8 | 56.8 |
| | ④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること | 49.7 | 47.0 | 48.6 | 45.4 | 50.1 | 49.3 | 51.2 | 49.2 | 49.0 | 47.0 | 49.6 | 45.0 | 50.0 | 46.1 |
| | ⑤青少年の非行を防止すること | 43.9 | 57.0 | 45.2 | 55.5 | 41.6 | 58.0 | 42.5 | 58.9 | 46.8 | 54.4 | 47.5 | 58.9 | 41.4 | 56.3 |
| | ⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること | 41.6 | 40.7 | 44.8 | 38.3 | 43.2 | 43.1 | 44.8 | 42.6 | 37.0 | 42.4 | 39.9 | 39.6 | 42.9 | 38.5 |
| | ⑦苦小牧に愛着と誇りを持てるシンボルをつくること | 50.7 | 30.4 | 50.1 | 30.8 | 47.1 | 33.4 | 50.1 | 32.9 | 53.1 | 27.9 | 53.5 | 27.8 | 49.7 | 32.1 |
| | ⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しむこと | 52.5 | 37.2 | 52.5 | 34.5 | 55.6 | 40.4 | 48.8 | 41.1 | 52.8 | 37.3 | 53.0 | 35.3 | 51.4 | 35.7 |
| | ⑨姉妹都市と交流する機会があること | 53.1 | 25.1 | 56.4 | 28.9 | 53.5 | 26.1 | 54.1 | 26.9 | 52.2 | 23.8 | 52.2 | 23.7 | 49.6 | 24.6 |
| 都市基盤 | ①通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること | 52.0 | 59.4 | 39.2 | 60.6 | 51.4 | 60.3 | 54.1 | 56.5 | 53.8 | 58.1 | 58.4 | 57.9 | 54.5 | 62.1 |
| | ②公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること | 63.0 | 45.1 | 59.7 | 42.2 | 65.5 | 46.2 | 56.8 | 45.2 | 61.5 | 45.4 | 63.4 | 41.6 | 68.0 | 50.1 |
| | ③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること | 11.2 | 63.2 | 16.9 | 64.3 | 14.5 | 62.2 | 6.1 | 70.5 | 9.4 | 66.8 | 12.7 | 60.6 | 20.2 | 51.5 |
| | ④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること | 75.3 | 55.1 | 72.0 | 56.3 | 74.4 | 54.3 | 74.9 | 53.2 | 73.7 | 54.2 | 76.3 | 55.1 | 74.2 | 57.0 |
| | ⑤下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること | 71.0 | 52.5 | 69.0 | 54.6 | 66.8 | 50.8 | 68.8 | 49.3 | 70.4 | 51.4 | 75.2 | 55.7 | 70.0 | 53.4 |
| | ⑥身近なところの道路が整備されていること | 59.4 | 46.8 | 62.6 | 49.2 | 56.4 | 48.1 | 51.8 | 48.0 | 61.8 | 44.6 | 62.1 | 47.1 | 59.3 | 44.2 |
| | ⑦新千歳空港の機能を充実させること | 64.4 | 38.6 | 62.4 | 37.0 | 63.2 | 38.3 | 64.1 | 36.0 | 64.5 | 42.9 | 65.1 | 37.4 | 62.8 | 40.1 |
| | ⑧苦小牧港（西・東）の機能を充実させること | 54.5 | 46.1 | 51.4 | 51.4 | 52.0 | 46.7 | 52.5 | 48.6 | 57.5 | 44.4 | 51.4 | 43.8 | 61.3 | 42.3 |
| 産業 | ①いきいきと働くことができる場があること | 42.2 | 61.1 | 40.6 | 61.6 | 40.7 | 60.0 | 41.3 | 61.9 | 42.1 | 61.8 | 43.4 | 60.4 | 47.9 | 59.9 |
| | ②特産品づくりと消費の拡大をはかること | 45.6 | 48.9 | 42.8 | 50.7 | 43.0 | 47.7 | 50.1 | 45.7 | 46.9 | 50.0 | 46.1 | 51.4 | 46.3 | 48.0 |
| | ③農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること | 50.2 | 47.2 | 51.1 | 49.2 | 49.9 | 45.8 | 53.8 | 46.4 | 49.5 | 46.6 | 49.1 | 48.2 | 48.5 | 47.4 |
| | ④工業地域の開発と企業の誘致を進めること | 53.3 | 51.6 | 53.7 | 53.4 | 55.2 | 51.9 | 51.7 | 49.6 | 52.3 | 48.6 | 51.0 | 52.6 | 54.7 | 53.7 |
| | ⑤中小企業の振興をはかること | 45.6 | 55.7 | 45.4 | 57.0 | 45.1 | 54.3 | 45.3 | 56.6 | 44.4 | 55.2 | 47.8 | 54.9 | 46.8 | 55.9 |
| | ⑥観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること | 43.9 | 49.1 | 55.6 | 51.8 | 39.7 | 47.2 | 42.1 | 52.1 | 38.1 | 49.7 | 46.4 | 49.9 | 44.9 | 44.0 |
| | ⑦国内外との物流の拠点となること | 53.1 | 48.5 | 54.4 | 48.4 | 53.9 | 44.7 | 51.1 | 46.1 | 48.2 | 51.2 | 53.9 | 54.5 | 56.5 | 46.7 |
| 市政運営 | ①市役所からの情報がよくわかること | 47.8 | 52.8 | 45.5 | 51.6 | 50.2 | 52.4 | 48.3 | 54.0 | 47.5 | 50.9 | 48.1 | 54.3 | 47.1 | 54.2 |
| | ②まちづくりに市民の声が十分反映されること | 39.5 | 57.4 | 36.3 | 56.9 | 37.3 | 57.9 | 41.8 | 59.1 | 41.8 | 56.9 | 42.1 | 58.6 | 40.3 | 54.6 |
| | ③行財政改革を進めること | 41.9 | 54.3 | 39.8 | 49.8 | 40.1 | 56.9 | 44.1 | 55.2 | 45.1 | 51.9 | 41.4 | 55.9 | 42.5 | 56.3 |
| | ④近隣市町村との連携を進めること | 50.9 | 43.8 | 49.6 | 44.2 | 51.6 | 43.9 | 51.6 | 44.7 | 52.7 | 41.3 | 48.4 | 43.4 | 50.6 | 46.5 |

青数字：偏差値 50.0 以上(平均より高い評価)、赤数字：偏差値 50.0 未満(平均より低い評価)

：満足度が低かつ重要度が高く、重点的に推進すべき項目

<居住地別の特徴>

■西部西地域

満足度をみると、「自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと」、「公営住宅の建て替えと改善をはかること」、「マイホーム建設を支援すること」、「観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること」で、他地域に比較し満足度は高くなっている。一方、「他都市への交通の便がよいこと」、「通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」は他地域より低くなっており、特に後者は、他地域全ての得点が50以上であるのに対し、当地域は39.2と大きく下回っている。

また、重要度では、「子供たちが健やかに成長していく環境ができていること」の得点が73.2と最も高く、当地域において施策対応ニーズの最も高い項目である。また、「苫小牧港（西・東）の機能を充実させること」は、他地域が全て50を下回っているのに対し、当地域は唯一50を上回っている施策項目である。

■西部東地域

満足度をみると、「高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること」について、他地域全ての得点が50以下であるのに対し、当地域は53.8と唯一50を上回っている。一方、「苫小牧に愛着と誇りを持てるシンボルをつくること」、「観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること」は、他地域より低くなっている。

重要度では、「噴火、地震、風水害などの災害に備えること」、「防犯など身近な地域の安全が保たれていること」が他地域に比べて高くなっている。

■中央部西地域

満足度をみると、「消防、救急体制が強化されること」、「豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること」、「霊園、霊葬場の整備を進めること」、「幼児期において充実した教育が受けられること」、「特産品づくりと消費の拡大をはかること」、「農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること」で、他地域より高くなっている。一方、「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」、「スポーツやレクリエーションを身近で楽しめること」は、他地域より低く、特に「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」については、全地域で満足度が低いものの、その中でも当地域は6.1と最も低く、切実な課題と感じていることが伺える。また、「自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと」、「身近なところの道路が整備されていること」については、50を超えてはいるものの、他地域よりは低くなっている。

重要度では、「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」が70.5と、全地域の中で最も高くなっている。

■中央部中地域

満足度をみると、「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」について、他地域全ての得点が50以下であるのに対し、当地域は50.6と唯一50を上回っている。一方、「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」については、得点が9.4と、中央部西地域に次いで低くなっている。また、「公営住宅の建て替えと改善をはかること」も他地域より低くなっている。

重要度では、「豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること」、「公営住宅の建て替えと改善をはかること」は、他地域が全て50を下回っているのに対し、当地域は唯一50を上回っている施策項目である。

■中央部東地域

満足度をみると、「他都市への交通の便がよいこと」、「通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること」で、他地域より高くなっている。一方、「交通事故にあう危険を感じないこと」、「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」、「幼児期において充実した教育が受けられること」で、他地域よりやや低くなっている。

重要度では、「大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること」、「いつでも安心して、高度な医療が受けられること」、「下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること」、「国内外との物流の拠点となること」で、他地域よりやや高くなっている。

■東部地域

満足度をみると、「苫小牧港（西・東）の機能を充実させること」について、全地域で満足度が高いものの、その中でも当地域は 61.3 と最も高くなっている。一方、「市内のバス利用の便がよいこと」、「大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること」で他地域よりやや低くなっており、特に「市内のバス利用の便がよいこと」については、26.2 と、当地域においては「駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること」に次いで 2 番目に満足度の低い施策項目である。

重要度では、「市内のバス利用の便がよいこと」、「低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること」、「公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること」で他地域よりやや高くなっている。

<参考> 前回の市民意識調査結果（平成 24 年）

課題が多く、重点的に推進すべき項目
（満足度が低く、重要度が高い）



【各施策項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値】

| 設問項目 | | 満足度 | 重要度 | 設問項目 | | 満足度 | 重要度 |
|----------|--------------------------------|------|------------------|-------------------------------|-----------------------------|------|------|
| 暮らし環境 | ①自分が住んでいる地域の行事や活動が盛んなこと | 55.3 | 33.0 | ①幼児期において充実した教育が受けられること | 52.9 | 49.9 | |
| | ②NPO やボランティアなどの活動に参加できる機会があること | 49.6 | 32.1 | ②小学校・中学校において充実した教育が受けられること | 52.3 | 56.9 | |
| | ③女性の社会参加が十分できること | 48.7 | 39.4 | ③高校・大学・専門学校など、高度な教育が受けられること | 44.8 | 54.0 | |
| | ④正しい消費者情報が得られ、相談が受けられること | 46.3 | 45.2 | ④生涯をとおして、様々な学習をする機会があること | 52.0 | 45.5 | |
| | ⑤公営住宅の建て替えと改善をはかること | 46.9 | 33.6 | ⑤青少年の非行を防止すること | 40.6 | 59.2 | |
| | ⑥マイホーム建設を支援すること | 43.0 | 36.2 | ⑥音楽や演劇、美術、伝統芸能などの芸術鑑賞の機会があること | 42.7 | 36.8 | |
| | ⑦噴火、地震、風水害などの災害に備えること | 39.1 | 60.0 | ⑦苫小牧に愛着と誇りを持てるシンボルをつくること | 49.0 | 29.2 | |
| | ⑧消防、救急体制が強化されること | 60.7 | 63.3 | ⑧スポーツやレクリエーションを身近で楽しむこと | 54.4 | 38.5 | |
| | ⑨交通事故にあう危険を感じないこと | 38.8 | 59.5 | ⑨姉妹都市と交流する機会があること | 52.3 | 26.5 | |
| | ⑩防犯など身近な地域の安全が保たれていること | 43.3 | 61.6 | 都市基盤 | ①通勤、買物、病院など暮らしやすい環境が整っていること | 51.4 | 58.7 |
| | ⑪市内のバス利用の便がよいこと | 43.0 | 48.2 | | ②公園、緑地、広場、並木道など身近に緑とふれあえること | 64.9 | 51.1 |
| | ⑫他都市への交通の便がよいこと | 55.9 | 47.0 | | ③駅前や駅通りを活気あふれる地区にすること | 18.3 | 54.9 |
| | ⑬豊かな自然環境の保全に努め、自然保護の意識を高めること | 59.2 | 49.6 | | ④水道施設の整備を進め、安全で良質な水を供給すること | 77.2 | 62.2 |
| | ⑭ごみの減量化や資源のリサイクルが行われること | 61.3 | 55.2 | | ⑤下水道整備を進め、快適な生活環境を確保すること | 74.8 | 60.1 |
| | ⑮大気汚染、水質汚染、騒音等、公害を防ぐ対策をとること | 51.7 | 58.7 | ⑥身近なところの道路が整備されていること | 63.4 | 51.4 | |
| 福祉・保健・医療 | ①高齢者のための生活環境が整っていること | 43.0 | 59.8 | ⑦新千歳空港の機能を充実させること | 67.3 | 39.7 | |
| | ②子供たちが健やかに成長していく環境ができていないこと | 47.8 | 61.6 | ⑧苫小牧港(西・東)の機能を充実させること | 57.7 | 46.7 | |
| | ③母子家庭、父子家庭への支援を充実すること | 53.2 | 43.8 | 産業 | ①いきいきと働くことができる場があること | 38.2 | 62.7 |
| | ④障がい者が、家庭や地域の中で安心して暮らせるようになること | 47.5 | 56.0 | | ②特産品づくりと消費の拡大をはかること | 47.2 | 47.3 |
| | ⑤低所得者の相談窓口や適切な支援が受けられること | 45.7 | 48.7 | | ③農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること | 48.4 | 51.4 |
| | ⑥病気の予防や健康の相談、指導が受けられること | 55.9 | 51.1 | | ④工業地域の開発と企業の誘致を進めること | 47.2 | 54.0 |
| | ⑦いつでも安心して、高度な医療が受けられること | 49.6 | 60.4 | ⑤中小企業の振興をはかること | 41.8 | 55.7 | |
| | ⑧霊園、霊葬場の整備を進めること | 61.6 | 33.0 | ⑥観光地のPRや魅力あるイベントを充実させること | 41.8 | 47.3 | |
| 市政運営 | | | | ⑦国内外との物流の拠点となること | 51.4 | 51.1 | |
| | | | | ①市役所からの情報がよくわかること | 47.8 | 52.5 | |
| | | | | ②まちづくりに市民の声が十分反映されること | 38.8 | 57.8 | |
| | | | ③行財政改革を進めること | 37.3 | 59.0 | | |
| | | | ④近隣市町村との連携を進めること | 48.1 | 47.3 | | |

青数字：偏差値 50.0 以上（平均より高い評価）

赤数字：偏差値 50.0 未満（平均より低い評価）

■：満足度が低くかつ重要度が高く、重点的に推進すべき項目

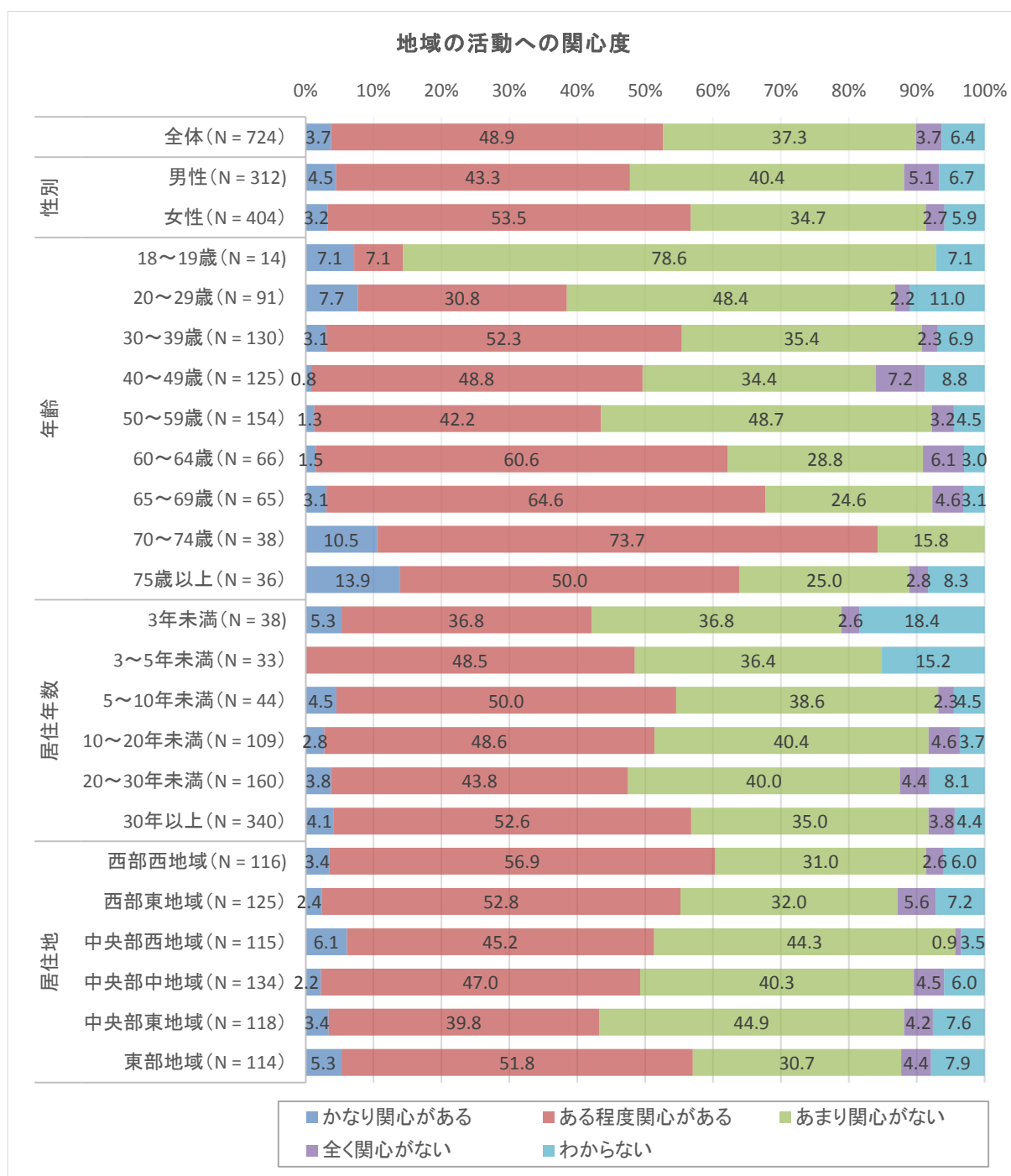
(4) 地域活動について

1. 地域活動への関心度

お住まいの地域での活動への関心度については、「ある程度関心がある」が 48.9%で最も多く、「かなり関心がある」と合わせて 52.6%が「関心がある」と回答している。

属性別にみると、性別では、男性に比べ女性の方、年齢別では、年齢層が高くなるにつれて関心度が高くなっている。

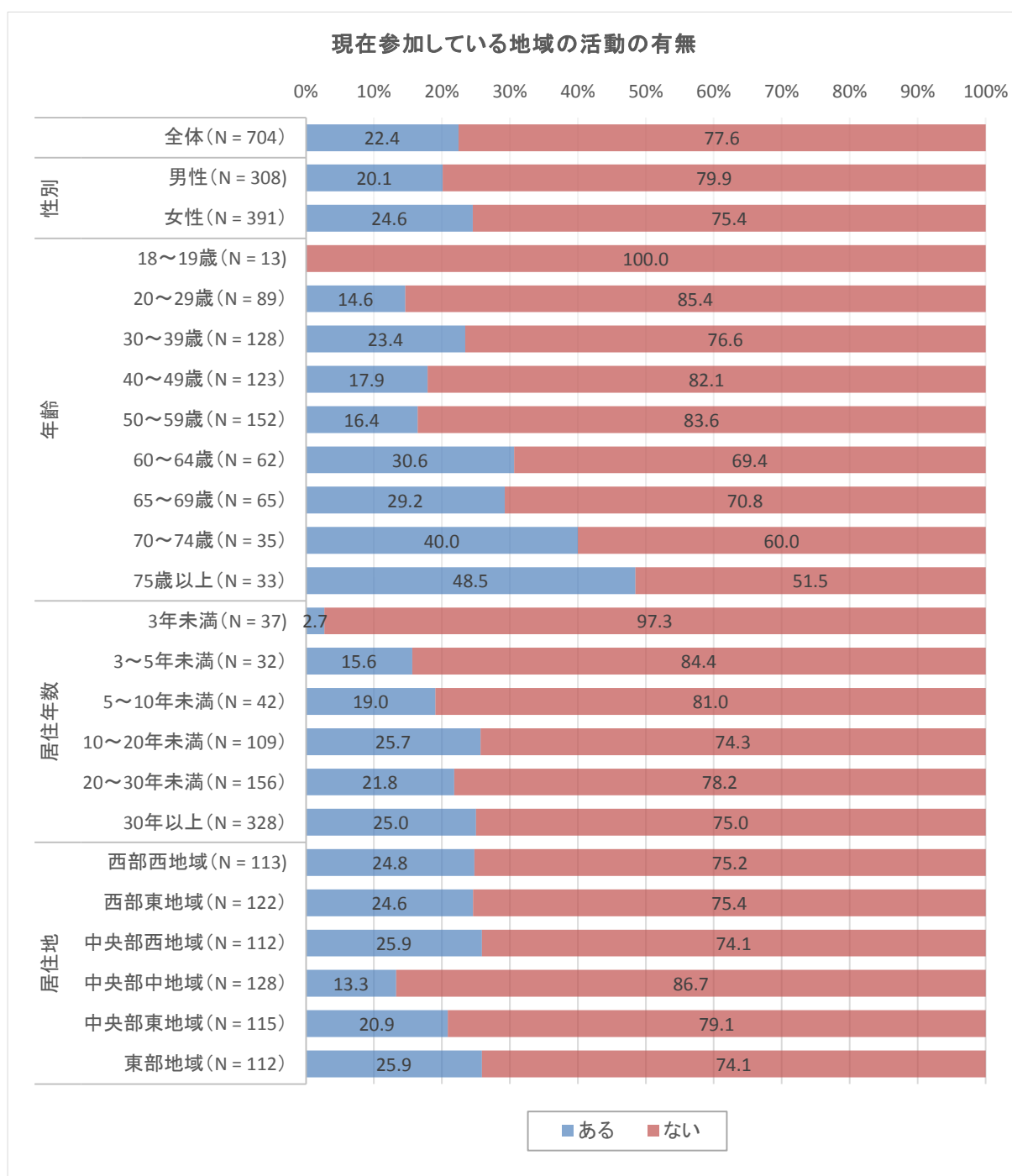
また、居住地別では、「西部西地域」及び「東部地域」で関心度が高く、「中央部東地域」では低くなっている。



2. 現在参加している地域活動の有無

現在、「参加している地域活動がある」とする回答は、全体の 22.4%と、関心の高さの割に実際の参加割合は低くなっている。

属性別にみると、年齢別では、年齢層が高くなるにつれて関心度が高くなっている。また、居住地別では、「中央部中地域」で、他地域より参加割合が低くなっている。

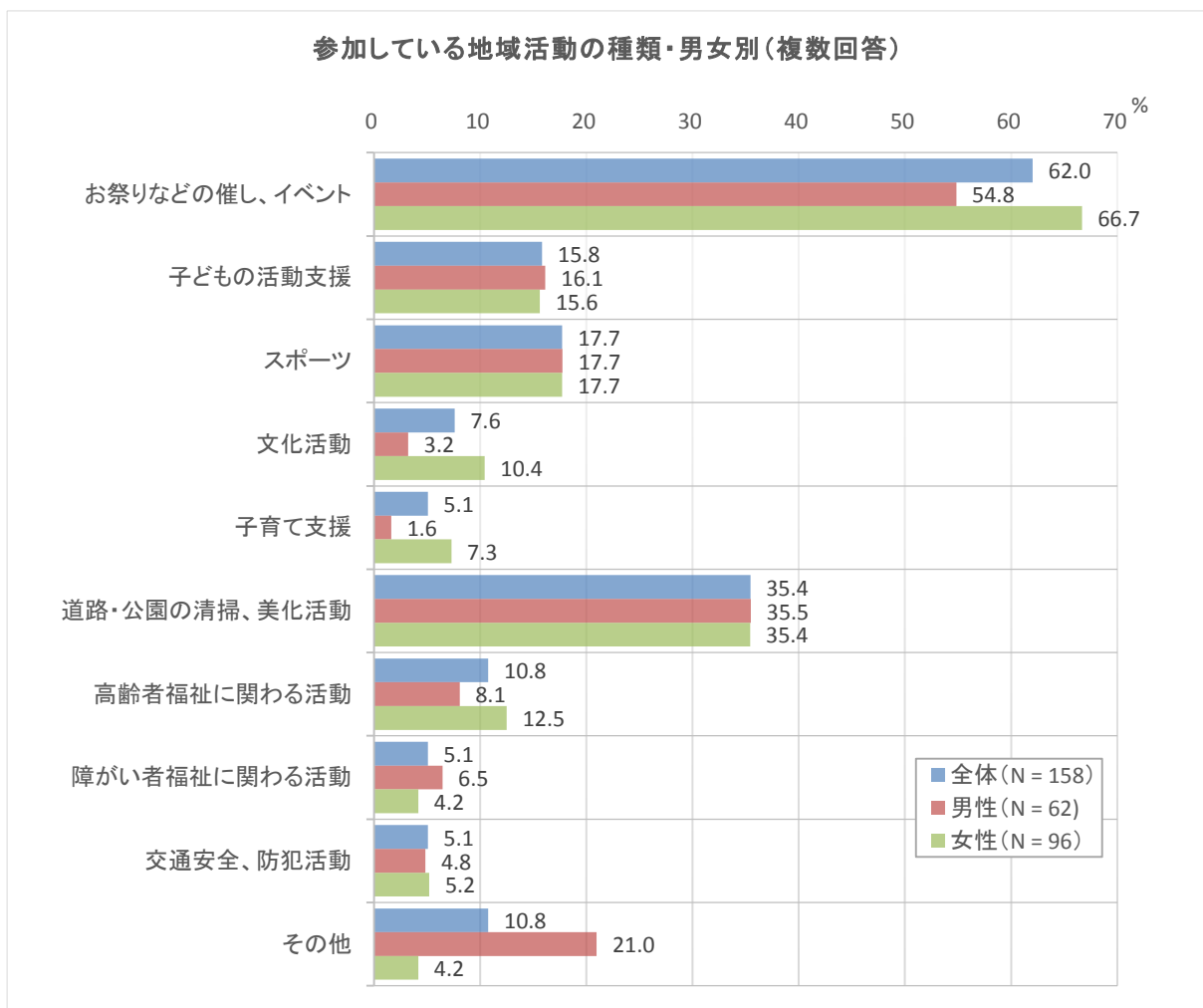


3. 現在参加している地域活動の内容

参加している地域活動の内容では、「お祭りなどの催し、イベント」が 62.0%で最も多く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」（35.4%）の順となっている。

属性別にみると、男女別では、男性は「お祭りなどの催し、イベント」、「文化活動」、「子育て支援」で女性より参加割合が低くなっている。

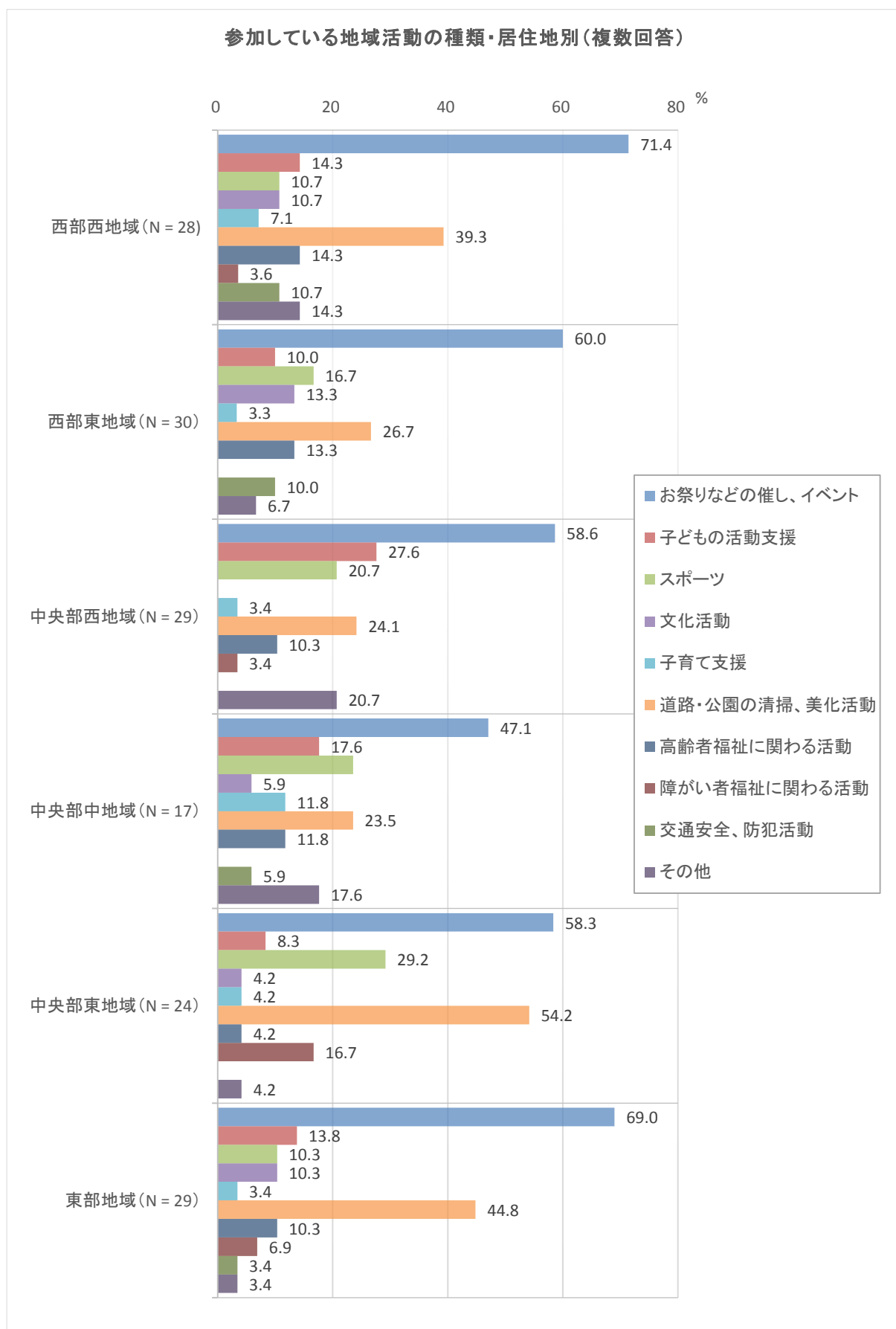
居住地別では、集計母数が少ないことから集計結果に偏りはあるものの、地域によって違いが出ている。特徴的ものをあげると、「西部西地域」では「お祭りなどの催し、イベント」の参加割合が他地域より高くなっている。同様に「中央部西地域」では「子どもの活動支援」が、「中央部東地域」では「道路・公園の清掃、美化活動」、「スポーツ」が、「東部地域」では「お祭りなどの催し、イベント」及び「道路・公園の清掃、美化活動」が、それぞれ高くなっている。また、「中央部中地域」では他の地域で参加割合の高い「お祭りなどの催し、イベント」で、47.1%とやや低めである。



※その他の回答内容

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、町内会役員（3件） ・班長の仕事 ・町内会活動（4件） ・防災活動などを主とする町内活動 ・消防団活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学と歩む市民の会 ・廃品回収 ・郡長をしている ・小学校での読み聞かせサークル活動 ・リレーフォーライフ |
|--|--|

参加している地域活動の種類・居住地別（複数回答）

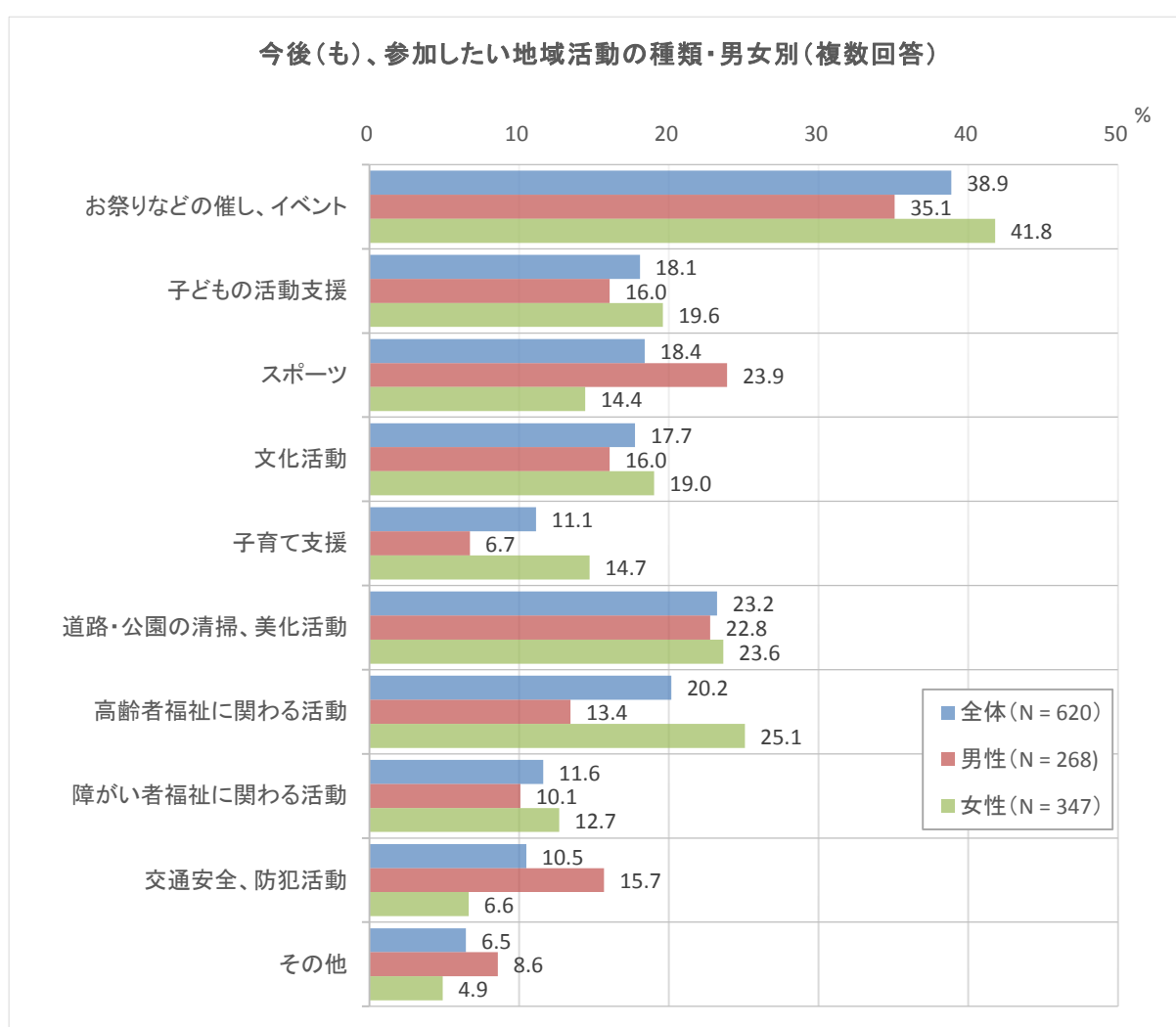


4. 今後（も）参加したい地域活動の内容

今後（も）参加したい地域活動としては、「お祭りなどの催し、イベント」が 38.9% で最も多く、次いで「道路・公園の清掃、美化活動」（23.2%）、「高齢者福祉に関わる活動」（20.2%）の順となっている。

属性別にみると、男女別では、1 位は男女ともには「お祭りなどの催し、イベント」で変わらないものの、2 位については、男性は「スポーツ」、女性は「高齢者福祉に関わる活動」となっている。

居住地別では、1 位はいずれの地域も「お祭りなどの催し、イベント」で変わらないものの、2 位については、「西部西地域」では「道路・公園の清掃、美化活動」、「西部東地域」では「子どもの活動支援」、「中央部西地域」では「文化活動」、「中央部中地域」では「子どもの活動支援」、「中央部東地域」及び「東部地域」では「高齢者福祉に関わる活動」となっている。

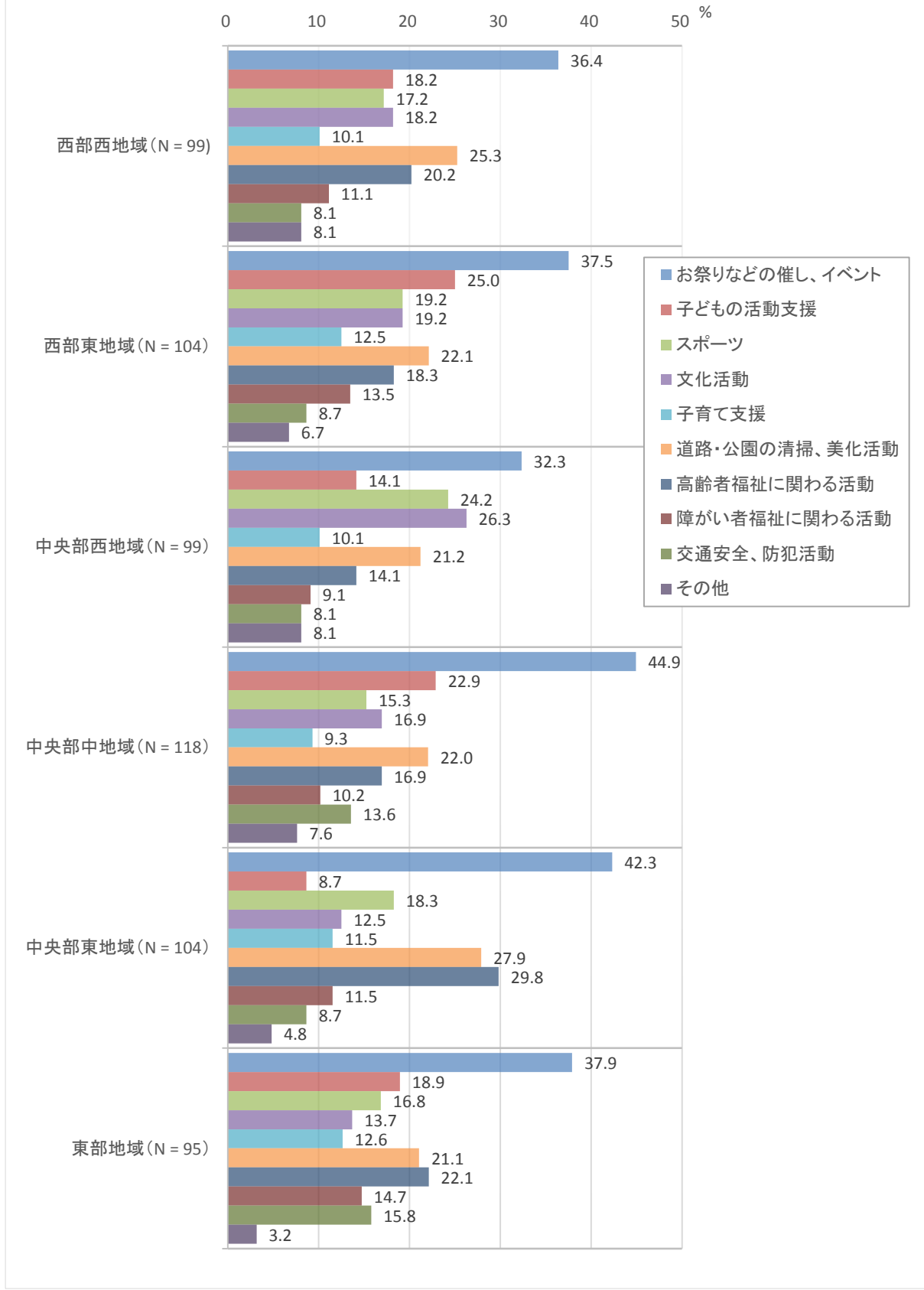


※その他の回答内容

- ・ 選択肢全て
- ・ 子育て支援
- ・ 防災に関わる活動（2件）
- ・ 避難訓練

- ・ 老人クラブの活性化
- ・ 合コンのような出会いの場
- ・ 特にない（30件）
- ・ 病気、障がいがあるのでできない（2件）

今後(も)、参加したい地域活動の種類・居住地域別(複数回答)

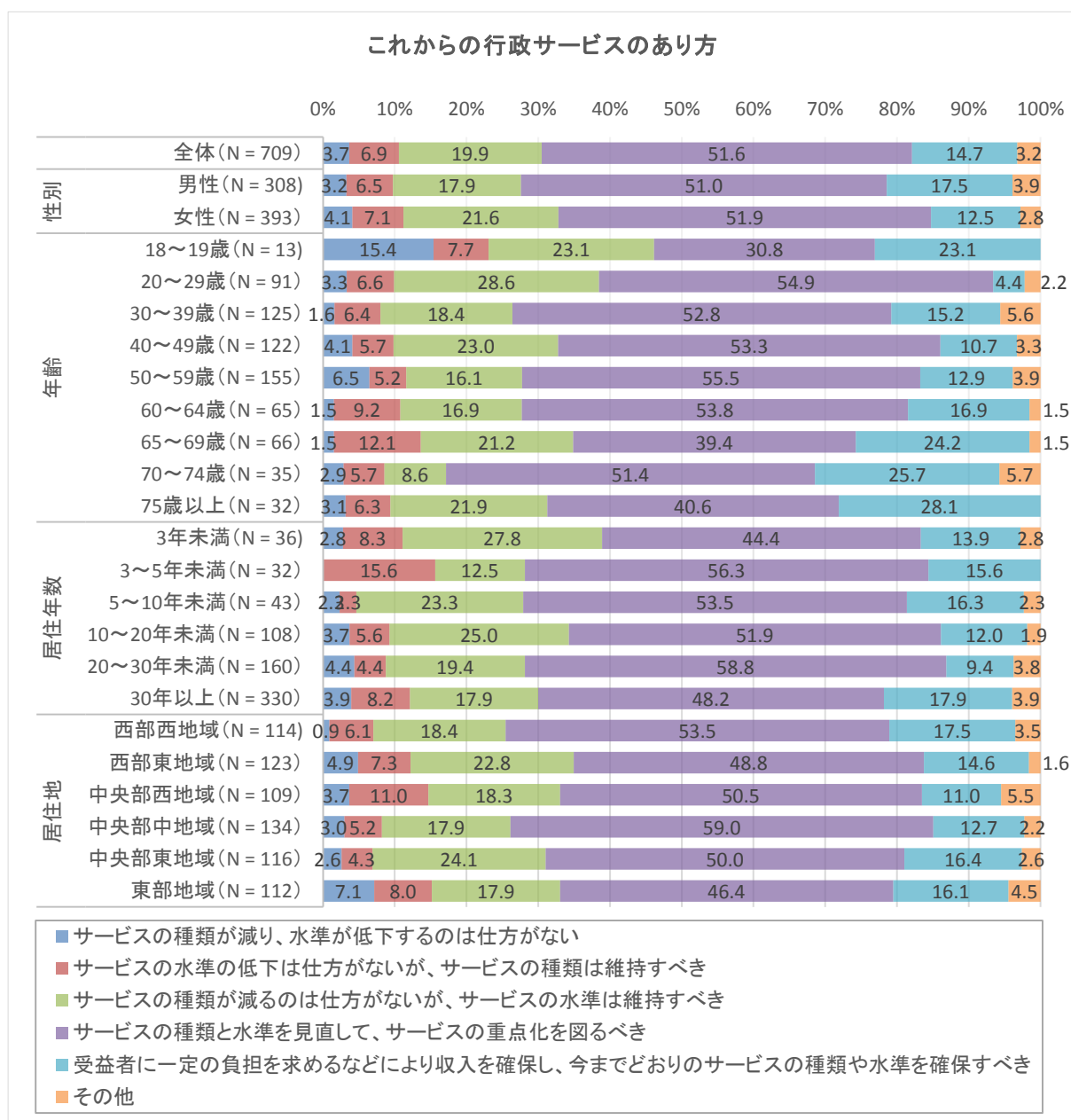


(5) これからの行政サービスのあり方について

これからの行政サービス（公共施設を含む）のあり方については、「サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべき」が 51.6%で最も多く、次いで「サービスの種類が減るのは仕方がないが、サービスの水準は維持すべき」（19.9%）、「サービスの低下分は受益者に一定の負担を求めるなどにより収入を確保し、今までどおりのサービスの種類や水準を確保すべき」（14.7%）と続く。

属性別にみると、年齢別では、「65～69歳」及び「75歳以上」で「サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべき」の回答割合が、他の年齢層よりも低くなっている。また、「65歳以上」で「サービスの低下分は受益者に一定の負担を求めるなどにより収入を確保し、今までどおりのサービスの種類や水準を確保すべき」の回答割合が高くなっている。

居住地別では、「中央部中地域」で「サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべき」の回答割合が高くなっている。



※その他の回答内容

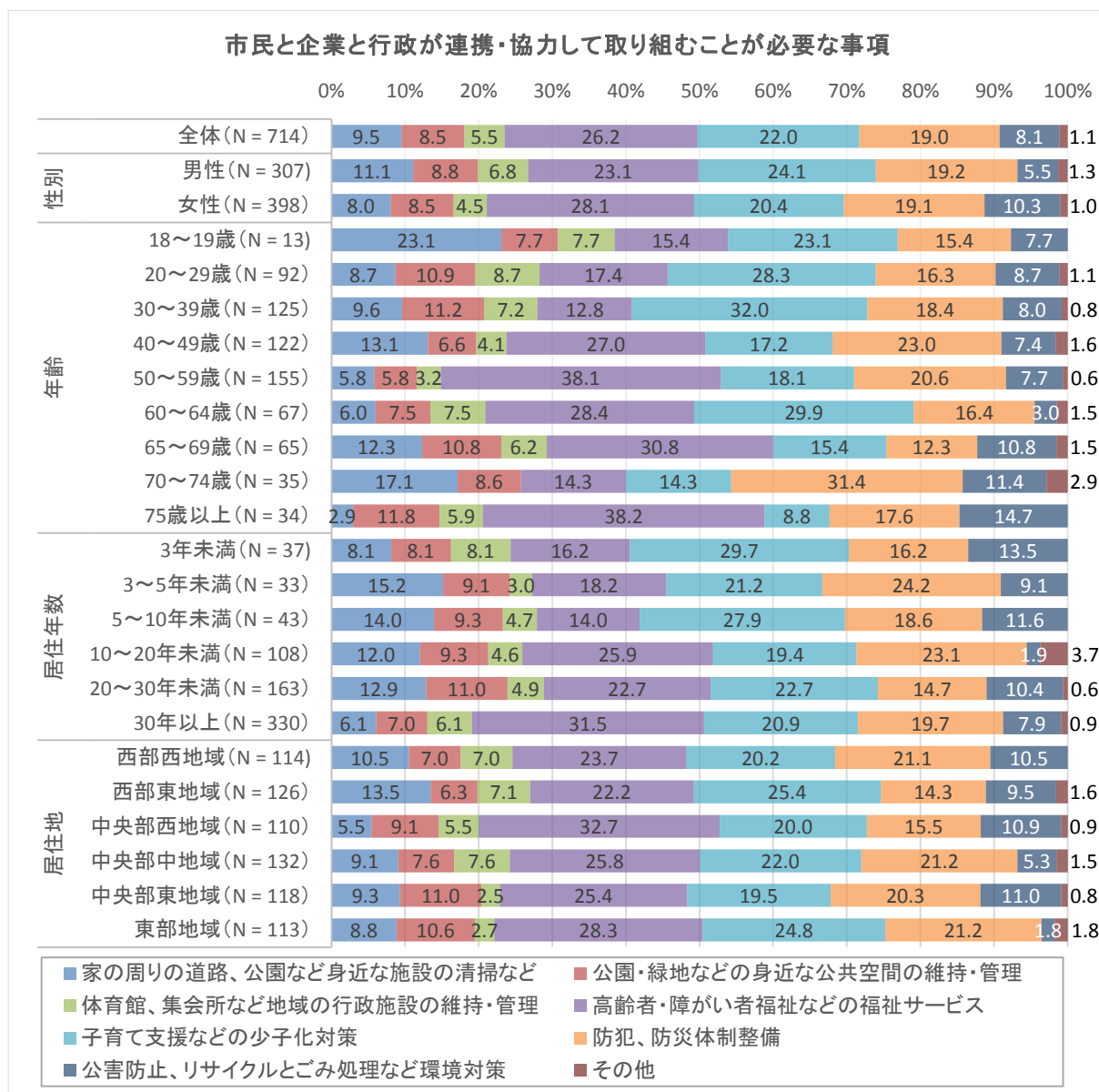
- ・ 本当に必要なサービスなのかを見直すべき。
- ・ 少子高齢化社会はまったなし。サービスの見直しと受益者負担の覚悟の自覚、意識の共有社会を早期に構築すべき。
- ・ 何をしているかわからない。
- ・ 今までどおりのサービスの種類や水準を維持すべき。
- ・ サービスの水準が今よりも低くなることは避けて欲しい。サービスを受けられる対象を広げて欲しい。
- ・ 低下ではなく向上させる。
- ・ サービスの種類を増やし、水準の向上を目指して欲しい。
- ・ 更なるサービスの向上を、財政縮小でいかに得るかの考え方が出てこないことが不思議。
- ・ 現状でも十分とは言えず、ましてや種類、質の低下は困る。
- ・ 財源の確保が先。
- ・ 無駄を減らして種類や水準の向上を。
- ・ 適材適所の人員構成か。組合で月一回東京に行くなど、一般企業では考えられない。人員削減が先。組合専従とは何か。市民をバカにしているのか。
- ・ 行政改革の取り組みが十分かどうか、それからの質問だと思う。
- ・ 苫小牧市職員の賃金を下げる。
- ・ 財政状況が厳しくなっている原因について改善を進めるべき。
- ・ 民間では、選択肢にあることを実行すると倒産する。極限を追求すべき。
- ・ 全く期待しない。
- ・ よくわからない (3件)

(6) 市民・企業・行政が連携・協力して進めることが必要な事項

「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」が 26.2%で最も多く、次いで「子育て支援などの少子化対策」(22.0%)、「防犯、防災体制整備」(19.0%)の順となっている。

属性別にみると、年齢別では、「39歳以下」で「子育て支援などの少子化対策」が、「50～69歳」で「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」が、「70～74歳」で「防犯、防災体制整備」が、それぞれ他の年齢層よりも回答割合が高くなっている。

居住地別では、「中央部西地域」で「高齢者・障がい者福祉などの福祉サービス」の回答割合がやや高くなっている。



※その他の回答内容

- ・子ども達の安全を皆で守ること(公園に変質者が出ている)。
- ・ゴルフ銀座と呼ばれる好環境をイメージアップ。苫小牧市主催のコンペ開催。
- ・空き家、空きビルの管理。
- ・空き家利用等も考えの中に入れてみてはどうか。

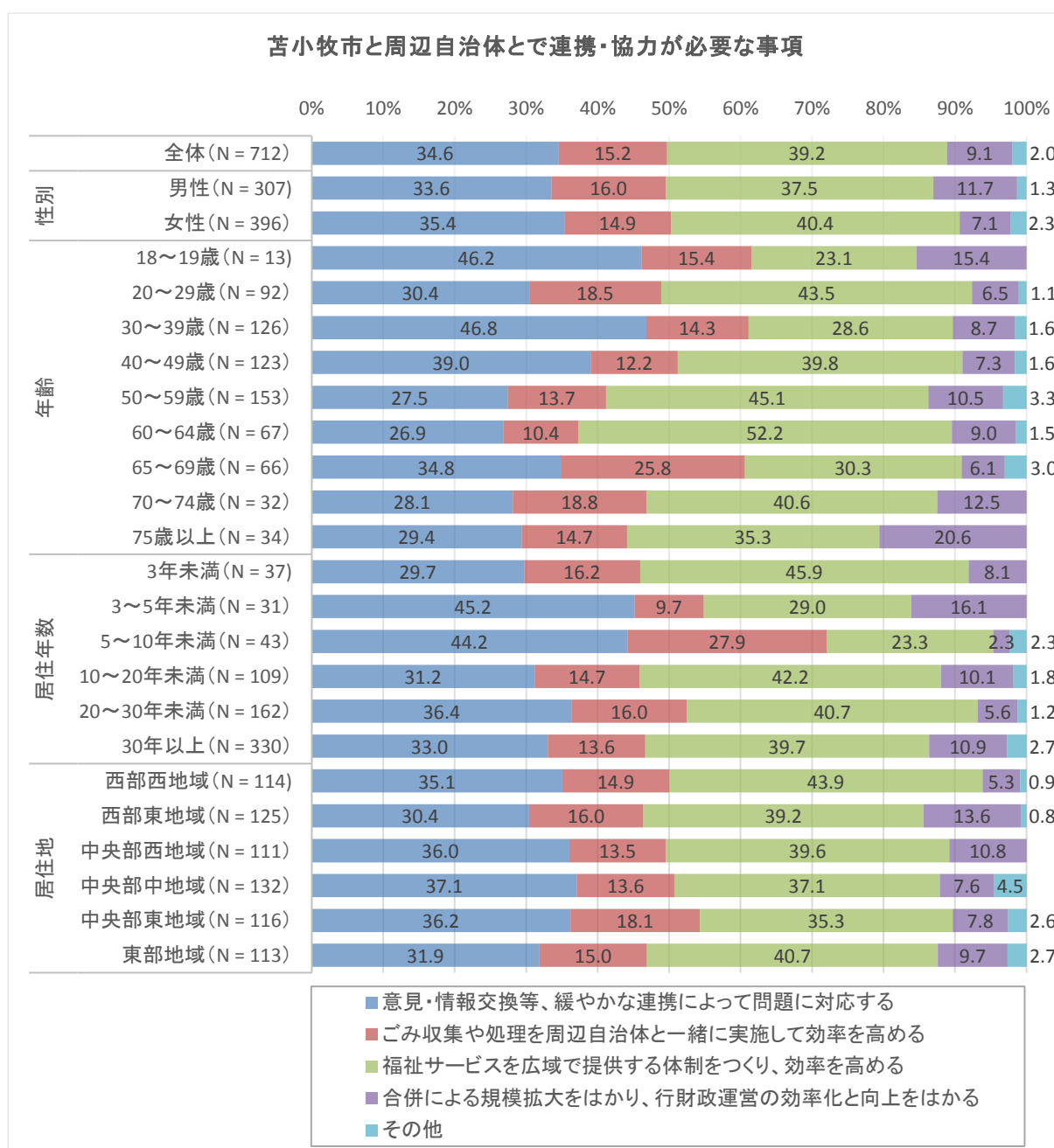
- ・景気対策
- ・駅前の活性化
- ・地域活性化
- ・ない

(7) 苫小牧市と周辺自治体とで連携・協力が必要な事項

「福祉サービスを広域で提供する体制をつくり、効率を高める」が 39.2%で最も多く、次いで「意見・情報交換等、緩やかな連携によって問題に対応する」(34.6%)となっている。

属性別にみると、年齢別では、「30～64歳」で「意見・情報交換等、緩やかな連携によって問題に対応する」の回答割合が年齢層が上がるにつれて低くなり、逆に「福祉サービスを広域で提供する体制をつくり、効率を高める」の回答割合が高くなっている。また、「65～69歳」では「ごみ収集や処理を周辺自治体と一緒に実施して、効率を高める」の回答割合が高い。

居住年数別では、「3～10年未満」で「意見・情報交換等、緩やかな連携によって問題に対応する」の回答割合が高くなっている。また、「5～10年未満」では「ごみ収集や処理を周辺自治体と一緒に実施して、効率を高める」の回答割合が高い。



※その他の回答内容

- ・防災体制の整備
- ・地震の際の防災マップ作り
- ・防犯、防災など安全安心な生活ができるための協力体制をしっかりとしておくことが大切だと思う。子どもの行事、キャンプ・お祭りを一緒にするなど、市民同士の交流も普段からしておき、何かあった時に力を合わせられるように心の準備があるといいのでは。
- ・周辺自治体と共に人を呼び込む物産市を定期的に行う（人が集う場所がない）。
- ・ゴルフ銀座と呼ばれる好環境をイメージアップ。苫小牧市主催のコンペ開催。
- ・市民高齢化にともなう町内会への仕事負担の軽減。
- ・東西に細長い苫小牧市は周辺自治体との連携・協力は難しい。
- ・現在何をしているかわからないので回答できない。
- ・よくわからない（2件）。
- ・ない

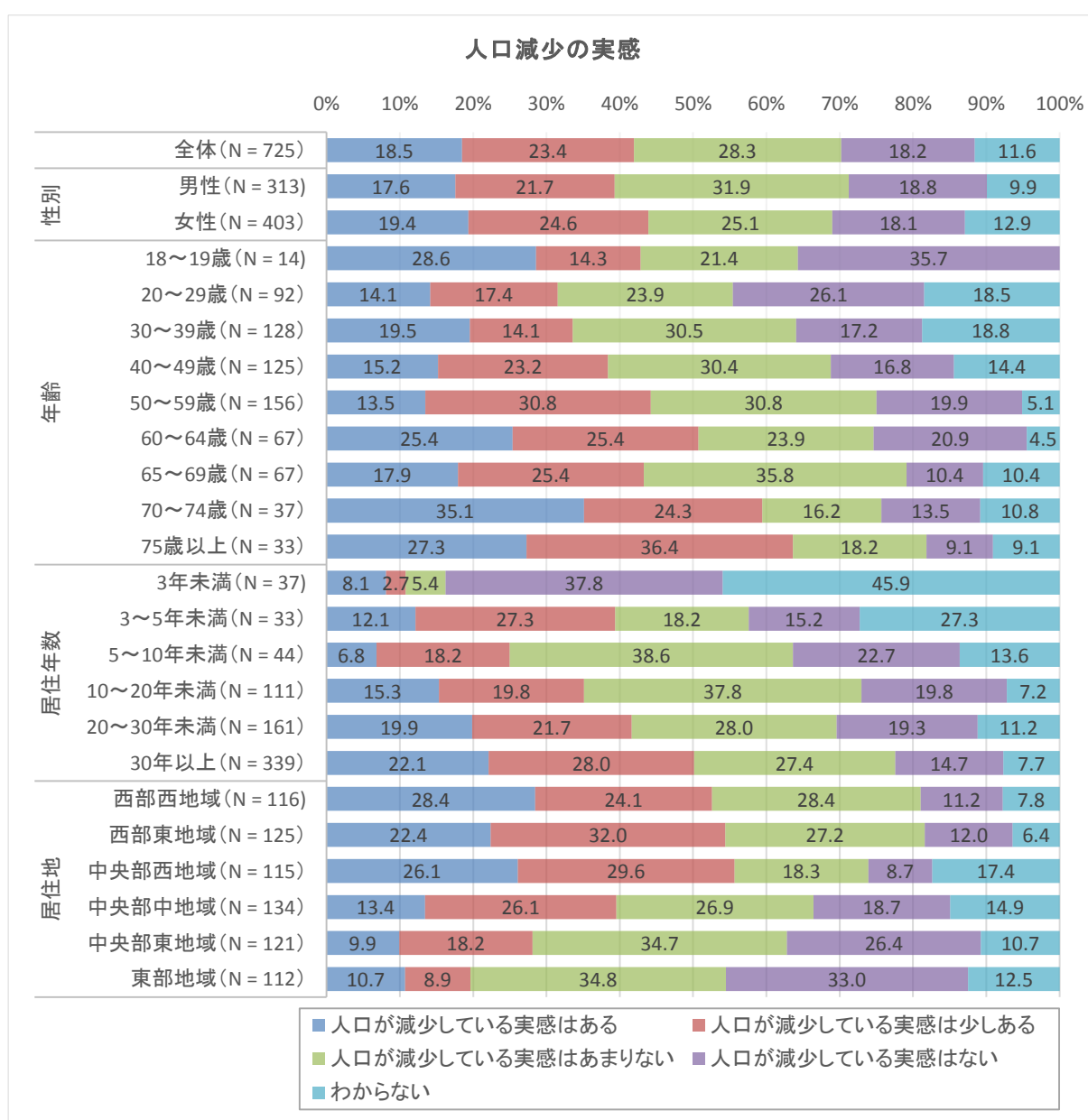
(8) 人口減少について

1. 人口減少の実感

人口減少の実感について、「実感はある」との回答割合（「実感はある」＋「少し実感はある」）は41.9%、「実感はない」との回答割合（「あまり実感はない」＋「実感はない」）は46.5%となっており、全体では若干「実感はない」の回答割合が多い。

属性別にみると、年齢別では、「39歳以下」で「実感はない」方の回答割合が高いのに対し、「60～64歳」及び「70歳以上」では「実感がある」方が高くなっている。

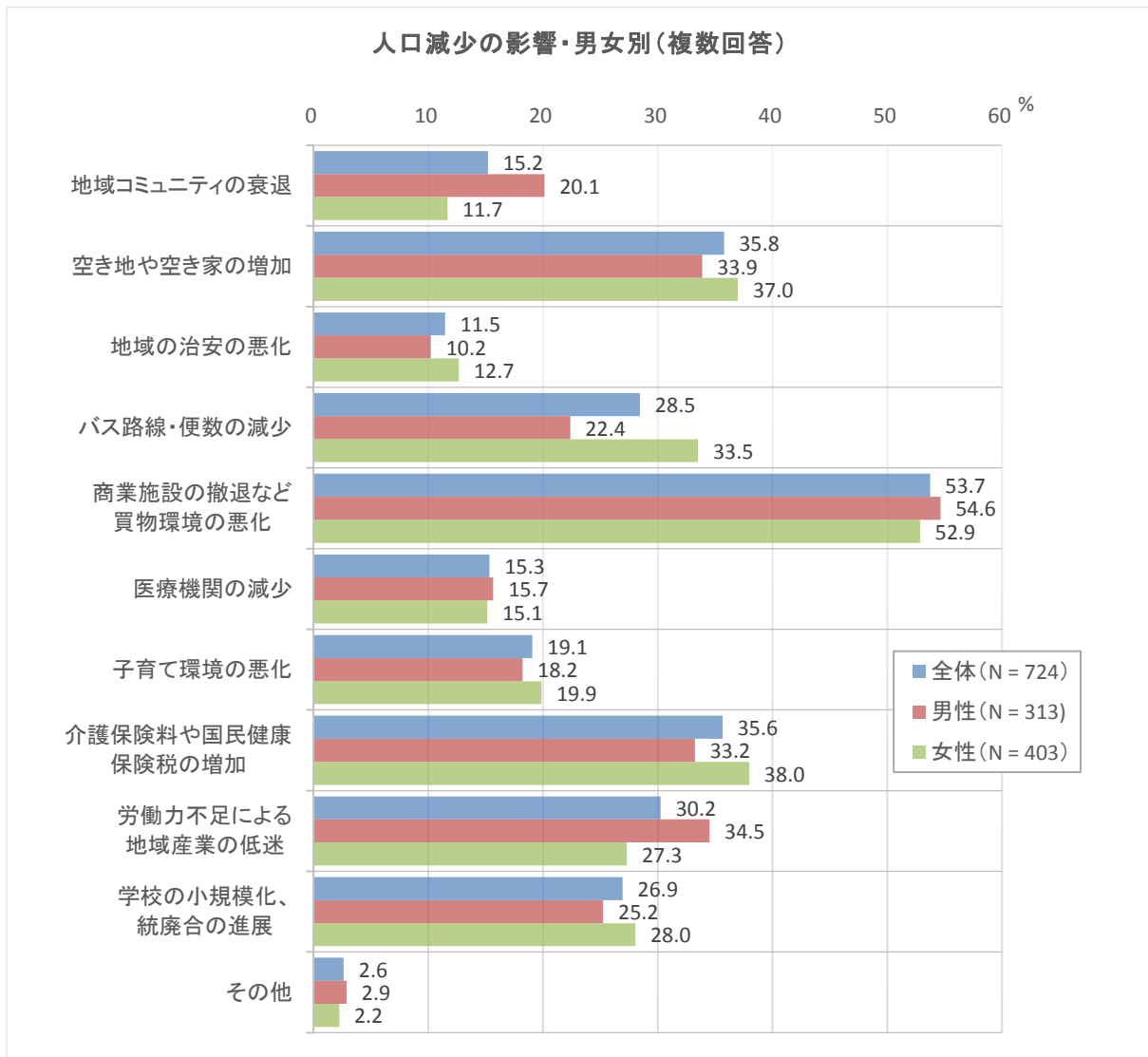
居住地別にみると、「西部西地域」、「西部東地域」及び「中央部西地域」では「実感はある」との回答割合（「実感はある」＋「少し実感はある」）が5割を超えているのに対し、「中央部東地域」と「東部地域」では「実感はない」との回答割合（「あまり実感はない」＋「実感はない」）が6割を超えており、地域によって人口減少の実感に対し大きな差がある。



2. 人口減少による影響

人口減少の影響について懸念することは、「商業施設の撤退など買い物環境の悪化」が53.7%で最も多く、次いで「空き地や空き家の増加」(35.8%)、「介護保険料や国民健康保険税の増加」(35.6%)となっている。

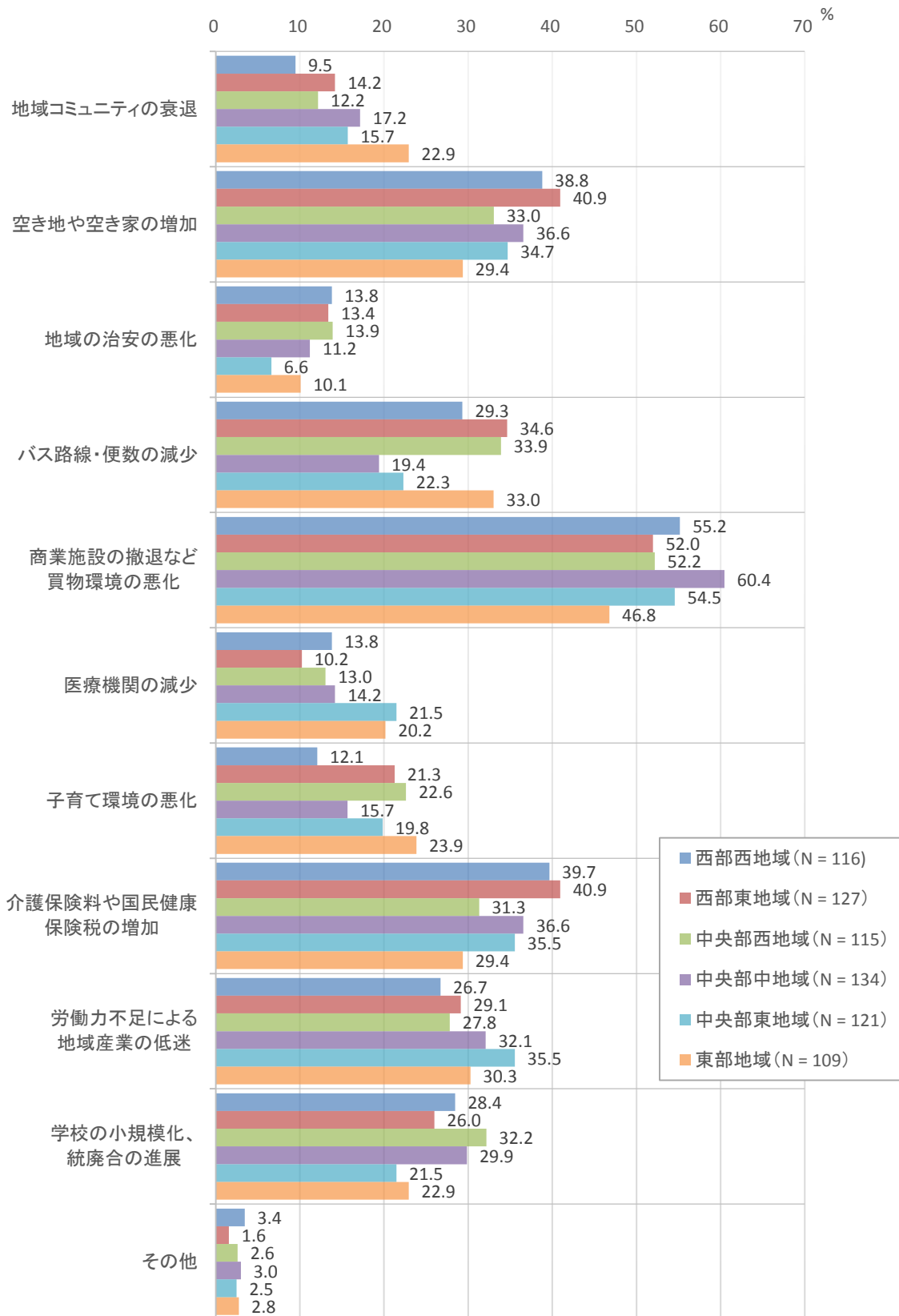
居住地別にみると、「商業施設の撤退など買い物環境の悪化」に対する回答割合が「中央部中地域」で60.4%と他地域より高くなっている。また、「空き地や空き家の増加」及び「介護保険料や国民健康保険税の増加」については「西部東地域」で高く、「労働力不足による地域産業の低迷」については「中央部東地域」で、「バス路線の便数の減少」については「西部東地域」、「中央部西地域」及び「東部地域」でそれぞれ高くなっている。



※その他の回答内容

| | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 税収の減少 ・ 税の負担増と保障の減少 ・ 経済の活力の低下 ・ 企業による要員効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の職場の減少 ・ 大学等の教育を受けた後の就職先がないので地方に出てしまう。 ・ 若者の異性間の交流の減少 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化 ・ 高齢化 ・ 駅前に魅力がなさすぎ ・ 魅力がない ・ わからない |
|--|---|---|

人口減少の影響・居住地別（複数回答）

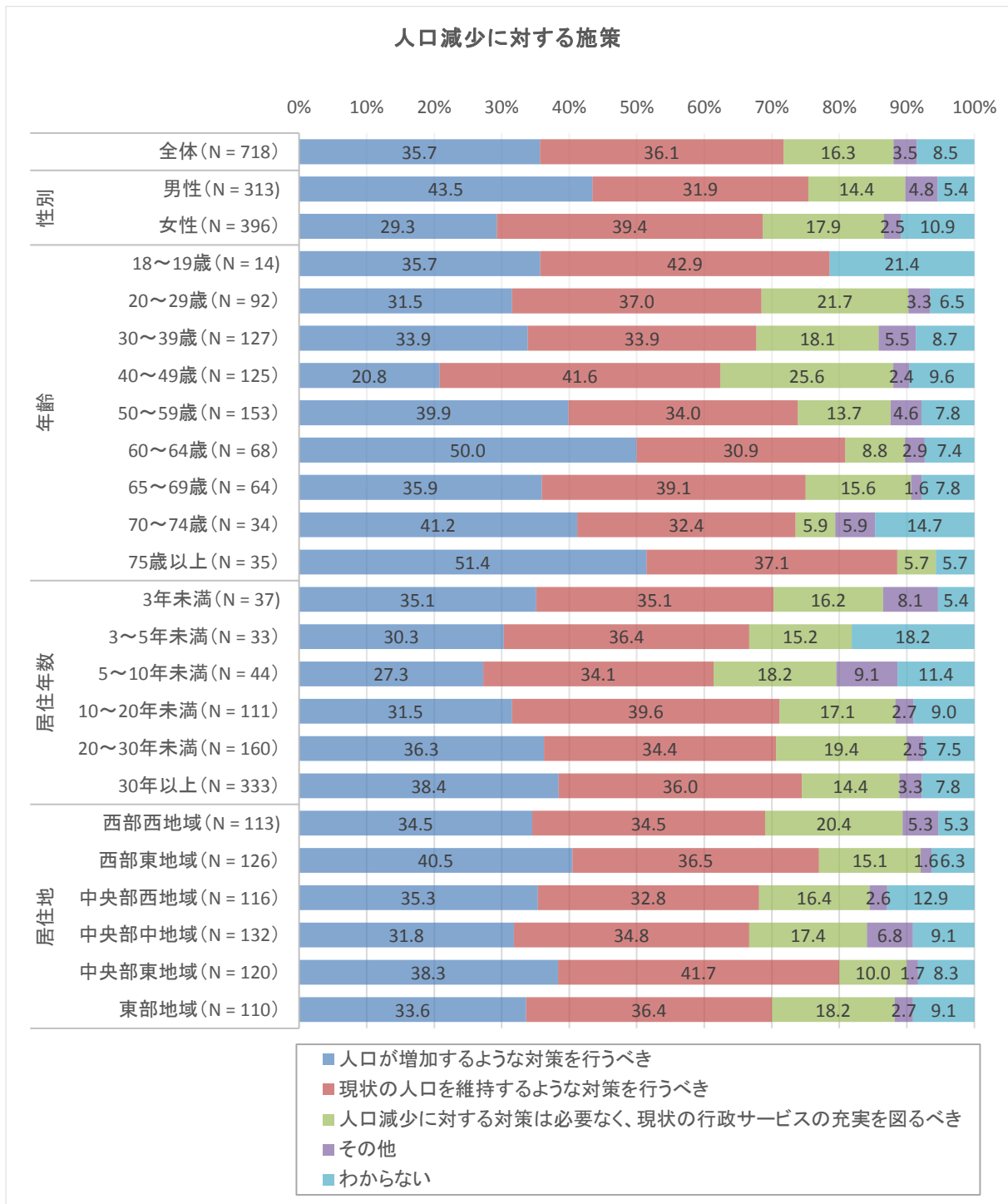


3. 人口減少に対する施策のあり方

人口対策に対する考え方は、「現状の人口を維持するような対策を行うべき」が 36.1%、「人口が増加するような対策を行うべき」が 35.7%と、現状の人口を維持もしくは増加すべきとの意見が7割を超える。

属性別にみると、男女別では、「人口増加対策」に対する回答割合が男性で高くなっている。

年齢別では、「人口増加対策」に対する回答割合が「40～49歳」で低く、逆に「60～64歳」及び「75歳以上」で高くなっている。



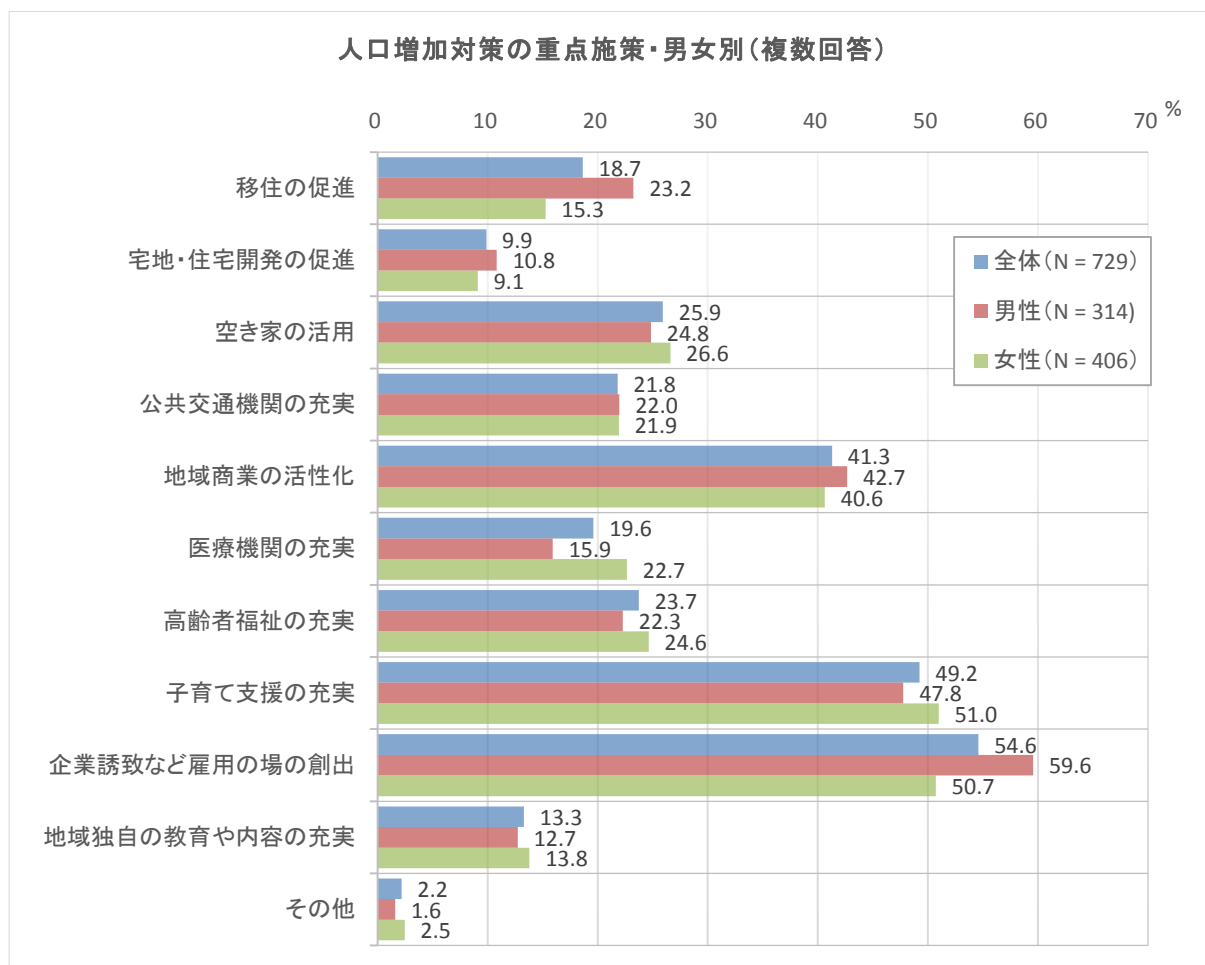
※その他の回答内容

- ・他地域からの移住・定住を促す取り組みも必要。また現在、市内在住の子育て世代が暮らしやすい子育て環境を充実させるべき。
- ・人口減少を前提とした対策。
- ・人口減少対策を行いつつも、サービスの効率化、重点化を行う。
- ・人口が減少している地域の増加対策。
- ・人口減少に伴う都市計画の見直し。
- ・駅前活性化。
- ・駅前がもっと活性化し、他の都市からも人が集まる何かを考えていくべき。
- ・駅前（南口）の活性化。駅前に高齢者施設を作るから若者が寄っていかない。
- ・東地区ではなく西地区対策。
- ・企業誘致。
- ・働く場所、企業の像、活力が必要。
- ・働く人口を増やして欲しい（母子家庭等に対する扶養手当等の支給に関し、妥当ではないものもあるような気がする）。
- ・若い人を増やす。
- ・少子化対策。
- ・環境を整えても子を産むべき世代が交流できる場と時間を設けないと意味がない。
- ・保育園の体制、考え方、方針の改革が必要。
- ・魅力があれば人は集まる、なければ他へ流れる。
- ・地域産業の低迷を打破する対策。
- ・市の人口が何に依存し、増減しているのかを把握するのが先ではないか。
- ・高齢化は自然減が増加するのは必然で、労働人口の維持で企業の活性化につとめ、安心できる市政をお願いしたい。
- ・行政サービスが充実していれば、人口の減らない住みたい町になるのではないか。
- ・財源減少に応じた行政運営をしてほしい。

4. 人口増加対策の重点施策

人口増加対策に取り組むとした場合、重点を置くべき人口増加対策については、「企業誘致など雇用の場の創出」が 54.6%で最も多く、次いで「子育て支援の充実」(49.2%)、「地域商業の活性化」(41.3%)の順となっている。

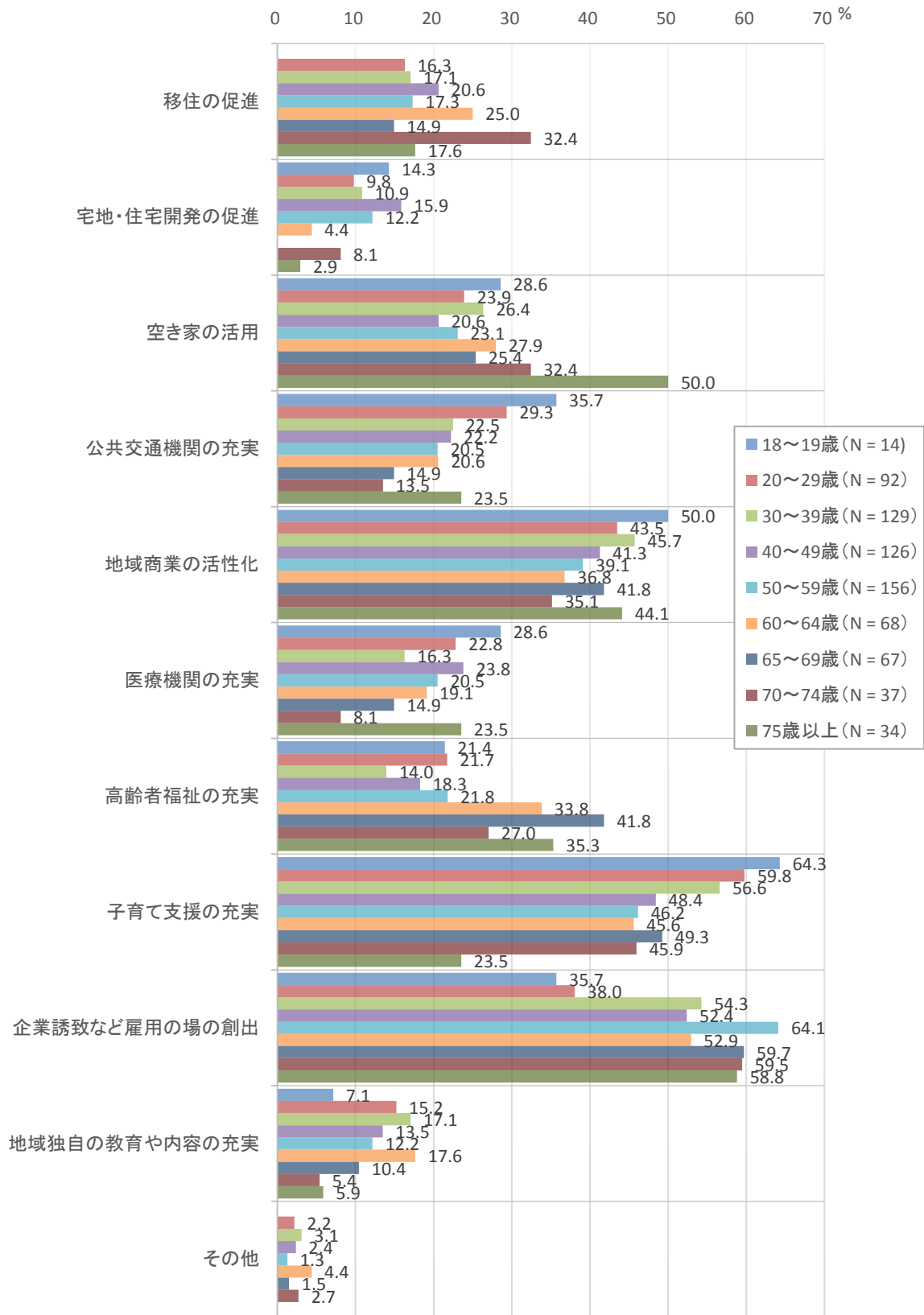
属性別にみると、「企業誘致など雇用の場の創出」については、「男性」及び「50～59 歳」で高くなっている。全体で 2 位の「子育て支援の充実」については、「39 歳以下」で 1 位の回答となっている。また「地域商業の活性化」については、若い年齢層ほど回答割合が高くなっている。



※その他の回答内容

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺を昔のように活気のある街に。 ・ 空港や札幌が近いのに目玉になる観光や行ってみたい、住んでみたいと気持ちになるものが欠けていてあまり目立たないので、この土地ならではのものを重点にしてアピールしたらいいと思う。 ・ もっと自然豊かな憩い、遊びの場を。 ・ 若者対策。 ・ 市内にいる若者の交流の機会と場を設ける。 ・ 市営住宅に若年層の受け入れ。 ・ 高校生、大学生への支援。障がい児の福祉サービスの充実。 ・ 高等教育機関（理科系）の設置。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚、子育て世代が魅力的に思える街づくりを。あらゆる分野で市政に参加できるシステムを模索し、定住し頼られる存在として活躍の中心に。 ・ 出会いの場をつくる。 ・ 三笠市のような英語教育に力を入れる。 ・ 差別、いじめのない弱者を守る支援。 ・ 障がい者や知的障がい者が通える中学・高校ができること、市外への引越しがなくなるかもしれない。 ・ 医療費の助成。 ・ 低所得世帯の雇用問題の改善 |
|--|--|

人口増加対策の重点施策・年齢別（複数回答）

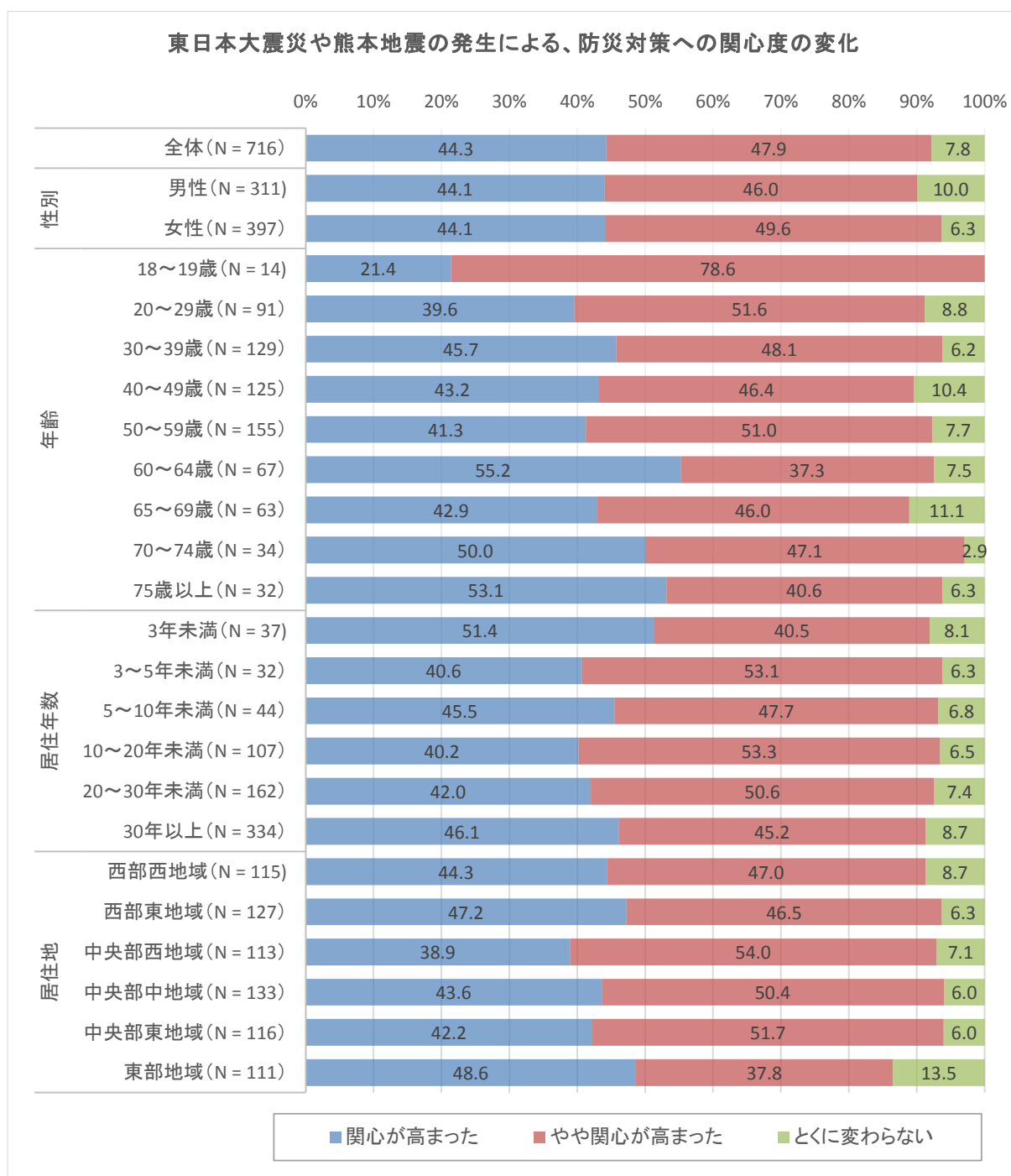


(9) 防災について

1. 東日本大震災や熊本地震の発生による、防災対策への関心度の変化

「関心が高まった」、「やや関心が高まった」と合わせて全体の 92.2%が防災対策に対する意識が高まったと回答している。

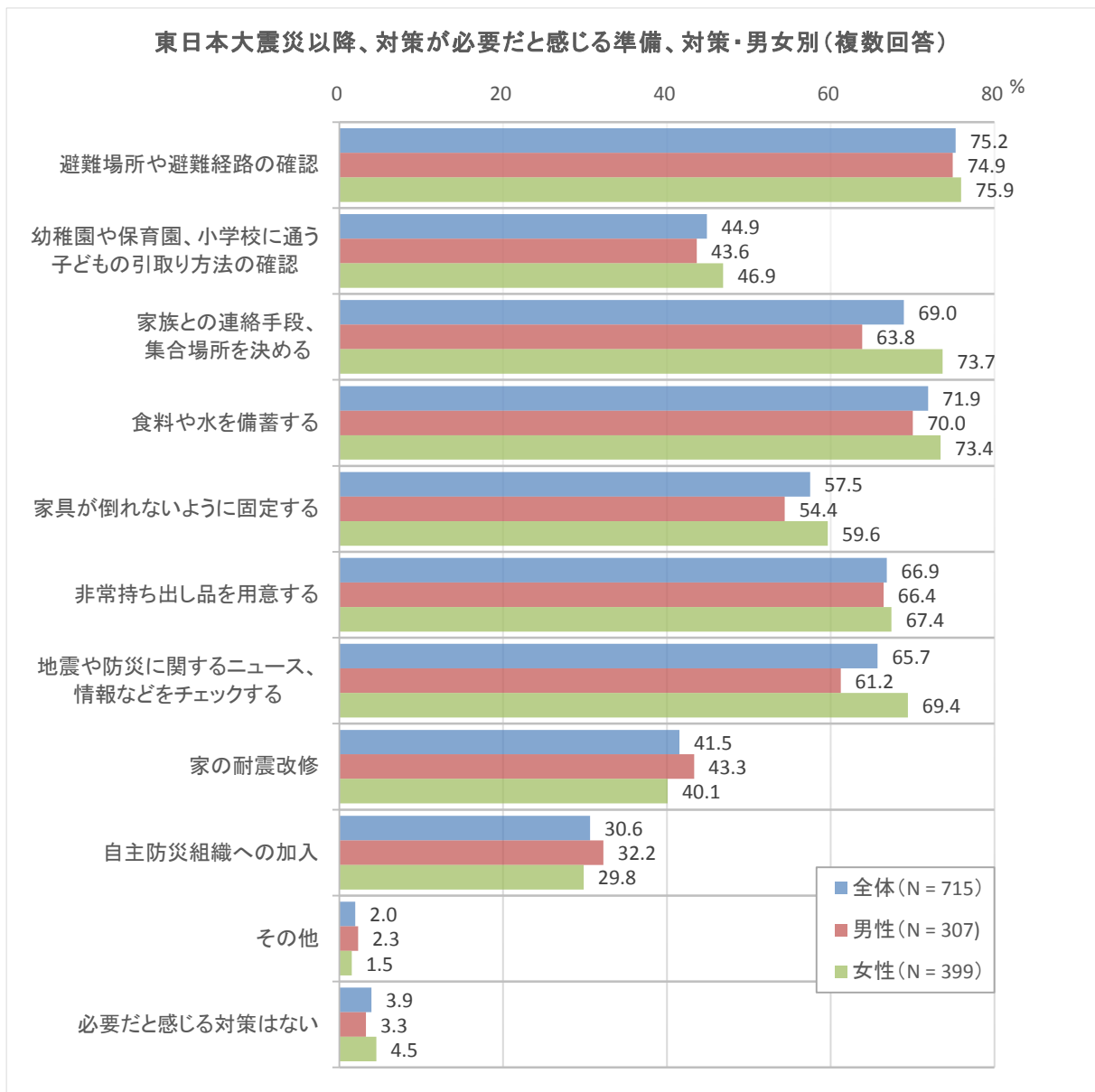
属性別でも、さほど大きな差異はみられない。



2. ご自身で取り組みが必要と感じる防災対策

ご自身で対応が必要だと感じる準備、対策については、回答が多い順に「避難場所や避難経路の確認」(75.2%)、「食料や水を備蓄する」(71.9%)、「家族との連絡手段、集合場所を決める」(69.0%)、「非常持ち出し品を用意する」(66.9%)、「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(65.7%)となっている。

年齢別にみると、いずれの対策についても、年齢層が高くなるにつれて対策の必要性を感じる度合いが弱まる傾向にある。

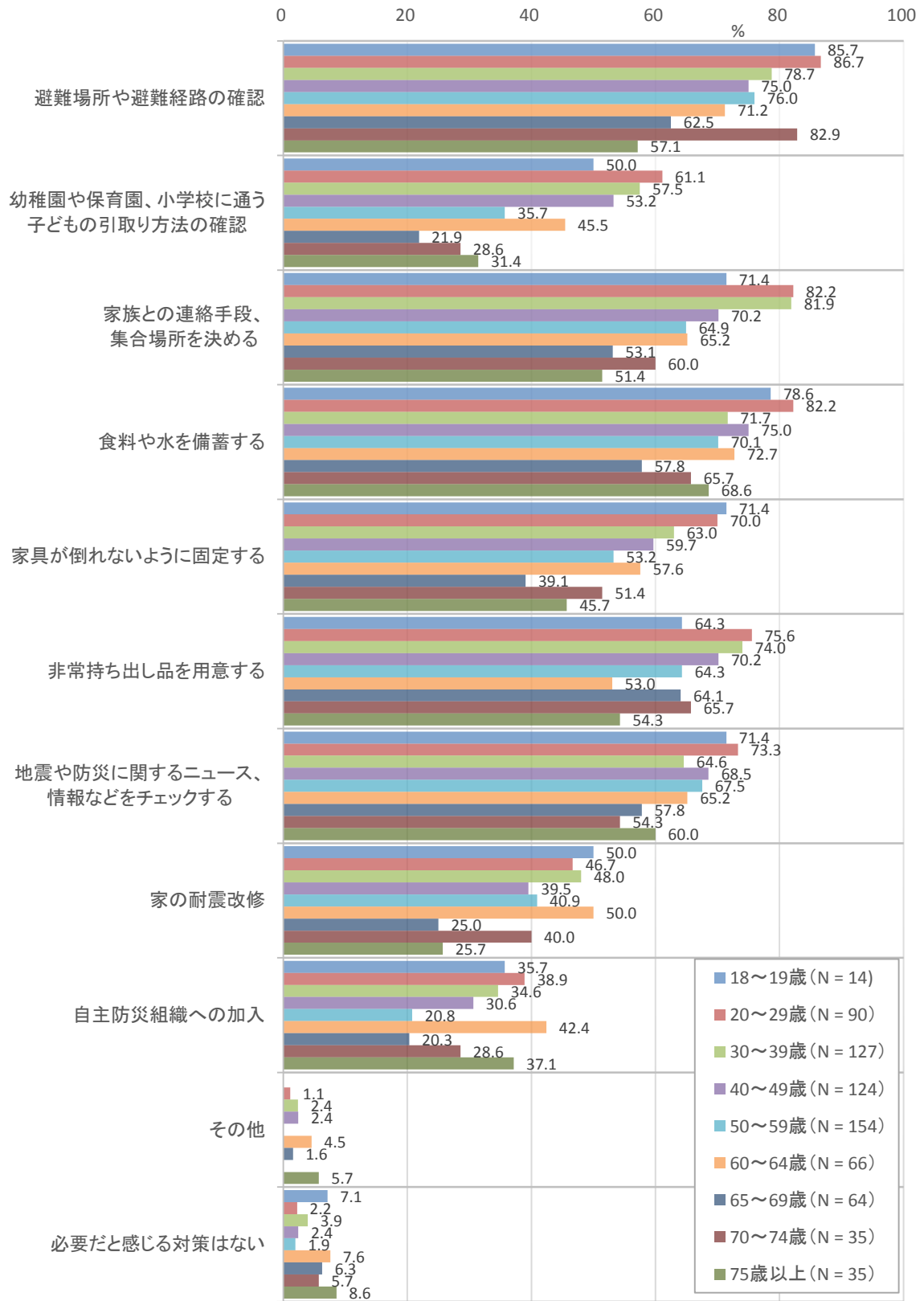


※その他の回答内容

- ・町内での防災訓練
- ・情報を知るためのアイテム
- ・市と自衛隊との情報交換や支援

- ・各種保険の考え方
- ・避難時、すぐ履けるスニーカーを寝室に置いておく

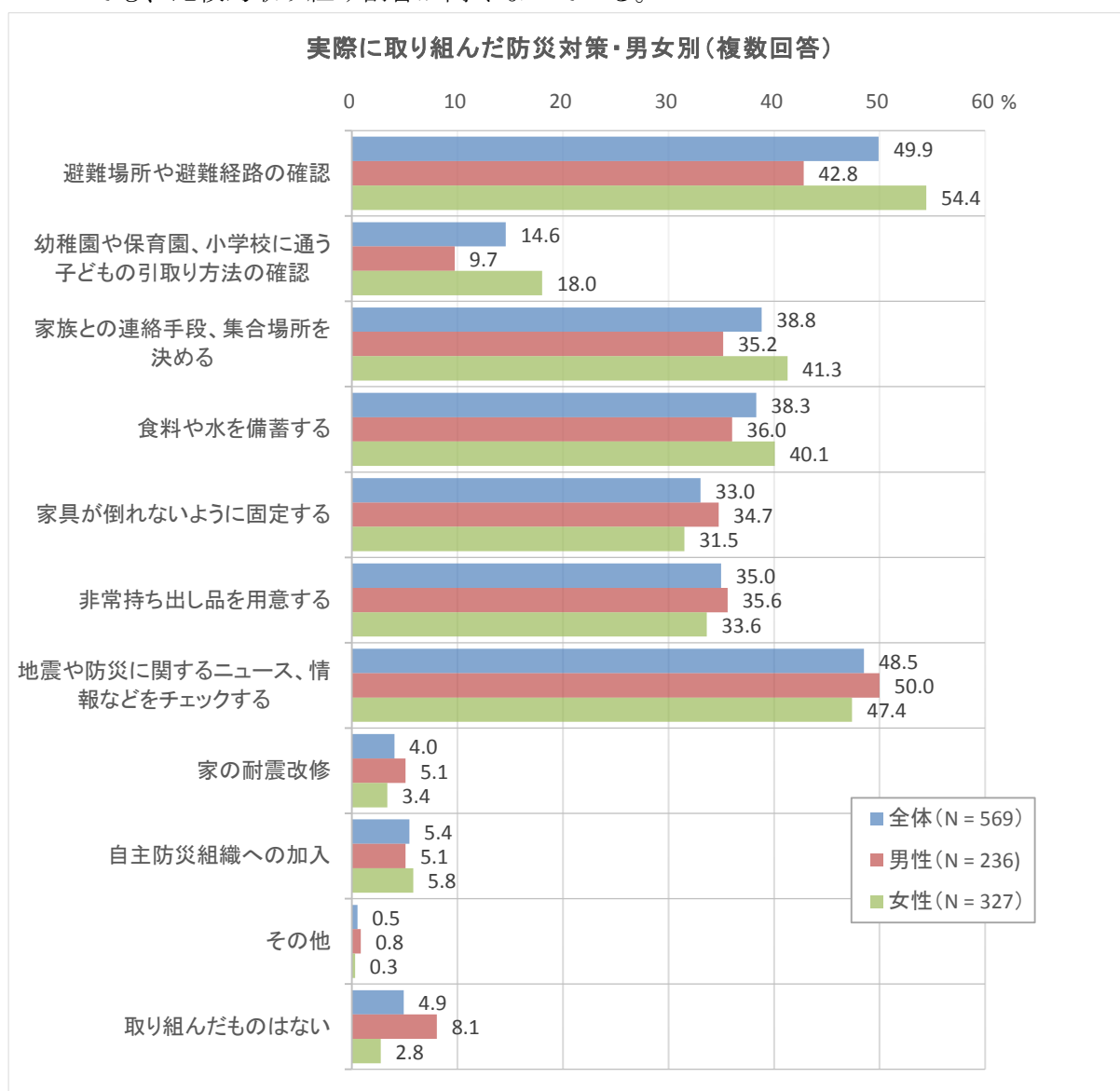
東日本大震災以降、対策が必要だと感じる準備、対策・年齢別
(複数回答)



3. 実際に取り組んだ防災対策

防災対策として実際に取り組んだことについては、「避難場所や避難経路の確認」が49.9%で最も多く、次いで「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」(48.5%)、「家族との連絡手段、集合場所を決める」(38.8%)、「食料や水を備蓄する」(38.3%)の順となっている。

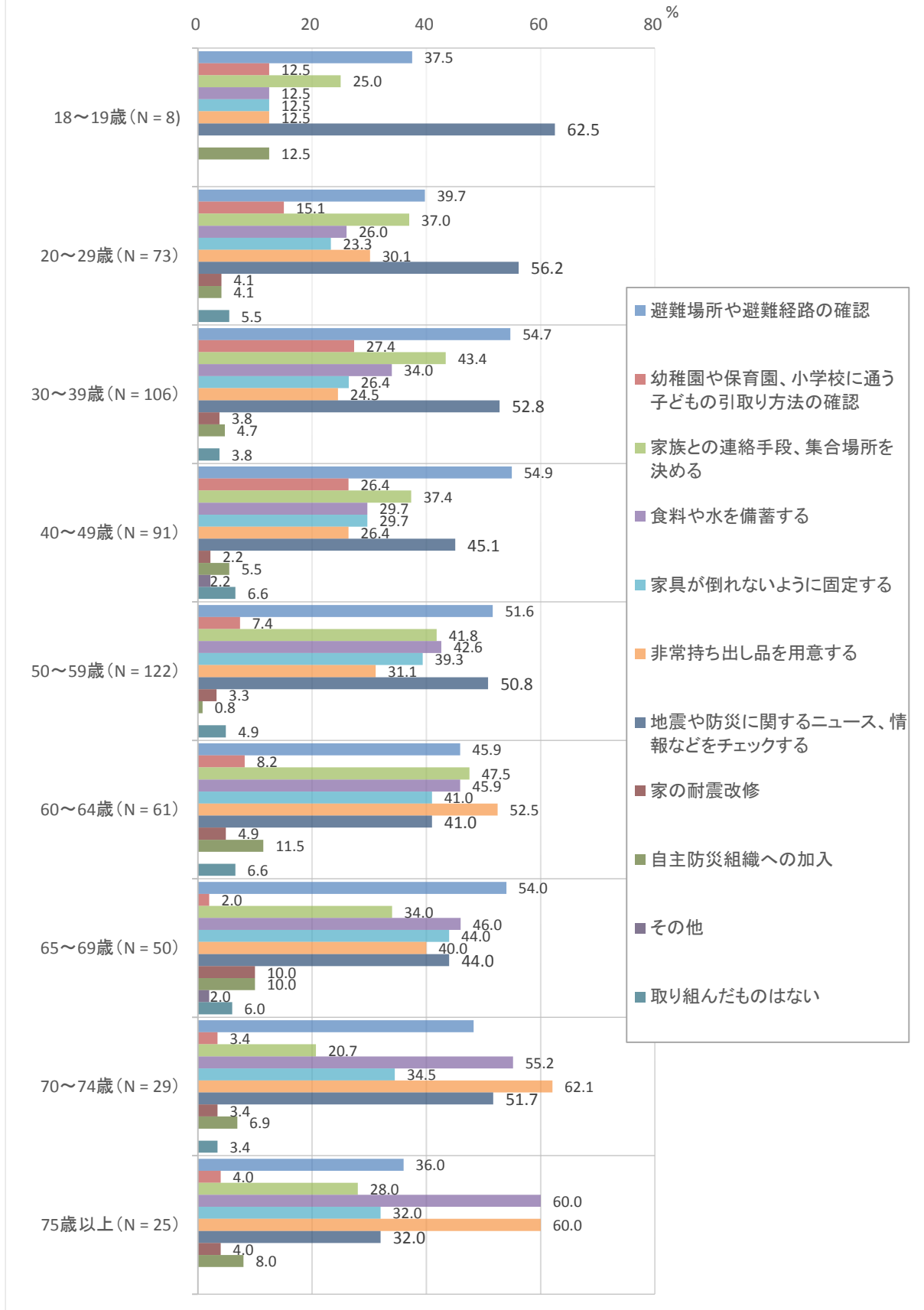
年齢別に1位の回答をみると、「29歳以下」では「地震や防災に関するニュース、情報などをチェックする」、「30～59歳」では「避難場所や避難経路の確認」、「60～64歳」では「非常持ち出し品を用意する」、「65～69歳」では「避難場所や避難経路の確認」、「70～74歳」では「非常持ち出し品を用意する」、「75歳以上」では「食料や水を備蓄する」と「非常持ち出し品を用意する」となっている。また「50～69歳」では「食料や水を備蓄する」や「家具が倒れないよう固定する」など、1位以外の対策についても、比較的取り組み割合が高くなっている。



※その他の回答内容

- ・避難時、すぐ履けるスニーカーを寝室に置いておく

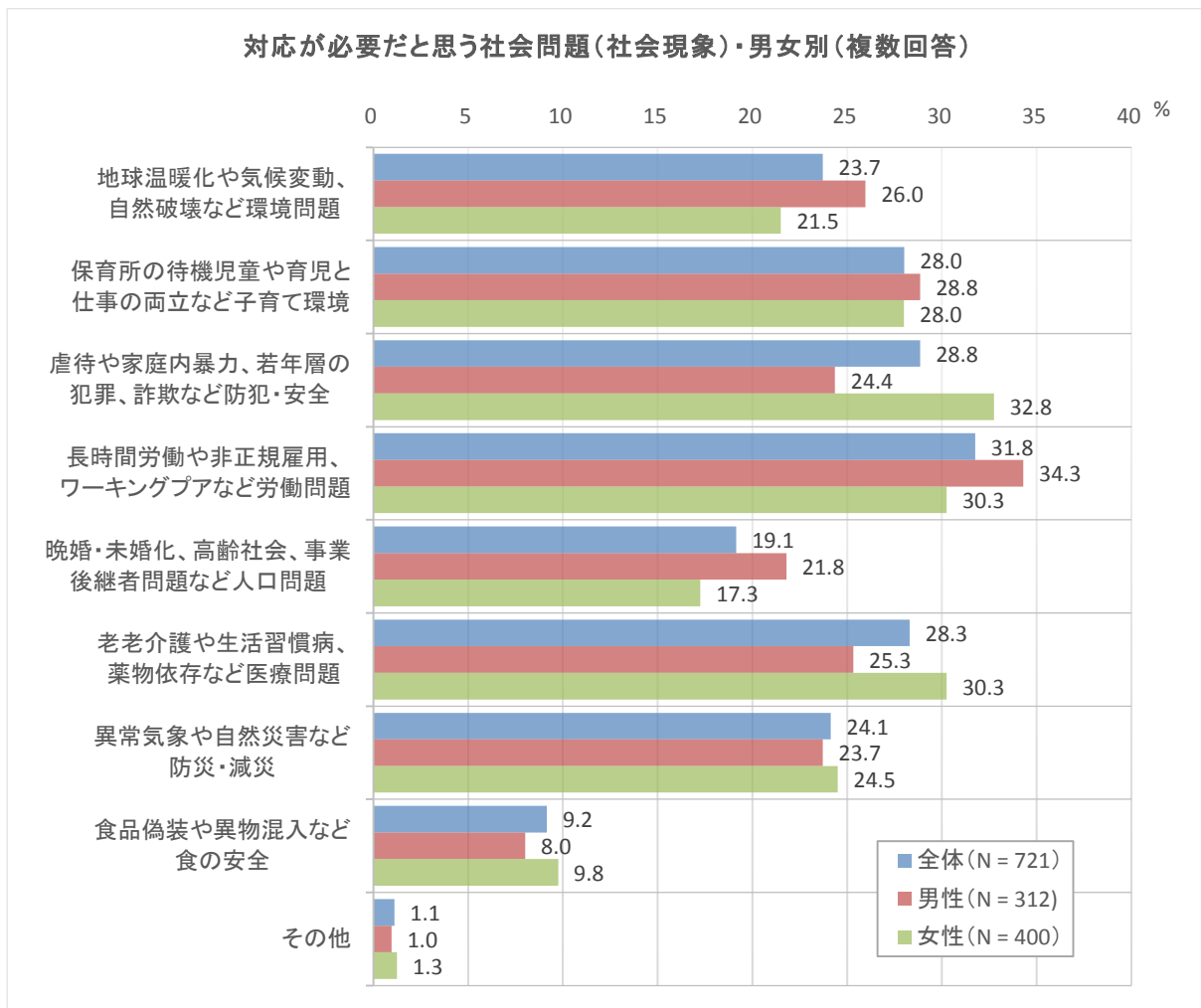
実際に取り組んだ防災対策・年齢別（複数回答）



(10) 対応が必要だと思う社会問題（社会現象）について

対策が必要だと思う社会問題（社会現象）については、「長時間労働や非正規雇用、ワーキングプアなど労働問題」が 31.8%で最も多く、次いで「虐待や家庭内暴力、若年層の犯罪、詐欺など防犯・安全」（28.8%）、「老老介護や生活習慣病、薬物依存など医療問題」（28.3%）、「保育所の待機児童や育児と仕事の両立など子育て環境」（28.0%）の順となっている。

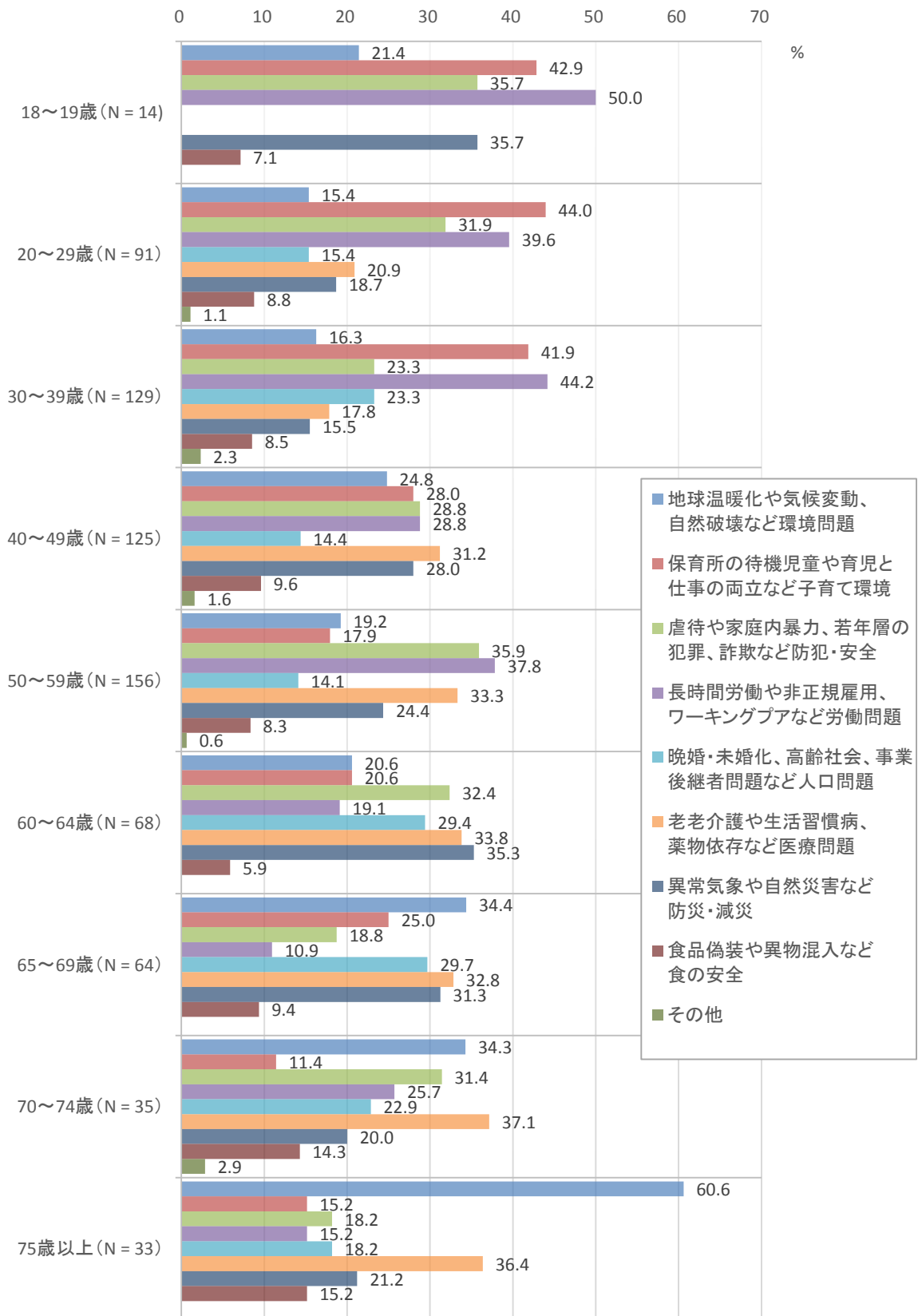
年齢別に回答割合の高い項目をみると、「39歳以下」では「子育て環境」や「労働問題」、「40～49歳」では「老老介護・医療問題」、「50～59歳」では「労働問題」や「防犯・安全」、「60～64歳」では「防災・減災」や「老老介護・医療問題」、「65歳以上」では「環境問題」や「老老介護・医療問題」となっている。



※その他の回答内容

- ・いまだなくなならない障害者への差別、子どものいじめをなくすことができれば人々は変わり支えあうことができる。
- ・子ども達のいじめ対策、子どもどうしの交流促進。スマホばかりでよくない。
- ・生活保護の見直し（生活保護の支援と期間、支給料の見直し等）。
- ・不審者、変質者、道で大声・奇声を出す人を何とかして欲しい、町内にいることを知り怖い。
- ・放射能被爆による健康被害。放射能汚染された野菜や肉など出回らないようにしてほしい。被災地の方もそれらを作り続けなくてよい支援を。子ども達の未来が心配。
- ・教育、様々な課題に自主的に考え行動ができる人材の創出。
- ・選択肢全てに関係しているので、絞れない。（2件）
- ・ありすぎてわからない。

対応が必要だと思う社会問題(社会現象)・居住地域別(複数回答)

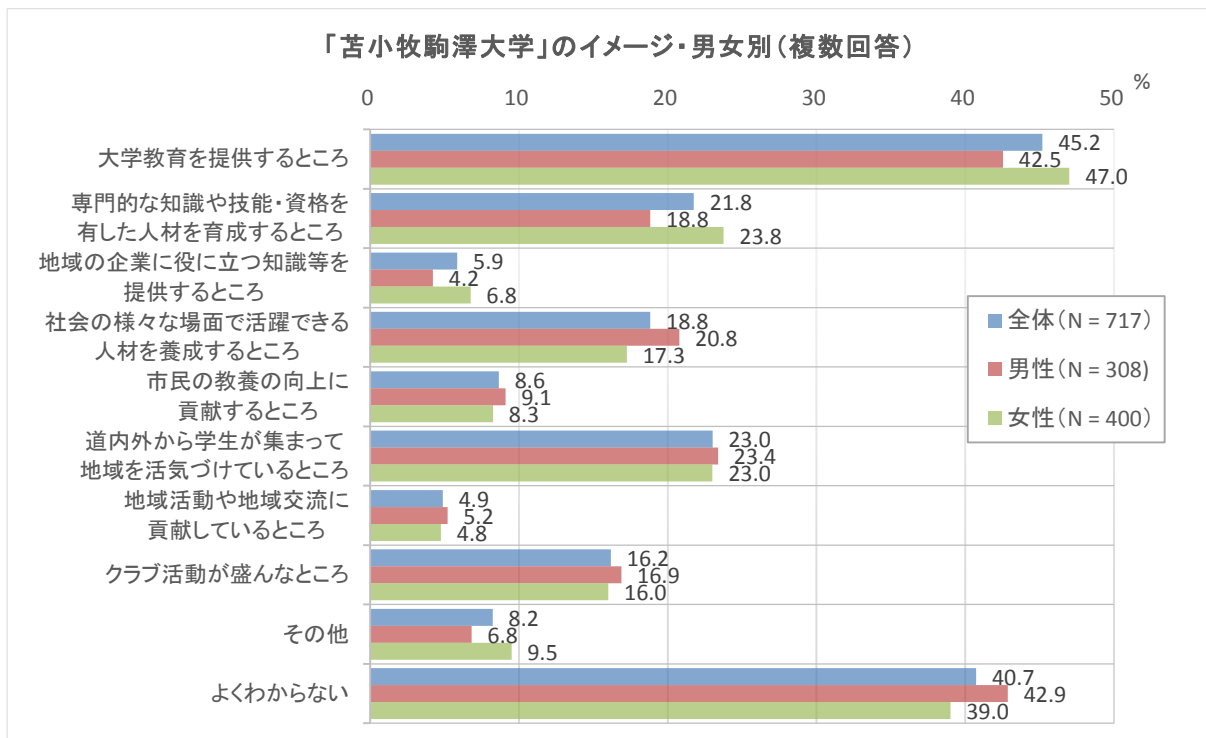


(11) 苫小牧駒澤大学について

1. 苫小牧駒澤大学のイメージ

「苫小牧駒澤大学」のイメージとしては、「大学教育を提供するところ」が 45.2%で最も多く、次いで「道内外から学生が集まって地域を活気づけているところ」(23.0%)、「専門的な知識や技能・資格を有した人材を育成するところ」(21.8%)の順となっている。一方、「よくわからない」も 40.7%と多くなっている。

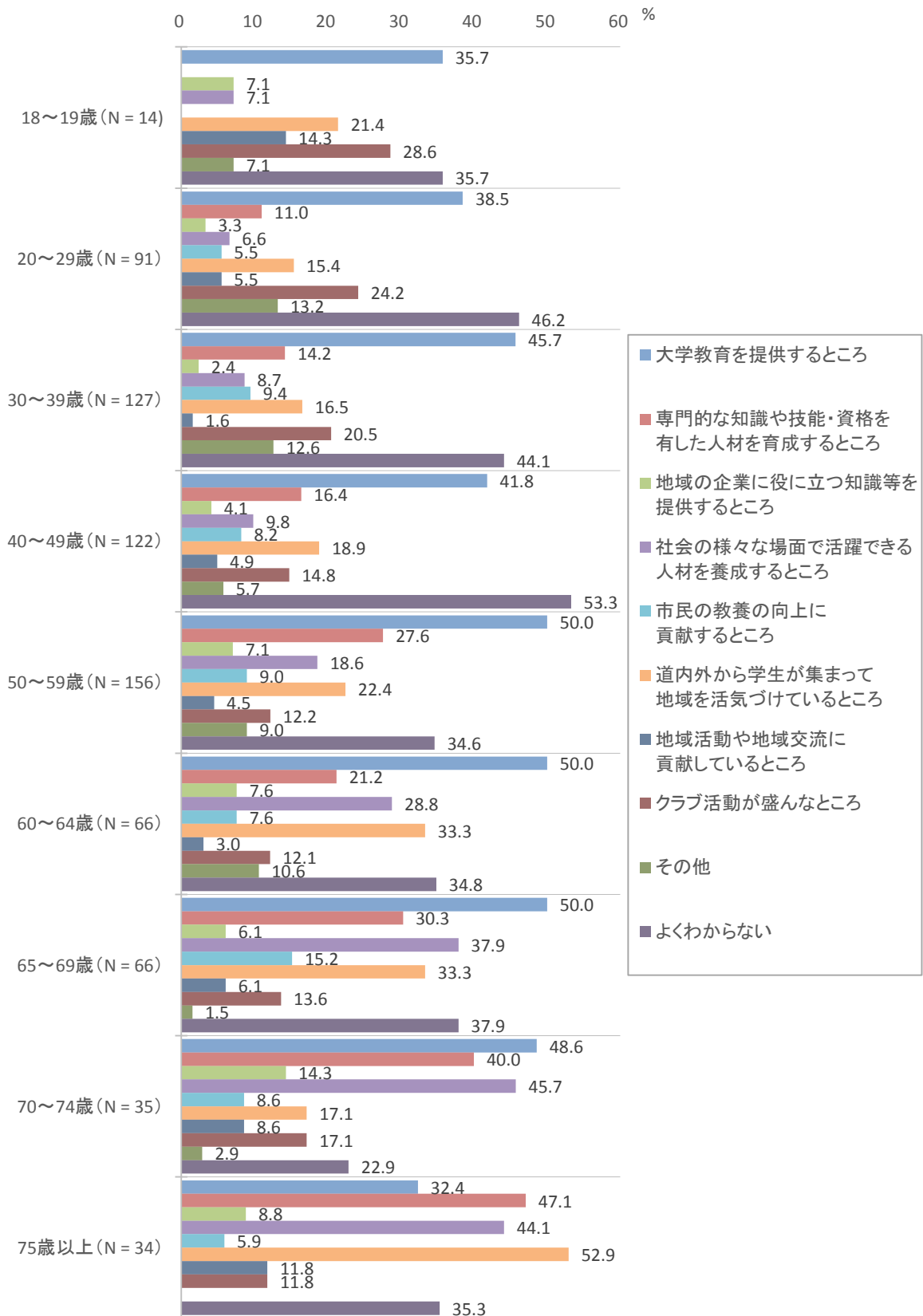
年齢別に回答割合の高い項目をみると、「18～19 歳」では「大学教育を提供するところ」と「よくわからない」が同率(35.7%)、「20～29 歳」では「よくわからない」(46.2%)、次いで「大学教育を提供するところ」(38.5%)、「30～39 歳」では「大学教育を提供するところ」(45.7%)、次いで「よくわからない」(44.1%)、「40～49 歳」では「よくわからない」(53.3%)、次いで「大学教育を提供するところ」(41.8%)、「50～59 歳」では「大学教育を提供するところ」(50.0%)、次いで「よくわからない」(34.6%)、「60～64 歳」では「大学教育を提供するところ」(50.0%)、次いで「よくわからない」(34.8%)、「65～69 歳」では「大学教育を提供するところ」(50.0%)、次いで「社会の様々な場面で活躍できる人材を養成するところ」と「よくわからない」が同率(37.9%)、「70～74 歳」では「大学教育を提供するところ」(48.6%)、次いで「社会の様々な場面で活躍できる人材を養成するところ」(45.7%)、「75 歳以上」では「道内外から学生が集まって地域を活気づけているところ」(52.9%)、次いで「専門的な知識や技能・資格を有した人材を育成するところ」(47.1%)となっている。



※その他の回答内容

| | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽 ・外国人留学生が多い。(7件) ・学部、学科がよくわからない。どのようなことをしているのかわからない。(6件) ・学部、学科が必要なニーズに適切していない。(3件) | <ul style="list-style-type: none"> ・学生が少ない、集まらない。(7件) ・知名度が低い。学生数が少なく、地域の活性になっている感じがない。 ・必要性が感じられない。(10件) ・お金がかかるだけ。専門の学科、保育科など検討しなかったのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業しても就職できない。(2件) ・活気がない。 ・所在地周辺の活気がない。 ・レベルが低いイメージ。(7件) ・学内での治安が悪そう。(2件) ・特にない。(3件) |
|--|---|---|

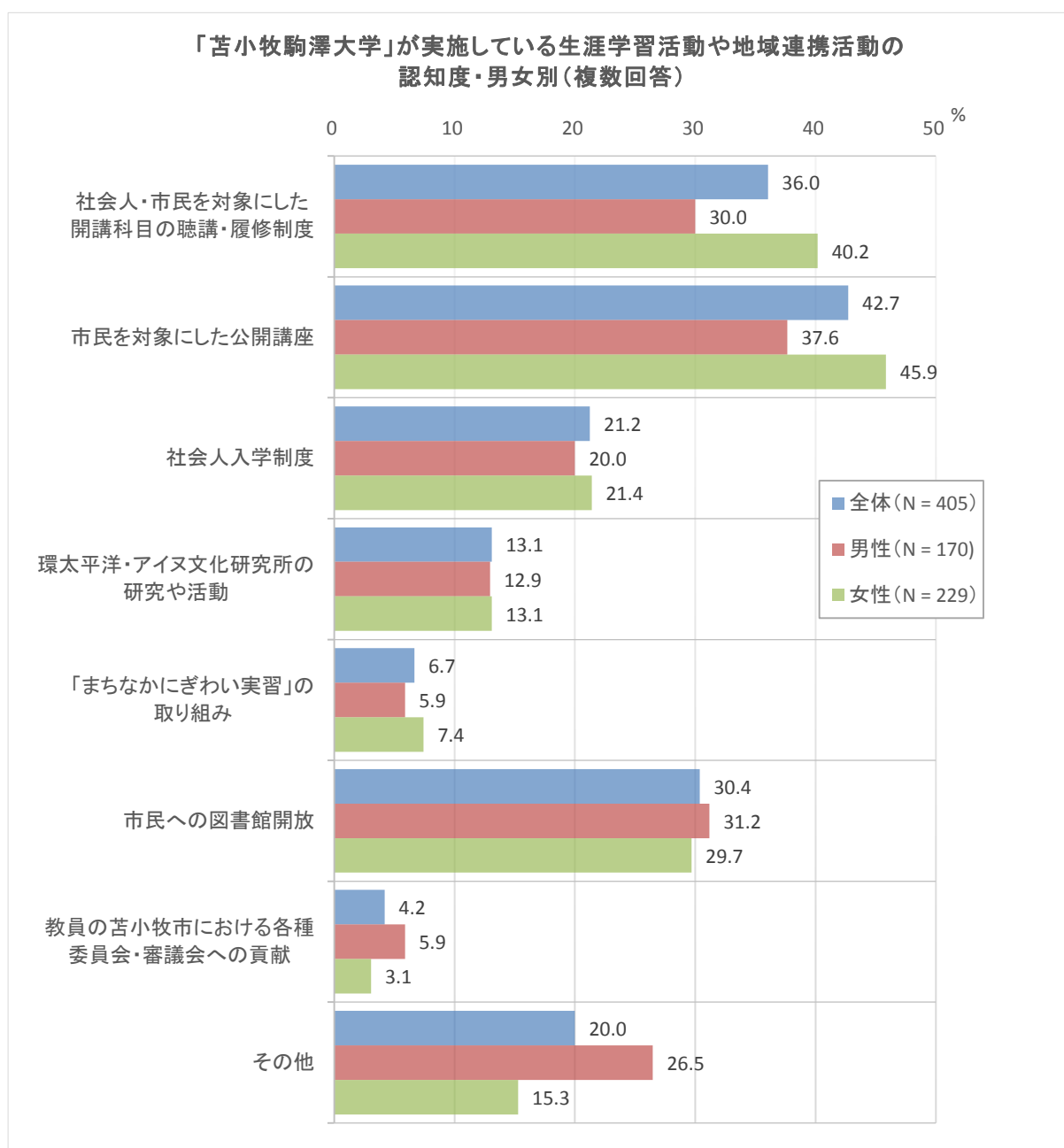
「苫小牧駒澤大学」のイメージ・居住地域別(複数回答)



2. 苫小牧駒澤大学が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知度

「苫小牧駒澤大学」が実施している生涯学習活動や地域連携活動の認知については、「市民を対象にした公開講座」が45.2%で最も多く、次いで「社会人・市民を対象にした開講科目の聴講・履修制度」（36.0%）、「市民への図書館開放」（30.4%）の順となっている。

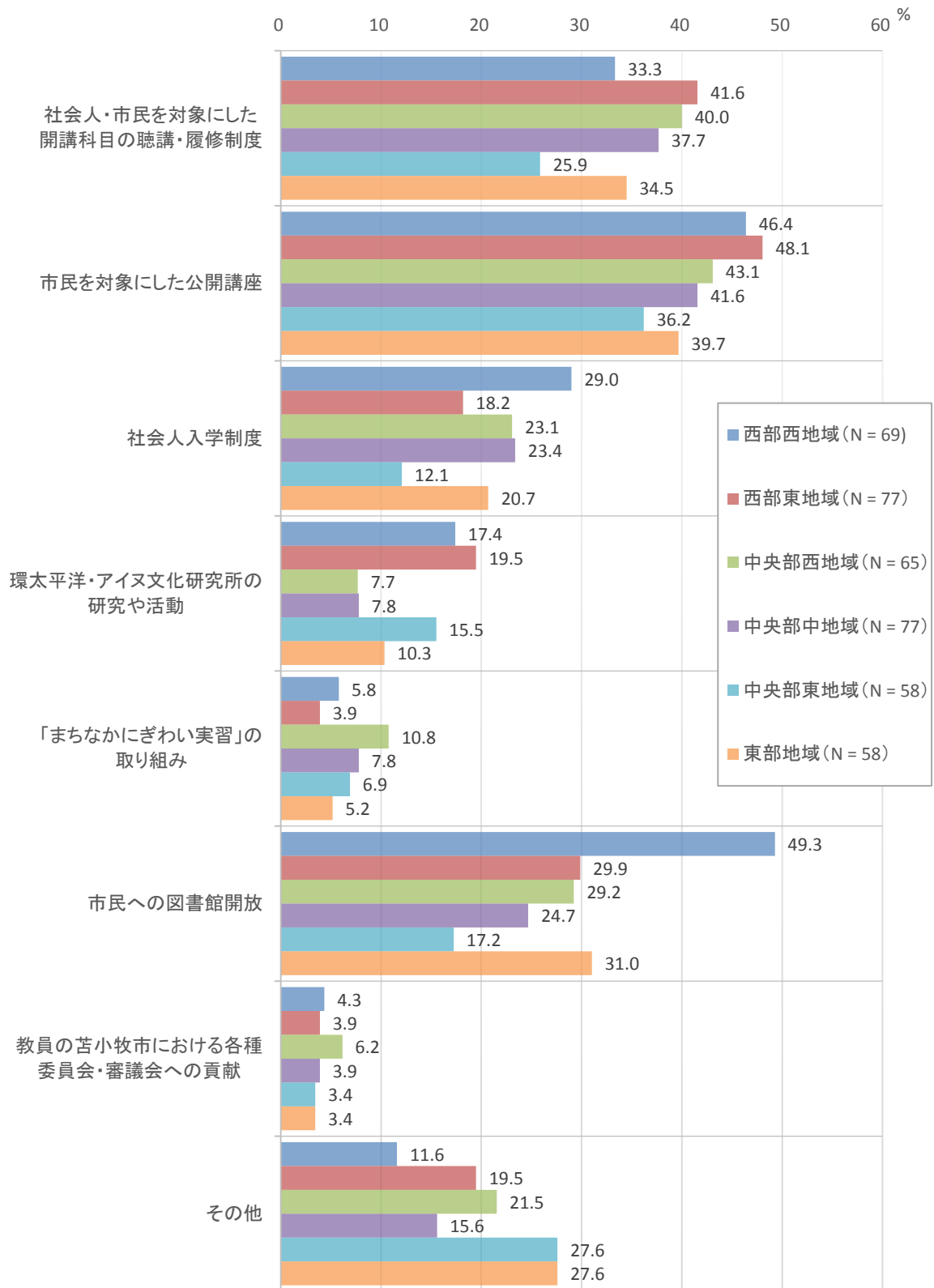
居住地域別にみると、大学に近い「西部西地域」や「西部東地域」でやや認知度が高くなっている。



※その他の回答内容

- ・その他の回答に記載のあった69件のうち、「留学生の受け入れ」との回答1件を除く68件は、全て「何も知らない」との回答であった

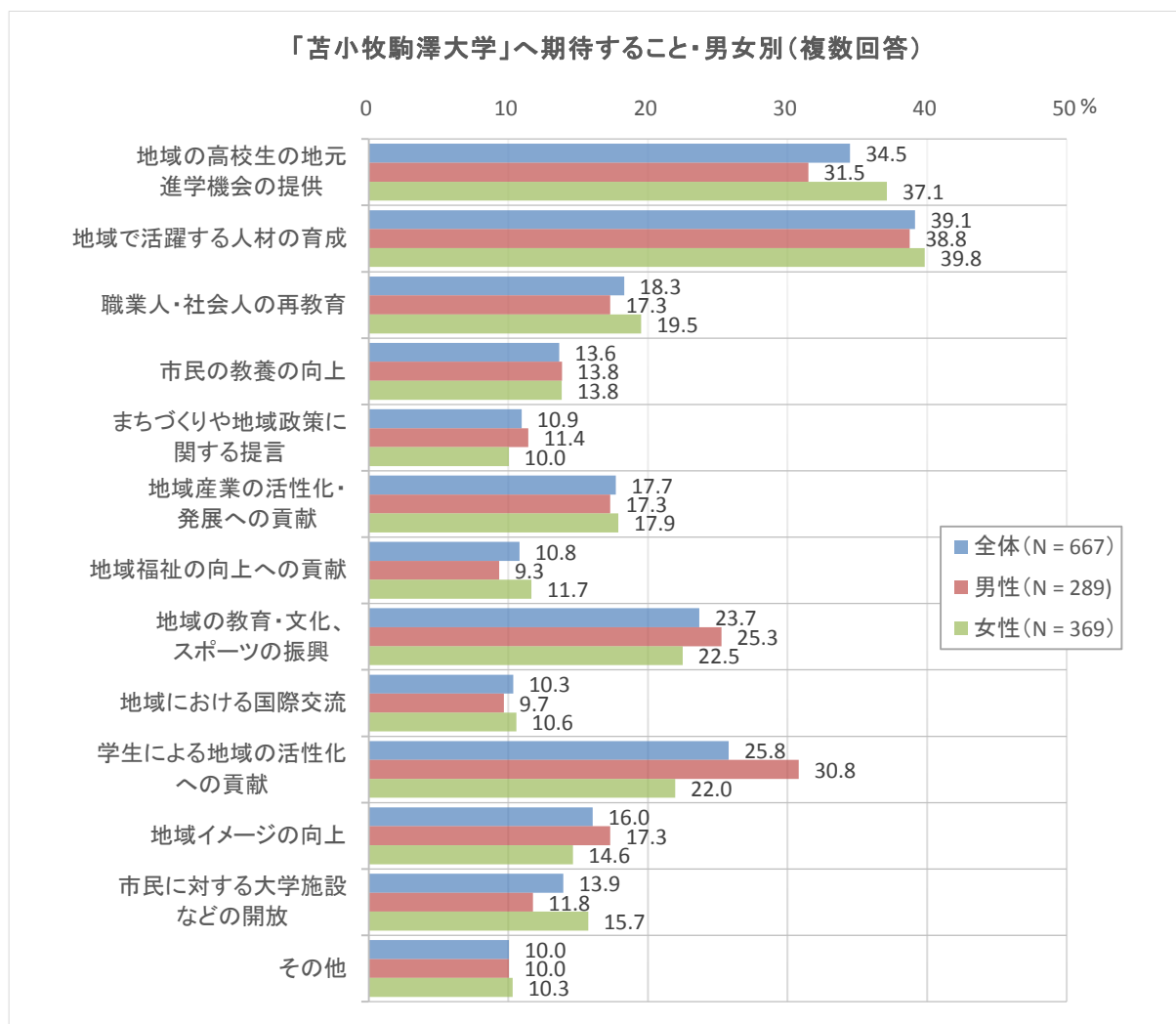
「苦小牧駒澤大学」が実施している生涯学習活動や地域連携活動の
認知度・居住地別（複数回答）



3. 苫小牧駒澤大学に期待すること

「苫小牧駒澤大学」に期待することとしては、「地域で活躍する人材の育成」が39.1%で最も多く、次いで「地域の高校生の地元進学機械の提供」（34.5%）、「学生による地域の活性化への貢献」（25.8%）の順となっている。

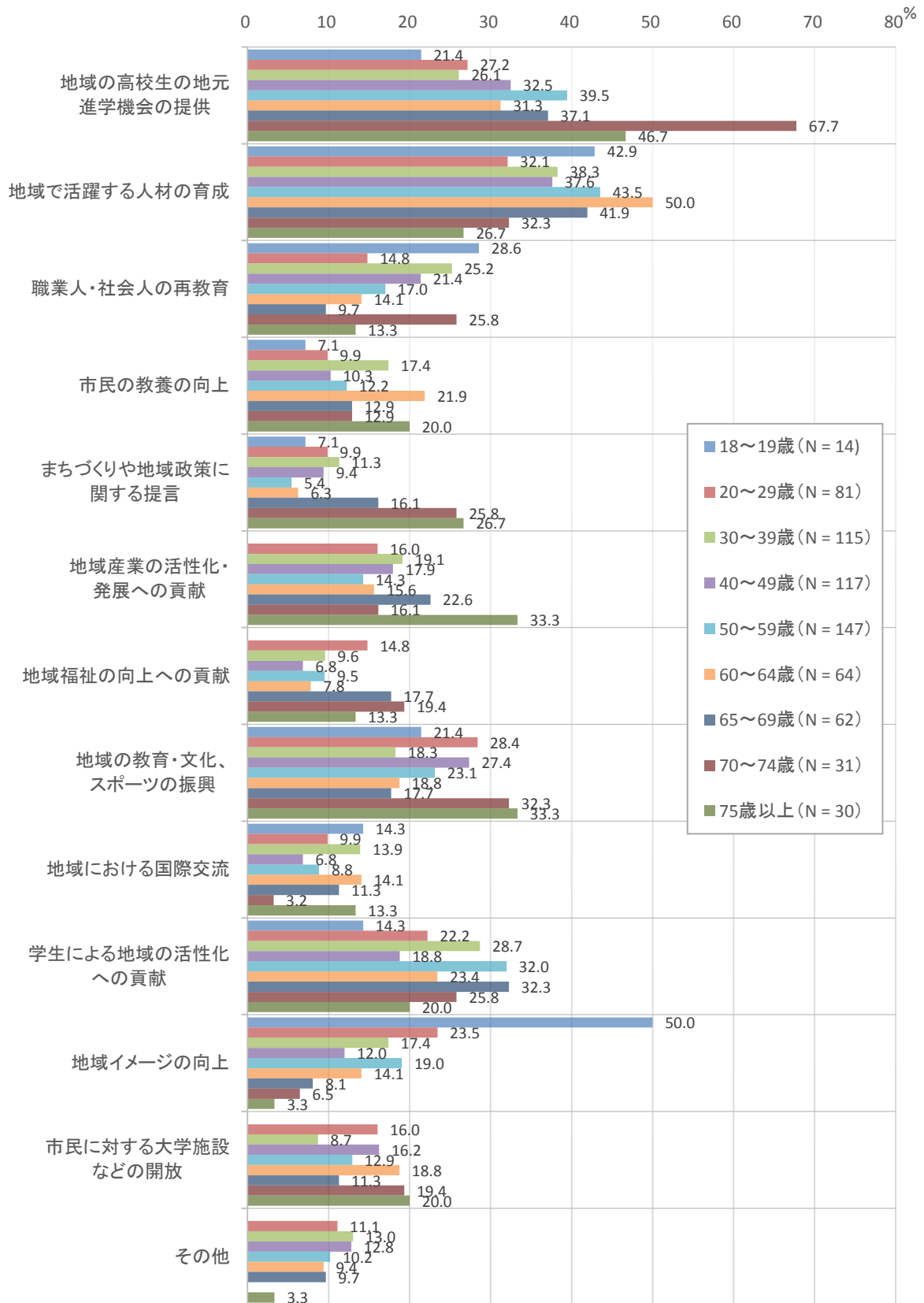
年齢別にみると、「地域の高校生の地元進学機械の提供」は「70～74歳」で回答割合が高くなっている。また、「地域で活躍する人材の育成」は「60～64歳」で、「地域イメージの向上」は「18～19歳」で、それぞれ高くなっている。



※その他の回答内容

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの向上。(6件) ・資格が取得できる(看護、栄養士、保育士、介護等)(4件) ・魅力ある学部、学科の創設。(2件) ・他の大学にはない特化した学科が必要。これからのIT化社会、AIなど仕事、職業に結びつく研究ができる学科など。(高専と連携など) ・エキスパートを育てられる大学。 ・専門的な知識に特化した大学。 ・学校運営の安定化。 ・多くの学生を集められる大学。(4件) ・子育て世代への施設開放、講座開設。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学が主催の地域交流など、大学が身近に感じられる活動。 ・窃盗事件などを起こさないような指導力。 ・遠すぎて面白くない。 ・大学ではない使い方。 ・駒澤大学よりも国立大学をつかってほしい。 ・札幌が近く、通学圏内により専門的な学校がある。現在、介護福祉士の学校に札幌まで通っている。室蘭にはあるが苫小牧には2年制がない。苫小牧は文化遅れ。 ・何も期待していない。(31件) ・わからない。(4件) |
|---|--|

「苦小牧駒澤大学」への期待・年齢別(複数回答)

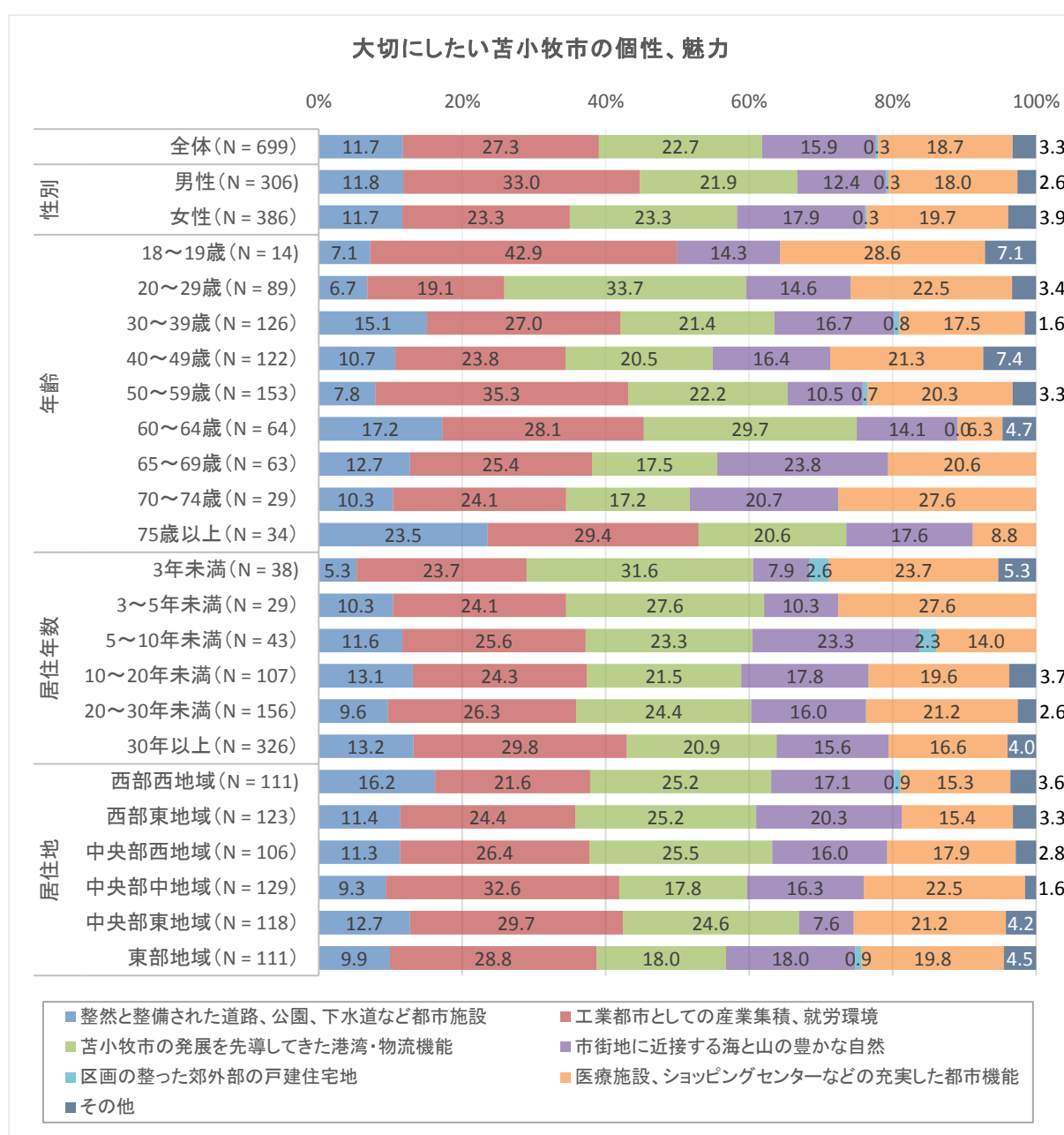


(12) 大切にしたい苦小牧市の個性・魅力

大切にしたい苦小牧市の個性・魅力については、「工業都市としての産業集積、就労環境」が 27.3%で最も多く、次いで「苦小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」(22.7%)、「医療施設、ショッピングセンターなどの充実した都市機能」(18.7%)の順となっている。

属性別にみると、年齢別では、「工業都市としての産業集積、就労環境」は「18～19歳」及び「50～59歳」で、他の年齢層より回答割合が高くなっている。また「苦小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」は「20～29歳」で、「医療施設、ショッピングセンターなどの充実した都市機能」は「18～19歳」及び「70～74歳」でそれぞれ高くなっている。

居住地別では、「工業都市としての産業集積、就労環境」は「中央部中地域」で高く、「市街地に近接する海と山の豊かな自然」は「中央部東地域」で低くなっている。

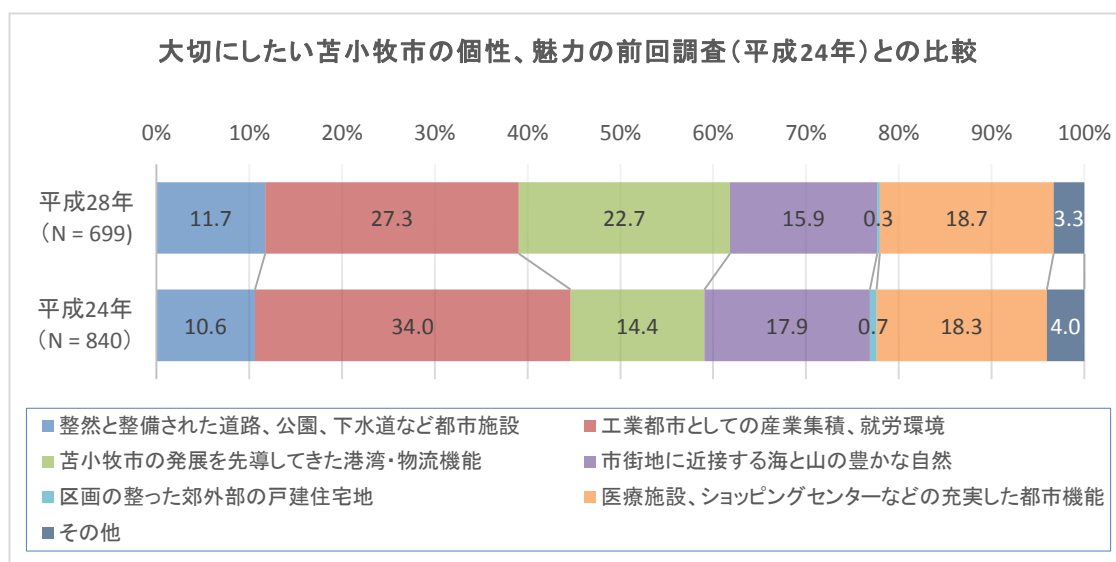


※その他の回答内容

- ・水道水の質。
- ・街路樹、防風林などの自然環境が整っている。
- ・とまチョップ。
- ・物価の安さ。
- ・空港、港湾が近くにあること。（2件）
- ・選択肢にある項目はそれなりによいが、特化したものがあればよい。
- ・苫小牧駅周辺の再開発、パチンコ屋が多すぎる。
- ・若者も楽しめる娯楽施設。
- ・観光。
- ・外灯。通学路や少ない所増やしてほしい。
- ・ない。イオンの周りに少々お店あるだけ。東部地域の人達は苫小牧で働き、お金を使うのは札幌。札幌の人に「苫小牧はどんな所？」と聞かれ「働く町」としか答えられない。
- ・特にない。（8件）
- ・わからない。

<参考> 前回の市民意識調査結果（平成 24 年）との比較

平成 24 年調査では「工業都市としての産業集積、就労環境」が 34.0%、「苫小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」が 14.4%となっているのに対し、今回調査では、それぞれ 27.3%、22.7%となり、「工業都市としての産業集積、就労環境」で 6.7 ポイント減少、「苫小牧市の発展を先導してきた港湾・物流機能」で 8.3 ポイント増加する結果となっている。

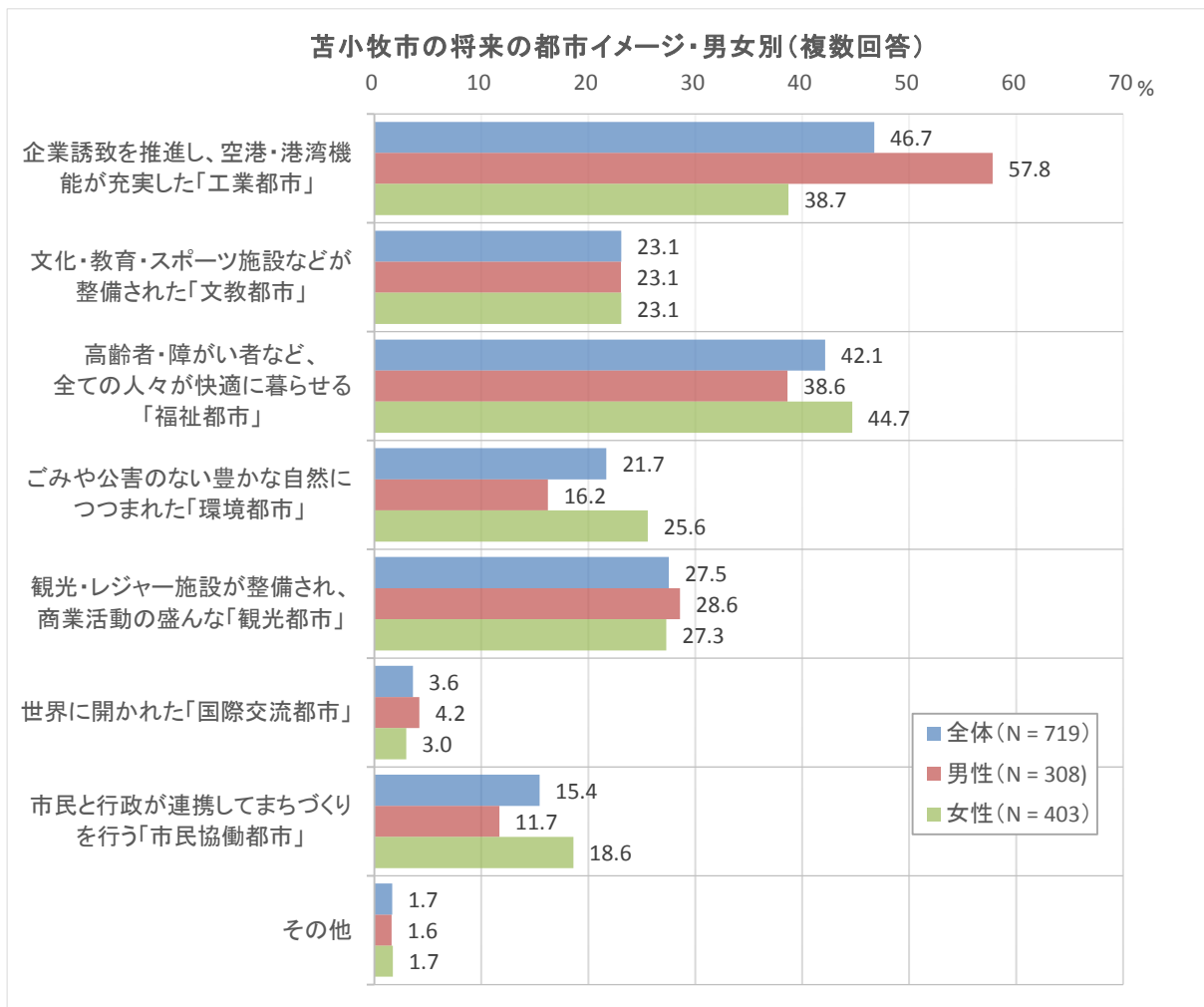


(13) 苫小牧市の将来都市イメージ、これからのまちづくりや市政の課題

1. 苫小牧市の将来都市イメージ

苫小牧市の将来の都市イメージについては、「企業誘致を推進し、空港・港湾機能が充実した『工業都市』」が46.7%、「高齢者・障がい者など全ての人々が快適に暮らせる『福祉都市』」が42.1%と、いずれも全体の半数近くが回答している。

属性別にみると、男女別では、男性の6割近くが「企業誘致を推進し、空港・港湾機能が充実した『工業都市』」を回答している。年齢別では、年齢層が上がるにつれて「高齢者・障がい者など全ての人々が快適に暮らせる『福祉都市』」の回答割合が高くなり、「65歳以上」では全体の半数以上が回答している。

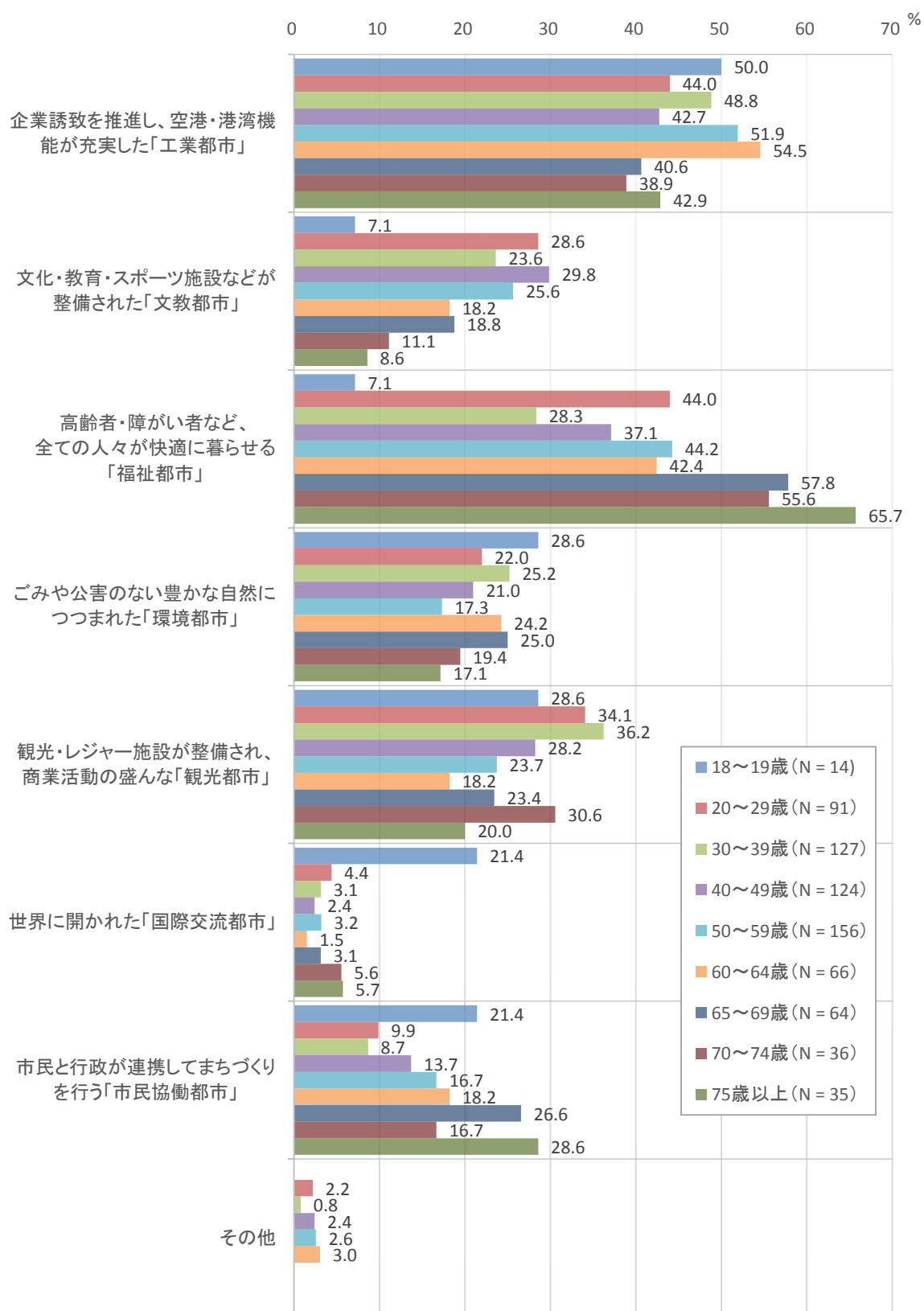


※その他の回答内容

- ・水道水の質がよい都市
- ・子育て環境が充実した都市
- ・クリーンな犯罪のない町。不正受給のない町。
- ・防犯都市
- ・避暑地としての誘致
- ・カジノを建設し経済活性化（合法になったら）
- ・生活が安定すればどれでもよい。

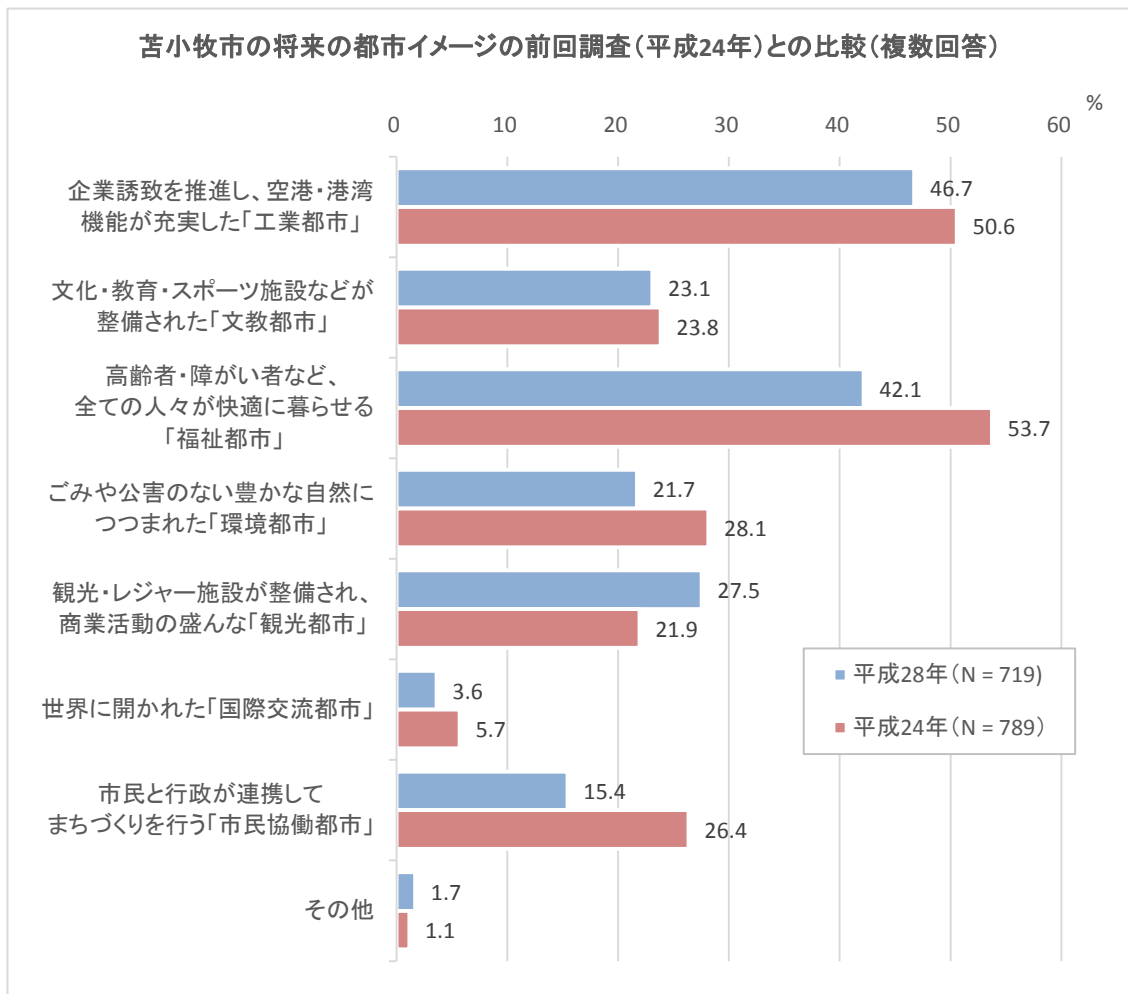
- ・アイスホッケーも人気なくなり、今はプロ野球日本ハム戦が個々の家でイベント化している。工業・港湾収入に頼るしかないのか。
- ・車がないとどこも行けないのは不便だと思う。
- ・若者が集まる場所がない。保育園が遠い。
- ・ない。
- ・わからない。

苫小牧市の将来の都市イメージ・年齢別（複数回答）



<参考>前回の市民意識調査結果（平成 24 年）との比較

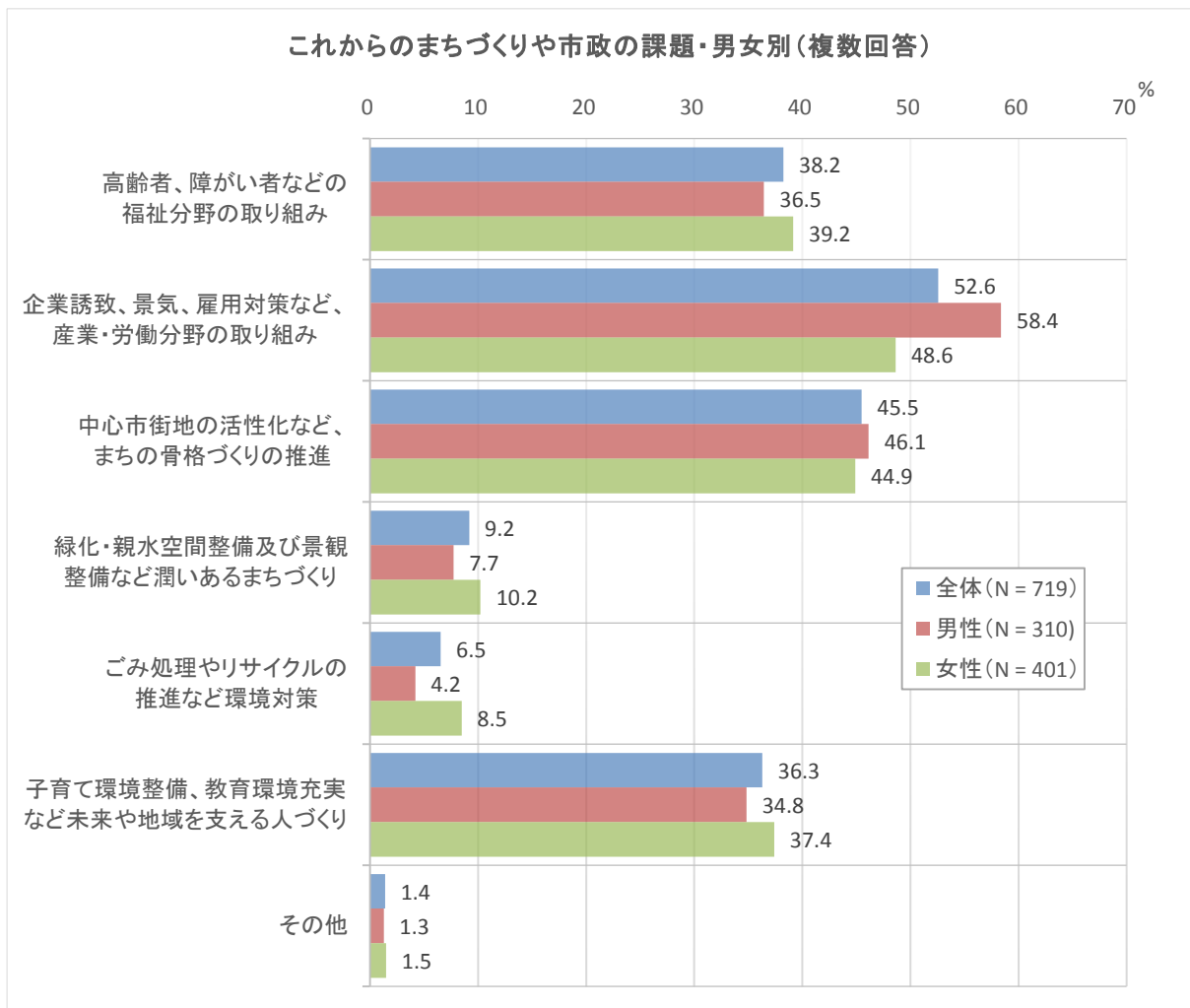
平成 24 年調査では、1 位が「高齢者・障がい者など全ての人々が快適に暮らせる『福祉都市』」（53.7%）、2 位が「企業誘致を推進し、空港・港湾機能が充実した『工業都市』」（50.6%）、3 位が「ごみや公害のない豊かな自然に囲まれた『環境都市』」（28.1%）となっていたのに対し、今回は、1 位が「企業誘致を推進し、空港・港湾機能が充実した『工業都市』」（46.7%）、2 位が「高齢者・障がい者など全ての人々が快適に暮らせる『福祉都市』」（42.1%）、3 位が「観光・レジャー施設が整備され、商業活動の盛んな『観光都市』」となり、順位・項目ともに変更している。



2. これからのまちづくりや市政の課題

これからのまちづくりや市政の課題としては、「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」が 52.6%で最も多く、次いで「中心市街地の活性化など、まちの骨格づくりの推進」（45.5%）、「高齢者、障がい者など福祉分野の取り組み」（38.2%）、「子育て環境整備、教育環境充実など未来や地域を支える人づくり」（36.3%）の順となっている。

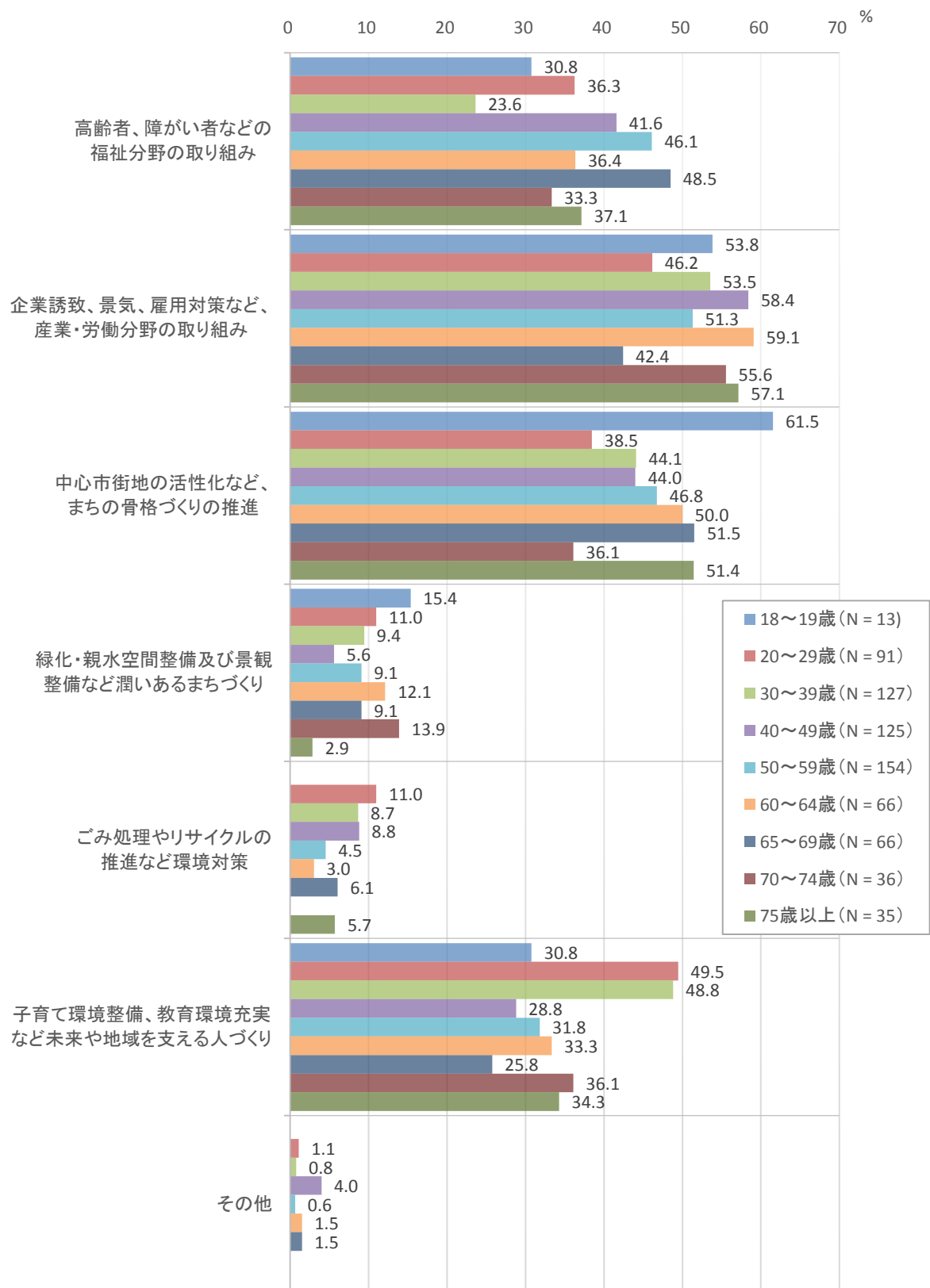
属性別にみると、男女別では、男性の 6 割近くが「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」を回答している。年齢別では、「20～39 歳」で半数近くが「子育て環境整備、教育環境充実など未来や地域を支える人づくり」を回答している。



※その他の回答内容

- ・歩道の状態が悪すぎる。特に西部エリアは路面がひび割れて最悪。また、スロープ型の縁石も路面からずれていたり、大きくかけているものがあり役目を果たしていない。市民生活の導線すら維持できないようではどんなに立派な政策を立てても無駄に終わるのではないかな。
- ・駅前を活気づけること、駅の充実が重要。
- ・観光
- ・高齢者の働く場。
- ・臭いがひどい町から脱却するための対策を。
- ・徹底した防災対策。（2件）
- ・防犯、防災に力を入れ、安心・安全に暮らせるまちづくり。
- ・夜間の暴走行為の取り締まり強化
- ・全ての課題をクリアしないと次がわからない。
- ・ない。

これからのまちづくりや市政の課題・年齢別（複数回答）



<参考>前回の市民意識調査結果（平成24年）との比較

平成24年調査では、1位が「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」（63.6%）、2位が「高齢者、障がい者など福祉分野の取り組み」（44.8%）、3位が「子育て環境整備、教育環境充実など未来や地域を支える人づくり」（37.8%）となっていたのに対し、今回は、1位は「企業誘致、景気、雇用対策など産業・労働分野の取り組み」（52.6%）で変わらないものの、2位は「中心市街地の活性化など、まちの骨格づくりの推進」（45.5%）、3位が「高齢者、障がい者など福祉分野の取り組み」となり、「中心市街地の活性化など、まちの骨格づくりの推進」の回答割合が前回調査より高くなっている。

